京城日報
其二
本日二十頁
編輯兼發行人 兒島吉治　印刷人 小川三之介
發行所 京城府太平通一丁目 合資會社 京城日報社

昭和八年を迎へて

朗暾ほがらかに四の海、國の山河を照らして昭和第八の新年をこゝに迎へたのである。年頭に當り、ひれ伏して　聖恩の渥きを思ひ、君臣の義の如何に緊密であるかを想念し、國下蒼生としての責任の重大であることを銘肝するのである。畏くも　我が至尊文仁武に亘らせ給ふ　聖上におかせられては龍顔殊に麗しく御齡三十三歳の新春を迎へさせ給ふ。まことに畏き極みであり、民草のよろこびこれに過ぐるものがない。潔齋浄身して　聖壽萬歳を唱へ奉り、皇室の彌榮と、國運の隆盛とを大神に祈念し奉る。

◇

古きを送り新しきを迎ふるは大河を劃む韻律の然らしむるところで、いま昭和七年を過去とし、昭和八年を現在として將來に待望せむとなすのは、年々歳々相繰返してゐるところで必ずしも奇とすべきではない。昭和七年は過去としてこれを葬り去るには餘りに多事多難、波瀾に富んだ年であつた。忘れむとしても忘るゝことの出來ぬ記憶が國民の胸奥に燒きつけられてゐるのである。忘るゝ能はずである。また舊年と新年との推進を事象の上に劃然とせしむることは困難である。昨日から今日への連續は斷つべくもなく斷つてはならないのである。

◇

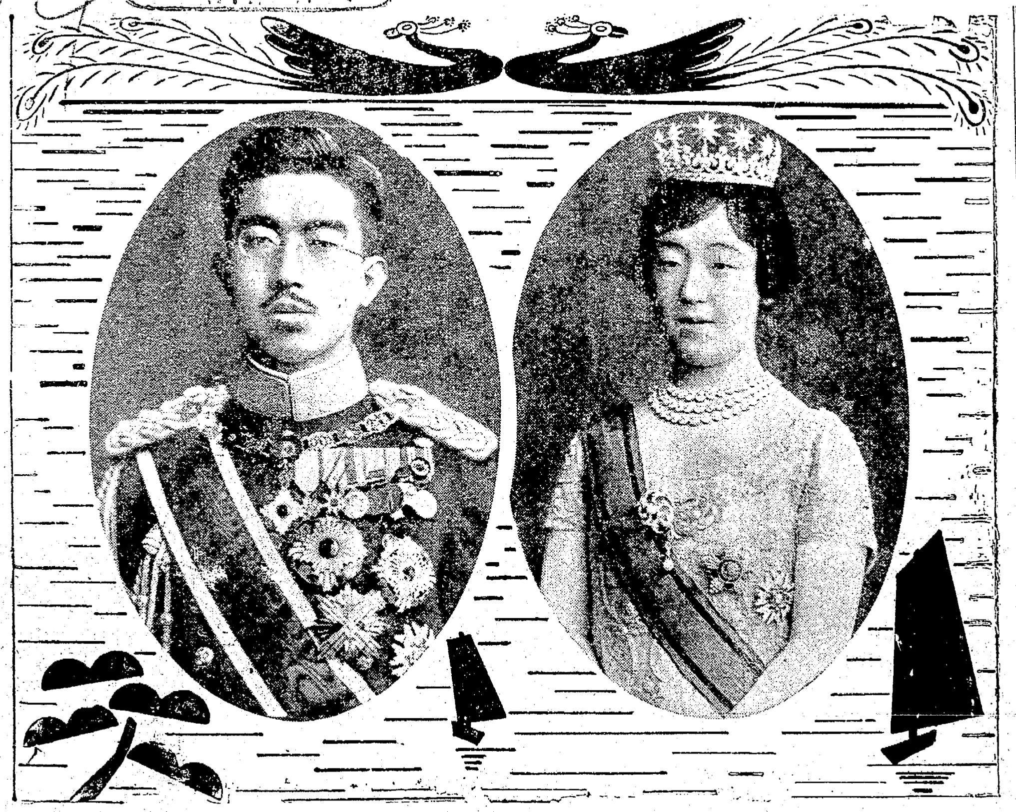
新年の劈頭に立つて昨日を顧みれば、政治に經濟に、軍事に、また思想界に於て多事多難であつたとの一語に盡きる。そのうちに最も國民の關心をよび起したものは滿洲事變の善後策に關するものであつた。而して帝國の國策が確立せらるゝや、これを遂行し或は貫徹せしめむとなす國民的努力の勃興は異狀なものがあり、眞に昭和維新として國を擧げ、八千萬國民の身命を打込んだものであつた。その緊張は今や正に酬いらるべきか、葬らるべきかの絶頂に臨んでゐる。昨日は今日へ、今日は明日へかけて須臾も樂觀は許されぬのである。

◇

國際聯盟に於ける十九ヶ國委員會は、日本に不愉快極まる印象を與へて舊臘一先づ休會に入り、本年一月十六日再開せらるゝ委員會にて日支並に聯盟間に堆積せられた問題を清算せむとしてゐる。その結果の落想何れにあらうとも日本の正義觀とその主張とは左右されるものではない。我が全國民の抱懷する信念を些かも動搖すべきではないこと勿論である。而聯盟に於ける問題の推移は今後も幾多の時日を要するであらうが、時日の遲延は我に有利に展開さるゝだらう。即ちその間に滿洲國の健全な成長が期待せられ、それから來る極東の秩序維持と平和の確立とが待望せらるゝからである。

◇

翻つて半島に於ける施政は益々圓滑さと暢達とを加へて全鮮に浸潤しつゝあり。國民精神の作興と農漁山村の自力更生は當局の鞭撻と二千萬民各自の自覺とにより日を逐ふて具體化されつゝあり、輝く曙光を見出してゐる。かくして古き礎石の上に立つて新らしき年を迎へ、清新の大氣を吸ふて日本は昭和維新の完成と國威の發揚とに力強く踏み出したのである。この覺悟とこの信念とによつて新年を壽ぎたい。新年の幸を祝福したいものである。



竹の園生

彌榮えの御姿

旭光麗かに明くれば昭和八年、竹の園生は御榮えの程いよ〳〵めでたく　天皇陛下には御歳三十三歳、皇后陛下には御歳三十一歳、皇太后陛下には御歳五十歳、照宮成子内親王殿下には御九歳、孝宮和子内親王殿下には御五歳、順宮厚子内親王殿下には御三歳、秩父宮殿下には御三十二歳、高松宮殿下には御二十九歳、澄宮殿下には御十九歳の春を迎へさせられた。

眞に畏き極み　聖上の御仁政

恐懼に堪へぬ御精勵

御威徳いよ〳〵高く拜される天皇陛下は、益々玉體御壯健にわたらせられ、九千萬赤子は、内外時局多端の昨今、特に新興日本の力強さと幸福さを覺える。

陛下には昨春は年初御恒例の葉山御避寒も御取り止め遊ばされ、ひたすら御多忙な御政務をみそなはせられた。側近者一同は、切に御靜養を希望し奉つたのであつたが　陛下には御聞き屆けがなかつた。

わけて、當時は、上海事變の勃發前後に當り、滿洲事變のいまだ解決せぬ頃とて、所管大臣の參内上奏、御裁可事項など日夜相次ぎ玉體の御休息の御時間とては御寸暇も拜せられなかつた。

◇

在外將士の御慰問――。酷寒零下二十度の滿洲の曠野に匪賊と戰ひ、わが生命線を護る滿洲派遣軍、關東軍、さては揚子江を溯航して在留邦人の生命と財産を守護する第三艦隊、外遣艦隊、支那駐屯軍の重狀とその苦難のさまを具さに視察せしめらるゝ爲めには、數次にわたつて、侍從武官を現地に御差遣遊ばされた。將士は、いつもながら聖慮の宏大に感泣し、國民はまた　聖慮の存するところを偲び、慰問に、後援に、そして銃後の憂ひなからしめて、多難な時局を經たのであつた。然るに、内外時局は、いまだ重大　陛下には常に國事に宸襟を惱ませられ給ふ。

有難き御配慮

昭和八年の二十億にあまる豫算を詳細奏答した高橋藏相に對し、陛下には種々の御下問があつた。『この頃はどうか？身體を大切にするやう』と藏相は感泣して退下した。昨年初夏には、例年ならば地方行幸があつた。いまだ玉歩を印し給はぬその地の產業、教育、社會事業施設等が、どういふ風に進められてゐるか。文化はどの程度に浸徹してゐるか――などを、親しく天覽遊ばされるのである。ところが、産業不振、農村不況等を思召され、御取り止めの儀を仰出された。地方が　陛下の行幸を拜し、何かと、負擔が重つては、反つて迷惑であらうとの御思召からである。昨秋大阪、奈良地方で行はれた陸軍特別大演習にも、最初は地方行幸を遊ばす御豫定はなかつた。演習する上に止むを得ぬ費用の要るのは仕方がないとして、行幸に關する物は不要理といふことになつた。そして斷すべき物は、行幸御延期中では絶對に負擔をかけぬやうとの御沙汰があつた程である。從つて今迄に例のない獻上品の不受理といふことが現れた。大演習行幸を記念し奉つて、例年大演習行幸地では、數百點にのぼる獻上品があつた。九十翁の盆栽だの、盲人が織つた卓子掛の如き、光榮に赤誠こめて謹製した製作品が交つてゐた。これも勞力の無駄とて、お買上げといふ形式で、これに代へさせられた。

國際聯盟支那調査委員リットン卿以下が來朝した砌れは、宮中でも國賓にも近い御待遇を遊ばされた。國際聯盟の交渉竝に滿洲國について特に御懇談遊ばされる。凱旋の陸海軍將軍には勅語を賜はり、其偉大なる功績と勲功とを勞はせられた。戰死者の御慰靈の爲めには、親しく靖國神社に行幸遊ばされた。かくてこそ護國の鬼となつた勇敢なる陸海將兵の靈も永遠に地下に瞑するであらう。

◇

また國民が時局匆忙のうちに、昨夏ロスアンゼルスに開かれた第十回オリムピック大會への關心は、わが出場選手の精選されたチームの外に、美しいスポーツマンシップの發揚の期待があつたからだが、あの素晴らしい戰績は、選手出發に先立ち、派遣補助費を下賜、『國際親善に盡すやう』との御沙汰があり　聖旨に感激した爲め期待に副へたのである。スタヂアムに幾度の日章旗を揚げさせた堂々たるわが選手の態度を各國民が賞讚したのもみな　聖恩の然らしむるところであつたであらう。

◇

疲弊農山漁村救濟については宮中でも、かね〴〵御心にかけさせられてゐた。殊に救濟こそ一日も忽にすべからざる施設と内務省をしてその實狀を調査せしめられ臨時議會の開會も待たせられず、三百二十萬圓の賜金あり、更に學術研究獎勵費として別に百五十萬圓を賜はつたのであつた。

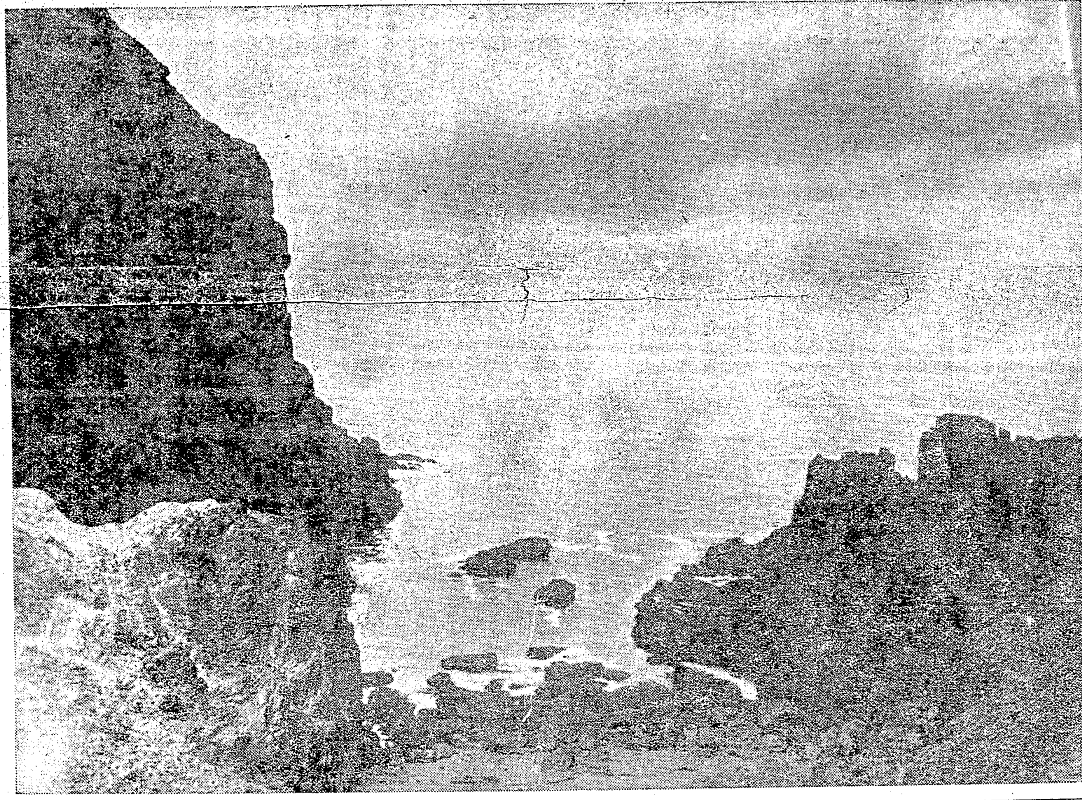
◇

かく　陛下の御仁慈、御威徳を讚仰し奉るうちにも、昨秋の大演習觀兵式に、風雨を冒され、御風邪氣味の玉體を以つて、諸兵を御親閲遊ばされ、四萬二千の將兵に深き感銘を與へさせられた御事などに至つては、まことに恐懼に堪へない御精勵さと申上ぐべきであらう。

陛下は今や、九千萬國民御敬崇の中心であらせらる。

勅題『朝の海』

本社寫眞部撮影



皇太后陛下

只管御謹愼の御起居

皇太后陛下には大正天皇崩御以來、只管御謹愼の御起居を、青山の大宮御所に於て遊ばされ、毎朝伊勢神宮、桃山御陵等と共に先帝の神靈まします多摩陵を御遙拜遊ばすことは勿論、毎月廿五日の御命日には女官を多摩陵に差遣はされて御代拜仰付られ、御親らも時折行啓御直拜あらせられて御冥福を祈らせられて在はすが、本年春は伊勢神宮、桃山御陵等に御參拜の爲、行啓あらせらるゝやに承る。

御婦徳高き　皇后陛下

婦道の龜鑑として　範を垂れさせ給ふ

皇后陛下には　國母陛下として晴れの御儀式をはじめ、内外使臣の賜謁等の御行事の外、傷病兵御慰問、全國乳幼兒御愛護、歳末診療施設下賜等に御心を注がせ給ひ、御婦道として　天皇陛下の御身のまはりや、照宮、孝宮、順宮三内親王樣の御養育に御心を碎かせられ、照宮樣の御殿、宮城本丸の吳竹寮へも　天皇陛下と御同列で行啓、殿下の御修學の御模樣をみそなはせらるゝことも屢々あり、又皇族殿下と宮中との御親睦、さては御交際に至るまで、畏れ多くも一家の主婦の如く　國母陛下としての御つとめを全うさせられ、その範を廣く臣下にまで垂れさせ給ふのである。なほ　陛下にはかゝる御多忙の御かたはら、御修養の道も捨てさせ給はず、毎週月曜と金曜の二日、加藤虎之助氏を召されて漢文の御講義を熱心に召されるのを御事とされてゐる。

御軍籍の兩皇弟殿下

澄宮樣は騎兵御志望

秩父宮殿下には陸軍歩兵大尉、高松宮殿下には海軍大尉に在はし、また澄宮殿下には御將來騎兵を御志望あらせられて目下陸軍士官學校豫科一年に御在學中である。秩父宮殿下には皇族の御首班としてすべての御儀に御出ましあらせらるゝ等御多忙に在はすが、御軍務には極めて御熱心で目下は參謀本部の御勤務である。高松宮殿下には去る十一月目出度く海軍砲術學校を御卒業、今後は軍艦高雄に乘組ませられ海上の御勤務に就かせらるゝことゝなつたが、陸に海に三皇弟殿下の在しますことこそは帝國の將來を一段と安固にすべき御事柄であつて上下萬民の齊しく敬仰し奉るところである。

元旦曉闇の中を　四方拜御儀

更に歳旦祭に出御　次で拜賀を受けさせ給ふ

昭和聖代第八春の元旦、宮中では新春の大地おほらかに明けそめる午前四時半、若水にて御淨身、黄櫨染の御袍を召された　天皇陛下には同五時半といふに綾綺殿から賢所神嘉殿に出御、御笏を正させ給ふて伊勢神宮をはじめ四方の神祇、山陵、桃山、多摩の各御陵並に熱田神宮以下の敬社を御遙拜、重大時局に直面してゐる國家の安穏、萬民の多幸を御祈念、續いて歳旦祭に移らせ庭燎ほの〴〵と燃え御神樂とゞろ〳〵と響きわたるうちを賢所、皇靈殿、神殿に御づき給ふ。

神々しき御鈴の打振ふ音元旦の大内山、神域のほとりは大古のしゞまに似て、御拜は天明ほのじろく同六時御終了陛下入御遊ばさる　皇后、皇太后兩陛下はこの間御内儀で御遙拜の御由である。

かくて新春の陽光照り輝く午前十時　天皇陛下には　皇后陛下御同列にて鳳凰の間に出御、御椅子一、二の間より御儀の間に御參進の秩父宮、高松宮兩殿下をはじめ奉り、各皇族殿下と御對面、年の初めの御慶を受けさせ給ひ、續いて正殿にて西溜間より參進の各大勲位、齋藤首相、各國務大臣、貴衆兩院議長以下各顧問官、親任官、各有爵者等夫人同伴の文武顯官に對し數度にわたり拜賀を受けさせ給ふ。

この朝　陛下には輝かしい大勲位菊花章その他數多の勲章御佩用の仰ぐも畏き大元帥の御正裝　皇后陛下にはマント・ド・クールのトレーンを召させ公達に捧持せしめられた楚々たる御洋裝にておはす、拜賀の諸員は　兩陛下の御健勝の御姿を拜して竹の園生の彌榮を喜び讚ぎ奉るのである。

御勉學の照宮樣

孝宮樣と順宮樣は　御健やかに御發育

第一皇女照宮成子内親王殿下には女子學習院御入學最初の新年である。殿下には昨年三月兩陛下の御膝下から宮城内吳竹寮なる御殿を新設御別居遊ばされてゐるが、四月女子學習院前期一年に御入學以來專ら御勉學にいそしませられ、この頃は午前九時から午後一時半迄を學窓に過ごされる。學習院では全く一般生徒同樣御級友四十九名と共に教育を受けさせられてゐるが、一方御殿に於ても藤井御養育掛長、野口事務官、加納養育掛等が奉仕して御養育申上げるほか、毎週火木の二日は御級友の中から數名づゝが參殿御相手申上げて御修學遊ばされ、また嚴寒に入つたこの頃でも、藤井掛長、野口事務官等が御相手申上げてラヂオ體操を遊ばされ、御規律正しい御起居の程は、學友の御手本となつてゐる。孝宮、順宮兩殿下にはまだ專ら御養育の御時代であるが、時折吳竹寮に御姉宮成子内親王殿下を御訪問御三方御仲よく御遊戲など遊ばされると承る。

東洋開運の先驅　更生樂土の建設へ

半島官民の一致協力を望む

宇垣總督年頭の辭

茲に昭和八年の春を迎へ疆内二千萬同胞と共に謹みて　聖壽の萬歳を祝し　皇運の隆昌を祈り奉る。

予は朝鮮に於て茲に第二回の春を迎へたのであるが就任當初より引續いて内外多事今や世局は益々重大を加へつゝある。即ち外は國際關係に於て容易ならざる立場に在り、内は思想方面に於ても經濟方面に於ても其の歸趨輕視を許さざるものがある、就中經濟方面は我が國が世界的不景氣の圏内に引入れられて以來、久しく不振を極め諸般の對策樹立、就職難等の如き緊急解決を要すべき問題續出し、殊に窮乏せる農村の匡救は現下喫緊の要務であつて、舉國官民協力し、自力更生の大旆を翳して國家の自覺自働を促し、根本的に恒久的にこれが振興を期し各地相競うてこれが徹底に努めつゝある。

民衆の生活安定、福利增進は統治の要諦であつて、朝鮮に於ける凡百の施設はすべてその基調をこれに置いて居る、特に予は就任の當初から産業就中民衆の最大多數を占有する農村の振興を以て統治の根基となし、當事者を督勵して種々の經營施設せしむる所があつたのであるが、これが徹底を期し其の完備を求めんが爲には官民一致整然たる組織と統制を以てこれが實行に當るの緊要なるを確認し、昨秋朝鮮の實情に即したる指導の原則、即ち自力更生國民精神作興に關する綱要を示し、本府を中心として道・各郡島・各邑面に亘る系統的機關を設け、一般精神の教化施設と相待つて官民一途心血を傾注し刷新努力以て成績の發揚を期し來つたのである。

これを最近各道に於ける社會教化及農村振興の實況に照すに、概ね何れも相當の成績を示し頗る多數の住民をして愈々に感奮せしむるものがある。既往の態度を一新し真摯な努力を捧つて自己の運命を開拓しつゝある。現時の逞しい努力を以てこれを推せば、今後數年ならずして更生樂土の建設は行き詰れる内地よりも一步前に卸つて朝鮮に依つて先鞭を着けられ、彼の王道建國の滿洲の樂園建設の範はこれを朝鮮より採らしめることを信ずるのである。而して朝鮮には資源の豐富を有しながらも十分にこれを開發し、これを利用し得ざりし朝鮮には實に輝しい將來がある如き未來が無いと誰か斷言し得るであらうか。

予は開春第一、皇化逾加はり進展に洋々たる前途を有する朝鮮に住居する官民の益々奮勵して朝鮮繁榮の建設に努め、東洋開運の先驅となり、聖代の和平幸福を享受せんことを冀うて已まない次第である。

學良軍閥の態度に 嚴重警告を發す
卅一日陸軍當局から

【東京電報】熱河問題につき陸軍當局は卅一日重大な決意を發表することゝなつたが、その警告は大要左の意味を明かにし嚴重なる我態度を宣示するものである

學良軍閥は熱河省境に兵力を侵入せしめ、同省の奪取を圖るに對し、滿洲の治安維持に任ずる我軍は嚴重なる警告を與へんとす、學良は北支一帶に漲る反蔣機運の轉換をはかるため對日強硬態度を採り、第三次全國中央全國會議に於ける決議の實行を爲さんとす斯く學良が熱河奪取を企て全滿搅亂を企圖するの態度を改めざる限り、我軍は已むを得ず積極的實力行動に依つて解決を圖らねばならなくなる、一度熱河地方に於て軍事行動を起すに於ては勢ひの赴く處、遂に北支一帶に作戰行動を採らねばならなくなるやも量り難し、この責は一に學良軍閥に存する

學良軍の熱河入り

【北平卅日發電】南知鄙郎坊にあつた張學良軍の第十六旅全軍は熱河入りの命令を受け通州、玉田を經て遵化口にむけ移動を開始した、西北にあつた第十八旅二十三ヶ團は平漢線を横斷、廊坊方面に移駐、省境にあつた學良軍中四ヶ旅は一月中に全部熱河省内に入り込む形勢である

中央政治會議 蔣も出席か
熱河問題等を協議

【上海卅日發電】國民政府は一月四日第一回中央政治會議を開催し熱河問題、行政委員長問題等の重要協議をなす事となつたが、目下浙江の奉化に歸郷中の蔣介石も同會議に出席する模樣で、會議の結果が注目されてゐる

又も排貨
排日形勢憂慮

【北平卅日發電】北平各學校代表者は廿九日午後三時より聯合協議會を開き協議の結果僞軍援助のため大々的に義捐金の募集をなすに決した、一方總商會は抗日會と協同して沒收日貨の諸物金及び日貨取扱者から取上げた罰金を僞軍に送附すると共に、此種基金を得るため今後益々日貨の沒收を勵行するに決した、斯くて一時鎭靜の感あつた排日は却つて過激の形勢となり、平津方面では不祥事態を憂慮してゐる

宮中の大晦日
節折・大祓・除夜
崇嚴な諸儀を行はす

【東京電報】慌だしく暮れゆく歳晩大晦日、宮中に於かせられては卅一日午後より崇嚴な數々の御儀が行はせられる この日 天皇陛下には、午後一時神々しき雪白の御小直衣を召されて鳳凰の間に出御 皇后陛下の御贖物も供し奉り式部官侍從奉仕して古式床しき節折の儀を行はせられ、次いで同二時からは賢所前庭に各宮廳勅任官總代参列掌典出仕の上、大祓の儀を行はせられ、更に五時からは賢所皇靈殿、神殿にては厳かなる除夜祭が夜をこめて行はせられるなほ 皇太后陛下の在はす大宮御所に於かせられても古例床しき除夜の儀を行はれる趣である

民政の掲げる 四大政策
黨大會に於て決議し 今議會に臨む方針

【東京電報】民政黨は既に黨議として決定した新政策中特に通貨、財政、產業統制の四大政策は我が財界建直のため絶對的に必要なる對策であるとなし、今議會には豫算問題に關聯して小川郷太郎、川崎克、中島彌團次、田中貢の諸氏が十分政府に質問を試み

松岡代表 卅日ローマ着

【ローマ卅日發電】水の都ヴェニスを廿九日午後三時十分出發した松岡氏は、卅日午前九時ローマに無事到着した、氏は一月四、五日頃迄滯在し其間ムッソリーニ首相と會見する豫定である

露國駐支公使
ボ氏に決定

【南京卅日發電】國民政府はロシア初代駐支公使としてドミトリ・ボグモロフ氏を承認本日正式に通告した ボグモロフ氏は現に駐英公使館參事官で着任期は未定である

併せて黨の主張の實現に努むることゝなつた、從つて來年一月二十日の黨大會に於ては特に政策決議として右四大政策を掲げ、休會明け議會に臨むに當り豫め黨の態度を明かにして進む方針である

歸任の 出淵大使
記者團に語る

【ワシントン廿九日發電】廿五日賜暇歸朝より歸任の駐米出淵大使は廿九日國務省を訪問し、國務次官カッスル氏並に同省部長ホーンベック氏と會談辭去した、同大使は本日記者團に對し賜暇歸朝中得たる感想を次の如く語つた

日本も世界の他の諸國と同樣不況を痛感してゐるが併し滿洲國の經濟狀態は頗る滿足すべき狀態にある、滿洲國執政が前皇帝の地位を回復し、滿洲のみならず北支那全土に君臨するであらうとの報道が傳へられてゐるが斯かる報道は全く根據なき報道である、日支紛爭問題は今や聯盟の手に委ねられて居り從つて予の關知するところではない

日蘇不可侵條約と 陸軍側の見解
滿洲國正式承認其他 誠意を披瀝すべきだ

【東京電報】日蘇不可侵條約締結問題は、廿八日駐日トロヤノフスキー大使が内田外相を訪問し再提議を豫告したことによつて、新らしき展開を豫想されるに至つたが、右に關し陸軍側では左の如き見解を抱いてゐる

ソヴエート側が新條約を締結することが眞に日本との親交增進となり、惹いては極東平和に資せんとするものであるとの理由から再提議するものであるならば、先づ代償として滿洲國を正式に承認し善き隣邦たる態度を明確にすると共に、多年日蘇間に紛爭の種となつてゐる樺太の油田問題及び北洋漁業問題等の重要懸案を解決するといふことを條件とすべきである、斯く蘇側が誠意を披瀝した時に於て初めて吾人は一定期間の不可侵條約を締結する用意を有するものである、而して蘇側が之等の條件を受諾せざる時は相互の間に和解の一致を見る迄、當分時期を待たねばならない

大審院異動
六日發令の筈

【東京電報】大審院刑事第三部長中西用德氏は二十一日を以て滿六十三年の停年に達し退職となるので、その後任は左の如く決定、上奏御裁可を仰ぎ一月一日附で六日發令される筈である

大審院刑事第三部長 中西用德

停年退職

大審院民事第五部長 濱淵 渉雄
補大審院刑事第三部長 大審院判事 三橋 久美
補大審院民事第五部長 大阪地方裁判所部長 池田 壽雄
補大審院判事

大阪毎日社長 本山氏逝去
卅日夕堺市の別邸で 葬儀は六日午後執行

【大阪卅一日發電】大阪毎日新聞社長本山彦一氏は廿五日午前二時堺市三國丘の別邸で突然左顏面と左上肢に知覺鈍麻し、言語と食物嚥下に障害を來したため直に棚橋醫師その他の來診を求めて手當を施したが意識頗る明瞭、たゞ輕度の發熱を伴つたので、令嗣眞雄氏並に幸子夫人はじめ家族近親等枕頭につき切つて看護につとめ一時經過良好であつたところ、卅日午前九時俄に容態急變し同日午後六時には全く危篤となり、醫師の手當も甲斐なく遂に同六時四十五分心臟麻痺を併發し家人その他にみまもられつゝ眠るが如く大往生を遂げた、享年八十、遺骸は同十時四十五分大阪府下濱寺町羽衣の本邸に運ばれ安置された、尚告別式は一月六日午後二時から大阪市天王寺本坊に於て大毎社葬により執行することゝなつた(寫眞は生前の本山彦一氏)

故本山氏略歷

【東京電報】逝去した本山大毎社長の略歷左の如くである

嘉永六年八月十日熊本市東子飼町に生れ十九歲の時上京、廿七歲兵庫縣四等屬を振り出しに官途に就いたが三年にして辭し、三十歲大阪新報に入り卅一歲時事新報總編輯に轉じ、卅四歲時事を辭し大阪藤田組に入り、卅七歲大阪毎日新聞相談役に就任、五十一歲社長となり藤田組を退く、五十九歲菊子夫人逝き東京日々を毎日電報と合併、財團法人大阪毎日新聞慈善團を組織し六十三歲勳三等に叙せられ瑞寶章を賜ける、七十六歲佛國より勳章を授與され御大典に際し民間功勞者として勳二等に叙せらる、七十八歲勅選議員に任ぜられ今日に至つた

痛惜の至り
齋藤首相談

【東京電報】本山彦一氏の逝去に際し齋藤首相は語る

本山氏の訃を聞いて痛惜に堪へぬ、國家のため陰に陽に盡力せられたことは數へるに遑がない最近對外運動にも大いに盡力されてゐたことは世にかくれなき事實で、突然の計報で哀悼に堪へない

米日爲替
廿弗六十八仙

【ニューヨーク卅日發電】米日爲替は十三仙安の三十ドル六十八仙と市況ぼんやりである

爲替市場

【東京電報】三十日の爲替市場に於ては紐育の回電は十三仙安を傳へ、三十弗七十五仙と前値に比し二十五仙安を入れて昨日引値に對持合で寄付對米二十弗八分の五買、二十弗十六分の十三乃至八分の七賣、對英一シリング二ペンス十六分の十五賣一シリング二ペンス十六分の一買を唱へて始まつたがその後上海米日クロス令觀寄付二十弗六十六仙と前日引値に略持合相場を入れた以外新規の材料なく閑散裡に持ち合つた、なほ正金のアクセプタンスレートは對米二十弗八分の五、對英一シリング二ペンス十六分の十五であつた

謹賀新年 宇垣一成

謹賀新年 今井田清德

有する問題であるが、之に就てはいづれ政府主務省側と基本的協議を遂げた、後に決定されることとなるだらう、たゞ產業の中心が米の一本調子に偏することは頗る危險である、この點は當局としても考慮してゐる、然し日本は現在でも米不足の趨勢であつて、要は米の需給と經濟關係の調節にあるだらう、對滿洲問題も朝鮮と深い關係があり、昭和八年は益々多事となる事は豫想に難からぬ有樣であるけれども、滿洲國の治安の安定を得次第移民問題を始め交通、產業貿易あらゆる方面に解決を期せねばならぬ

產米增殖計畫

を多少緩和するか、否かの問題も各方面に甚大な影響を與へることであつて豫算關係とも密接な性質を

量が豫定の五十萬石を去る事遠く、數字的には不成績であるとが果して買上の目的を達してみるかどうか、色々の見方もあるだらうが、之によつて少くとも鮮米の移出が調節されてゐるならば成功である、米穀統制問題に關聯して朝鮮產業の根本方針とまでなつてゐる從來の

米穀統制問題は 大體有利に解決
明年度豫算も一先づ片附いた
釜山で 今井田總監語る

【釜山特電】昭和八年度朝鮮豫算並に米穀統制などの重大問題に就いて折衝解決を圖るため、月餘に亙つて滯京、政府及び關係方面と交渉を重ねてゐた今井田政務總監は諸問題の折衝も大體片づき、押し詰つた卅一日朝釜山上陸、渡邊知事、大島府尹、松下殖産部長その他官民の出迎への中に、令孃同伴鐵道ホテルに入り、朝食後、午前九時十分釜山驛の第七列車で京城へ向つたが、釜山に於て今井田政務總監は語る

多事であつた本年も去つて愈よ昭和八年を迎へることになつたが、朝鮮と至大の關係にある明年度の豫算も殆ど難産された通り片づき

米穀統制問題も頗る難許可制を削除して大體に於て有利に解決される結果となつた、たゞ之に伴つて今後は經濟統制の徹底を期するためには、米穀倉庫、低利資金の運用に留意せねばならぬ、然し之等の施設に關しては前委員々開催される朝鮮、台灣農林、大藏、拓務關係方面によつて組織される特別委員會で協議せねばならぬ、朝鮮に於て現に實施されてゐる鮮米買上の數

通信事業 特別會計法案
兩相の諒解成立
今議會提出に努力

【東京電報】遞信省多年の懸案たる通信事業特別會計法案について遞信、大藏兩當局間に折衝中であつたが右法令案の細目に亙つては大藏、遞信事務當局間で明年一月早々解決を期することゝし左の大綱は高橋・南兩相

間の完全なる諒解が成立した

一、該案の議會提出は遞信省の意思を尊重して必ず本議會に間に合ふやう努力すること

一、特別會計の實施期は附則に明記して昭和九年度より施行す

一、電信電話公債利子は既發公債の分を含めて特別會計に於て支辨すること

一、郵便貯金事務取扱費は一般會計より特別會計に繰入ること

一、通信事業に關する營繕費は特別務は特定のものに限り之を特別會計の所管とす

一、一般會計への繰入額は十年後にその時の財政狀態に依り還付す

日銀發行高 新記錄

【東京電報】卅日に繼越された日銀帳尻によれば兌換券發行高は十四億五千三百六萬圓と昭和五年千七百十四萬五千圓を突破して、米以來の最高記錄を作り、二千七百九十萬二千圓の制限外を示現するに至つたが、これを昨年の同日に比較すれば七千四百十萬四千圓の大激增で、增加理由として次の如き事情が舉げられてゐる

一、一般物價の高騰に伴ひ商取引の單位が擴大したこと

二、インフレーション政策の徹底化の影響で產業界の特殊部門に於ては中間景氣を示現するに至つたこと

三、毎日の手形交換高の增勢に徴して明らかなる如く資金取引の增加傾向が漸次普遍化されつゝあること

然しながら最高發行高は十五億圓以内で越年するものと觀測される、一方貸出高も千七百四十三萬四千圓を激增して八億圓臺を突破し、八億七百二十一萬七千圓となつたが、これを昨年の同日に比較すれば實に二億六千二百八十一萬二千圓の激增である

蜂須賀侯爵
卅一日朝逝去

【東京電報】前德島藩主貴族院議長從一位勳一等侯爵蜂須賀正韶氏は、卅一夕突然二田の屋敷に於て腦溢血を起し手當の甲斐なく卅一日午前三時五十分逝去した、享年六十二歲(寫眞は故蜂須賀侯)

春を囀る 鶯の聲
園公邸を覗く

【興津電報】慌しかつた昭和七年も今日限り暮れやうとするうら淋しき師走の卅一日天下の元老西園寺公邸を覗くと、帝都テロ事件以來警官憲兵二十名を以て晝夜の別なく物々しい警戒に朝を迎へ夕を送る坐漁莊も新春の訪れは間近に迫つてゐる、殊に公は明春は八十五の高齡八度目の酉年を迎へるので公の好みで世族の風習に拘泥しない同邸も流石に浮立つて見える、熊谷執事の指圖で漿はらひに小使ひの幸さん初め、出入の男衆お氣入りのおあやさんまでまじり忽動員、料理場には灘の生一本の樽が春を待つてゐる、老公は最近健康極めて順調で晩酌二合はかかさぬ由、新春早々例により孫達をつれて來る八郞氏夫妻を迎へお爺さん氣分にしたる日のやさしい心遣までの準備が出來てゐるさうだ緣側では手飼の鶯が春待ちに囀つてゐる

氣配閑散

【東京電報】爲替レート後場引値は寄付に變らず氣配持合閑散

米倉入庫卅萬石

米倉入庫米は遂に三十萬石に達したが前年の約半數である

會

▲眞人社新年短歌會 一月三日午前十一時本町二丁目本ビル三階にて開催、會費金五十錢當日持參

あすの天氣(1)

低氣壓は日本海中部にあつて北東に進行しつゝあり京城方面の大陸高氣壓は非常に發達して攝氏七八〇ミリを超え朝鮮方面に擴がつて來た北鮮は晴その他は曇り勝ちの所が多く氣温は昨朝より三度内外下つた明日は天氣はよいが寒い

北西の風晴

朝	卅一	正午	零下
卅一	正午	零下四・二	
卅	正午零下	六・一	

多門師團凱旋
卅一日朝

【上】京城驛樓上に於る祝☐☐放送【中】同プラットホームに於る多門師團長の挨拶 ☐離城を見送る宇垣總督、川島軍司令官、梅崎第

滿洲・聯盟・軍縮特輯・新春倍大號

外交時報

日本の將來……半澤玉城
國際紛爭と所謂平和機構……全權大使 松田道一
フーヴァー主義の檢討……法學博士 立作太郎
不侵略條約の本質……東大教授 横田喜三郎
最近外交の展望……高田元三郎
國際聯盟と列國の立場……法學博士 神川彦松
聯盟總會と滿洲問題……西澤英一
聯盟脱退後に來るもの……法學博士 松原一雄
聯盟脱退と委任統治問題……北大教授 田岡良一
國際聯盟と小國の動向……町田梓樓
聯盟平和主義の檢討……陸軍大佐 本間雅晴
皇道覇道の社會史觀……經濟學博士 田崎仁義
米國新大統領と日本……關西教授 神崎驥一
戰債問題と米國……關大教授 生島廣治郎
大戰爭の『責任』……東大教授 宮澤俊義
最近國際政局の動向……法學士 佐藤忠雄
日滿人口統制に就て……法・農學博士 高岡熊雄
滿洲國法權擴充の現階段……岸田英治
呼倫貝爾事件に就て……商大教授 谷壽夫
滿洲の機會均等と其適用……法學士 寺島廣文
滿洲國の前途樂觀……陸軍參與官 石井三郎
日支滿關係の調整を策せ……太田宇之助
軍縮會議の動向と歸趨……法學博士 三枝茂智
海軍軍縮と帝國の國防……海軍大佐 關根郡平
佛國の新軍縮案に就いて……高橋清三郎
獨逸政變と前首相……法學士 圖也與四松
最近獨逸經濟自主運動……東大教授 有澤廣巳

本號定價五十錢 外交時報社

家庭常備驅蟲藥

世界の寄生蟲學者及び臨床醫家は最も確實な蛔蟲驅除藥として等しくサントニンを推奬してをります。
古來賞用の蟲下藥「セメン」或は「セメン圓」は此のサントニンを配藥し本邦製藥工場に於て製剤したるものにして、其の藥物學的効果に於て斷然他の驅除藥の追隨を許さゞるものであります。サントニン及びサントニン製劑は毎年三千萬の本邦兒童と成人とを恐るべき蛔蟲病から救つてをります。
毎月僅少の費用を投じて本劑を服用すれば、恐るべき蛔蟲の諸害を免かれ、健康と精力を倍加し長壽を保つ事が出來ます。
●全國藥店に販賣して居ります

蛔蟲驅除は身の爲國の爲
セメン又はセメン圓

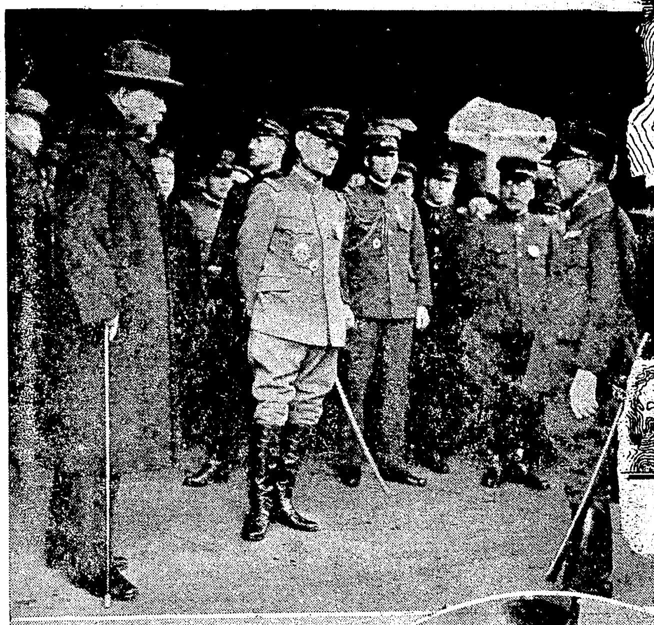
火急お願ひ!

書店に、婦人雜誌を見せよとお命じ下さい。
實物を御比較の上――
お氣に召さねばお返しは御自由です。

新年號では――
婦人倶樂部が斷然第一!

●第一附錄…花嫁花婿必要帖(堂々四百頁の大書籍!)
●第二附錄…ペン毛筆婦人實用習字帖(二百頁の折本大書籍)
●第三附錄…名畫色紙十二ヶ月(大判色紙十二枚袋入り)
●第四附錄…人相手相獨り占ひ(百二十頁の圖解入美本)

四大附錄と六百頁の本誌――
合計五册でタッタ七十錢!
安い!安い!買つてびつくり!
評判は評判を生んで、賣れる賣れる!
增刷 大增刷、物凄い大盛況!
これこそお手に入れねば一生の憾み、只今スグお求め下さらぬと賣切れて終ひます



最高の名譽兵團 多門師團堂々凱旋

大晦日、京城驛頭の一大繪卷 萬歲聲裡に南下す

一點雲なき透明の青空に

眼鏡の底に無限の洞察

これに應ふる多門師團長

驛樓上の一大交歡

宇垣總督の歡迎辭 多門師團長の謝辭

……ところであります、こゝに奉祝するの微意……

歡迎之辭

……を力強く述懷され一言一句に力を込めて帝國日本の興隆を力說、最後に宇垣總督は旗を高く翳して『こゝに第二師團の萬歲をしたい』と宇垣總督發聲の下に『第二師團萬歲』を叫べば參列の軍部、本府……

剋苦奮戰勇名を輝かしたる多門師團本日凱旋せらる、北の武勳赫々國民の感激措く能はざる所なり、茲に師團長閣下並幕僚各位に對し府民を代表し謹んで祝意を表す

昭和七年十二月三十一日

京城府尹　井上　清

府民一般代表五百餘名は聲を張りに萬歲を三唱、これに對し多門師團長は

本日は特に歲末で御多忙であるにも拘らず總督閣下を初め要路の方々の心を込めた歡迎をうけ眞に感激に堪へません、多門厚く御禮申し上げます、こゝに主人側の杯をかりて失禮ですが閣下各位の御健康を祝します

多門師團長の發聲で萬歲を三唱、極めて意義深き歡迎の盛況を稱して目出度く終つた

東北健兒續々凱旋

◇―元日で終了

卅一日夜午後七時十四分から同十時卅一分に亘つて京城驛を通過した第一、第二、第三軍用列車には多門師團の精鋭、東北健兒步兵第十六聯隊の鐵兒の勇士が凱旋、元旦には步兵二十聯隊をはじめ衛生隊、騎兵本部の精鋭が通過する。卅一日夜と元旦の通過をもつて多門師團の京龍通過は全く完了するもので軍部は勿論京城府は今次事變の最高名譽兵團多門勇士の赤誠の歡送迎を期待してゐる

2億9351萬通 景氣を語る年賀狀

一割二分の增加振り

【東京電報】 俄かに暮れ行く歲末を一きは濃く彩るのは全國郵便局にうづ高く積上げられた年賀郵便の山だ、新春を迎へる思ひ思ひの心を籠めたこれら郵便物を少しの間違ひもなく元旦もまだ任の……

隨い袂にぽんと玄關口に抛り込み何よりも正月の嬉しいたよりの訪れの使命を速かに完全に果させようとする郵便屋さんの苦勞も亦一通りではない

◇　◇

さてこれ等郵便物の數量はどの位か―三十日夕刻まで遞信省に集まつた二十九日締切まで全國特定二等局以上の郵便局に差出された年賀郵便の總數は二億七十三百五十一萬通で昨年に比して實に一割二分の增加振りといふ好景氣だ、之を遞信局別に見れば筆頭は東京の九千百九十六萬通で昨年に比して九分の增加、增加率の多いのは東北地方を管轄する仙臺の一割八分增で千百四十萬通―東北農村疲……

……際の路も年賀郵便には全く逆結果を現してゐるのも面白い、結局以上の外を合算すれば約四億見當でそれに正月になつて出る分の二、三億を加へれば合計六、七億でこの代金は一千萬圓以上の金額が遞信省に轉げ込む譯だから一錢五厘も馬鹿にはならぬ

暮の宿屋に覆面の强盜

六圓を奪つて逃走

京城に潜入の形跡

三十日午前三時頃始興郡西面虎溪里七〇四番地宿屋業金永敏（五二）方に防寒帽をかぶり黑布で覆面をした詰襟洋服の三十歲前後の男が手に鎌を持つて侵入し主人の寢室に至り主人を蹴り起して脅迫、現金六圓を强奪した末『若し十二時間以內に警察に通知する樣な事があれば貴樣の家を燒き拂つて、皆殺しにするからそのつもりでゐてくれ』と凄文句を殘して暗に姿を消した

主人は恐ろしさにふるへて客の明けるを待つて所轄永登浦署に屆出で同署では折柄年末警戒中で時を移さず犯人捜査に努めたが未だ逮捕されない、京城に入りこんだ形跡もあり京城府內各署にも手配し目下嚴探中であるが犯行手口からして前科者の所爲と睨まれてゐる

前途はなほ遼遠 軍民一致突破せよ

京城通過に際して

第二師團長 多門中將談

こ の事變が永年に亘る支那の對日排侮なる態度に遠因を發する事は御承知の通りで、師團の渡滿當時の一般の空氣は何となく穩かならざるものがあり、學良軍の將校等も我將校の面前で公然と無禮な態度を示すと云ふ樣な有樣であつた、それで期せずして我師團將兵は非常な緊張裡に約半年を經過して居たのである、事變突發當時の事情、之れは既に新聞に雜誌にいろいろと發表せられてゐるから之れは略す事として事變經過中に於ける若干の苦心或は心配した事又は愉快であつた事などであまり知られてゐない事を少し御紹介しよう

我第二師團は滿蒙の風雲尋常ならぬ昭和六年四月渡滿したのであつたが滿洲事變が突發して以來は幸に戰の運が良くど殆ど全南北滿洲に行動して主要なる戰鬪をなし得た事は誠に愉快とする所である

先 づ第一は六年十一月四日から六日迄の江橋戰鬪（大興戰鬪）であるが此戰鬪は全く思ひがけない戰やあつた、元來濱本大佐の指揮する嫩江枝隊を派遣したのは鐵道橋梁の修理掩護だけの目的であつた、それなればこそ長春から長距離自然車も距たつた地點に部隊を出すのに僅に步兵一大隊を基幹とした一小枝隊を以てしたのである、然るに豫期に反し十一月四日午後馬占山軍の挑戰に因り戰鬪を開始したと云ふ報告を長春で受けた時は實に心配した、當時は恐らく嫩江枝隊は全滅するであらうと考へたが、幸ひ飛行隊の決死的協力と迅速に派遣せる增援隊の到着にて十一月六日には兎も角も大敵を擊退し得た、此の時濱本大佐の名を以てする勝報を參謀長から聞いた自分は『濱本は生きて居たか』と思はず云ふた樣な次第だ

此 の江橋戰鬪に引續いて起つたのが昂々溪附近の戰鬪である、十一月十八日に師團が愈よ攻勢に出ようと決心した以後の作戰は萬一の場合を考慮して豫め計畫して置いた通り、即ち計畫通り作戰は進捗するので此の位愉快な事はなかつた、併し敵陣地を突破して追擊に移つてから後は思ひ切つた追擊を敢行したのと、戰鬪開始の一兩日前より突發的に襲來した寒氣の爲には隨分惱まされ多數の凍傷患者を出したのは誠に遺憾千萬である、唯當時の寶狀は急速なる嫩江枝隊の救援に引き續いて起つた戰鬪であつたと云ふ事と、思ひがけない寒氣の襲來とで何んとも方法がなかつたのである、若し七年十一月の寒氣を考へて當時の事を思ひ返す人があればなる程偶然的な……

以 上の外此の昂々溪戰鬪には厄介千萬な條件があつた、即ち東支線には絕對に損害を及ぼすなと云ふことである、元來戰鬪をして氣が荒くなつてゐる軍隊に其戰鬪經過の途中で遭遇する東支線に損害を與へない樣に仕樣と云ふのだ若し敵が此等を利用してゐたらどうするかと云ふことも考へられるし、隨分苦心しもしたが幸にも天祐に依つて完全に此の要求を充たし得た事を今でも喜んでゐる其次の戰鬪は六年十二月二十八日から行動を起して錦州攻擊を目的に營口から遼河に向つて前進した時だ、此時は冬の眞最中であるから防寒準備を十分に整へた、又十分に整へ得る時日の餘裕があつた、其爲連日徒步行軍で前進したが一名の凍傷患者も出さずに經過した、此行動間の戰鬪の主なるものは盤山戰鬪であるが、師團前衛の一部だけの戰鬪で、而も相當な成績であつたのみならず、師團が奉山線の側面から迫るため溝幇子以北の敵は恐れをなして退却し、途に錦州に在りて相當堅固な陣地を構へてゐた、少くも三萬と稱せられた敵も力迄が戰はずして山海關以南に退却したので大なる戰鬪なしに溝幇子に到着した、唯此行動間敵ながら感心したのは敵の裝甲列車で常に師團の行軍縱隊の先頭を壓する如き態度に出て極めてきはど……い處で溝幇子を脫して退避した

次 で起つたのが七年二月四日、五日に於ける哈爾賓攻擊である、是れは敵が國際都市とも云ふべき哈爾賓市街地に極めて接近して陣地を占領してゐたのに、與へられた條件は都市に損害を與へず敵を擊退するにあつた、尙今一つ自分自身で考へてゐた事はなるべく速かに救援しなければ哈爾賓市街內の數ヶ所に籠城してゐる約四千の居留民が第二の尼港事件に遭遇しはしないかと云ふ事で、其爲攻擊は急がねばならぬと云ふ事である、然るに當時東支南線の鐵道輸送は甚だ不自由千萬で容易に我師團の集中は出來ず隨分心配はしたが、幸ひ此の戰鬪も天佑を得て總てが都合よく進捗し哈市に進入し得た

其 の後四月には哈市東北約五十里を距てる方正と云ふ方面で哈市附近で敗れた敵が再び二萬ばかり集り、其勢力相當なものとなつたので四月初め此等を掃蕩して第〇〇旅團と交代南下し、濱海警備に就いたのであつたが、更に吉林方面不穩の情報に接し旅團は再び之に對し出動し甚だ困難な鐵道警備をする事約六ヶ月、此の間の將兵の勞苦は人の知らない苦勞で閣下各部隊は常に部下將兵に對して氣の毒に思つてゐるところである

其 他一部隊のやつた戰鬪としては、雙城堡、濱安、チチハル『方面の警備及此等警備間の大小殆んど數へ難き程の戰鬪、東邊道方面討伐、南滿本線と安奉線との中間地區の討伐等幾多の戰鬪等があるが之れは省略する、兎も角各部隊兵共內地歸還の爲に出發する二三日前迄は何れも戰鬪に從事してゐたので步兵二九の大隊長佐伯少佐の如きは十二月二十二日戰死してゐる、步三〇の兵二名は十二月二十三日に戰死してゐる樣な有樣だ

要 するに我第二師團は事變以來今日迄いろいろな狀況に遭遇して三百名の陣歿と七百餘名の戰傷者並多數の凍傷患者を出したが、其任務は槪ね之を達成し得たことゝ信ずる、是れ一に御稜威の然らしむるところと國民一致の後援と部下將兵の奮鬪に依るものであつて大いに感激してゐるのである

尙 師團の任務遂行上に於て特に高唱したいのは師團の迅速なる機動的作戰に伴ひ滿鐵從業員の非常なる努力であつて、一部從業員中には我等戰鬪員と全く同一の行動を採つた人々もあり、此等の努力なしには師團の作戰は不可能であつたと思ふ、又我國論が統一せられ國民一致の後援を得たに就ては全國新聞通信各社に感謝を捧げるに吝なるものではない加之師團と常に行動を共にし彈雨の內に飛び込んで記錄……の狀況を國民に紹介し國論統一を助成された從軍記者諸君に對しては滿腔の敬意を表する

此 の如く事變關係の功績者を述べれば誠に數限りもないが、要するに公私各種百般のあらゆる機關が總て事變を目標に協力一致活動し陰に陽に軍の行動を助成せられたればこそ軍も亦活動が出來たので、今次の如く國家的大事變の遂行は決して局部的な努力では到底なし遂げ得るものでないと云ふ事は不滅の大原則であると信ずる、思へば時局の前途は尙遼遠であり、寧ろ之れから先が難關であるから我等は是非共軍民一致此の難局を突破する覺悟が必要だと思ふ

師 團は今や內地歸還の途に在るが我等は唯に自己の使命を、又自己の本分を盡したに過ぎない、從つて凱旋に關する感想などと云ふ程の事もないし殊に戰鬪の事を語ると兎角自慢話しに陷り易いので之を避けたいと思ふてゐたが折角たから若干の所感を述べたに過ぎない

尙 最後に名譽の戰死を遂げた英靈と其遺族に對しては誠に同情に堪へないと共に、戰傷者は一日も速かに全快して凱旋の喜びを頒ち得る日の近からん事を祈るものである

第二師團長　多門　中將

寫眞說明

（上）京城驛プラットホームにて向つて右から多門師團長、川島軍司令官、宇垣總督（中）京城驛前廣場にて京城府民の祝詞とこれを受ける多門將軍（下）萬歲聲裡に通過の勇士

歡迎風景

◇正月の準備整へた高島田の歡迎女軍、二三年のマドモアゼルはいとも勇敢に群集の間を突進してソプラノのコーラスを始めた『……しつかりせよ』と抱き起し……』とあらその瞬間一面が赤い』と怒鳴られた、興奮した群集には前の高島田が邪魔になつて兵隊さんのお顏が見えないのが癪に障つたらしい

◇京中學校生徒は二手に分れて京龍兩驛に歡迎旗を張り大提灯を持ち出したのは傑作だつた、京中獨得の鐵腕で若荒武者が元氣一ぱいの應援ぶりはグラウンドのそれより物凄く、群集の興奮……

◇……凱旋列車がホームにすべり込むと同時に打鳴らすドンドン太鼓は汗愛婦發團の新考案で勇ましい、團員一同、汗ダクで文字通り汗の修養に怠りない奮闘ぶり

◇……京城驛から龍山驛沿線の各家々では家族全部が二階に鈴撒ひして喚聲を放つてゐた、車中の兵隊さんも一々これに返禮、萬歲の連發で、安心して横になれさうもない忙しさだつた

◇……第〇隊の照井軍曹が名刺を出す時不圖にも懷中からピンク色のハンケチをとり出した、柄に似合はぬ美い絹物だけに、一寸その出所を怪しみ詰問したが……出征前から持つてるやつで決して怪しいものぢやない……といふが軍曹はこの有がたいマスコットのお蔭で幾多激戰の中に無事凱旋することが出來たと語つた

◇……昨年四月からの滿洲駐在で今ではすつかり滿洲ひいきになつた兵士達、『滿洲はのんびりしていゝですよ、心強りがしますね―とこれが北大營を第一戰に殆んど滿洲各地の激戰に參加して苦勞した人達の感想とは思へませんネ

◇……慰問ぶくろは大變喜ばしかつた、滯在中も四十ばかり戴きましたといふ、……後の後援に對しては仁井大尉もありつたけ感謝の意を表してゐる

アイスホツケーに京師優勝

【盛岡電報】 全國學生氷上競技大會主催全國中等學校氷上選手權大會二日目の三十日は氣溫零下二度五分、朝來雪模樣だつたが午後に入つて湖畔は人垣をつくり人氣沸騰した、午前中にスピードホツケー豫選を終了し午後一時よりホツケー準決勝ならびに決勝を行つたがスピードでは苫小牧工業（北海道）多年の傳統を誇つた諏訪蠶糸を破つて優勝し、フイギユアは慶應普通部、ホツケーは京城師範が何れも優勝午後四時半よりそれぞれ優勝牌の授與あつて閉會した

京師の戰績

【東京電報】 目下盛岡高松池に於て開催中の第三回中等學校氷上競技大會に參加中の京城師範ホツケーチームは豫選で三對零で岩手師範を破り準決勝で九對零で岩手中學を破り結局決勝に於て四對零で北海道苫小牧工業を破り優勝した

暮に自殺男

【安州電報】 あと二日で樂しい新年が訪れるのに儚くも浮世の生活に破れて安州郡西面龍鳳里六番地農張翼玉（三）は可愛い女の子を殘して二十九日午前遂に服毒自殺を遂げた

朗らかなお正月

少し寒くなります

これが大晦日かと思はれるやうな暖かさと空の明朗さ……秋晴れにも似た一斷

浮雲

も見ぬ明澄の大空に鷄晴朗らかに響き亘り3年の元旦は明ける、これぢやはだか詣りに神もいらないと思はれさうだ、さすがは年の瀨を越したばかりの大陸高氣壓だ、今蒙古にある七八〇粍以上の高氣壓が次第に半島の方向に移動しつゝあるから、元旦から二日三日と少しづゝ溫度が下つて行くが、その代り明澄の空はいつまでも續いて、まづこの分では南山も北漢山も靈靜な姿で親はれるやうなことけしばらくないだらう、內地の空は一寸曇りがちだが

半島

は古今未曾有の好天氣に惠まれていよいよあらたまの年たちかへらんとするさても朗らかなお正月が迎へられることでせう

四日の出初式

新春の華、消防出初式は恒例により一月四日午前九時から（雨天は翌五日）訓練院大廣場にて左記により擧式されることゝなつた

一、一同整列、竹內京畿道警察部長の點檢、分列行進、演技、訓示、表彰式目錄授與、解散

スキー場便り

▲外金剛溫井里スキー場、二十九日朝まで積雪は約一尺であつたが三十日朝は快晴となり雪積一尺二寸に及び氣溫はスキー最適の零下一度、風なく、ヒユツテの賣店も開始された

▲元山スキー場、三十日朝は積雪八寸氣溫一度天氣よく、僅に於てやゝ不足の感があるがスキーには支障ない

▲三防スキー場、廿九日朝の山麓は二尺の積雪があつたが、スロープは風強きため雪不足、スキーには尙早し。氣溫零下四度

謹賀新年

城津料理屋組合　浪花樓（電話一〇六番）　藤見樓（電話一〇一番）　朝日亭（電話五三番）　銀水（電話一五六番）　漢陽館（電話二三五番）

城津警察署　職員一同

城津郡鶴城面長　柳鍾夏

水原本町　不二屋百貨店　電話一三七番

水原麴子製造場　電話二四九番

水原城內 雲谷醫院 院長　李完善　電話一二七番

水原本町　松美屋商店　電話一二二番

龍仁警察署長　矢野儀

京畿縣安養驛前 果樹園 桑苗生産 沖井農園

水原城內　山崎自轉車店　電話一五一番

水原本町　加茂百貨店　電話一〇八番

龍仁金融組合理事　宗文雄

京城學寶文高龍仁出張所長　國友勝男

水原城內　華城興業株式會社　電話一二〇番

水原城內　李昌鎔齒科醫院

京畿道評議員　韓光鎬

京畿道水原　近藤印刷所　電話一七六番

水原邑　株式會社第一社　社長 梁盛國　專務 李光鉉

水原門外　李吉泰

謹賀新年

債券相場

新債券いよいよ大抽籤

日本勸業證券株式會社京城支店（本店東京。日本勸業銀行構內）

輝く新春　ほゝへむ初姿　元旦より撮影　坪川寫眞館　京城南大門通（黃金町交叉點）電話光一六二三番

長湖　徐丙軾

フイリツプス ラヂオ眞空管 A一〇九 A一四一 フイリツプス會社

公示催告

京城地方法院

新小說 青春哀歌 (85)

群司次郎正 作
野崎交三 畫

嵐のあと（三）

あまりにも意外な靜夫の言葉に、たゞさへ雷に怖えてゐた澄子の心は、一層、恐怖に驅られて來た。もし、こんな場所で、靜夫が無謀な態度に出たら、それこそ取り返しのつかないことになつてしまふかも知れないと思ふと、澄子はびく〳〵と可愛い胸を慄かせた――けれども、依然として、彼の人格を信じてゐるだけに、萬一にもさうした態度に出るとは思はれなかつた。

時折、雨戸の隙間から青白い稻妻の閃きが洩れて、二人の顏を凄味悪く照した。そして、物凄い雷の音と共に、雨が小石を投げつけるやうに、雨戸や屋根に吹きつけてゐた。

『ねえ！澄子さん！僕の一生を臆らしたのは貴女でした。以前の僕と違つて、僕は僕の心から純情が逃げて行くのを見詰めながら、時には絶望することさへあります、と云つて、僕は貴女にその罪を詫びつたり賠償を貪はすのぢやありませんが、兎に角、僕は自分の一生を勝手に振つてしまつたやうな氣がします。滅茶々々になつてしまつたやうに思へるのです。いや、どう云つて見ても、結局は何んにもならないことですね。どうせ、人間總ての問題が死と云ふ冷たい物によつて解決されるものなら、何もかも投げ捨てゝしまつて、放縱な生活をした方が増しですね』

『まあ……？嫌、そんな事を仰有つちや……』

と、澄子は息苦しく喘いだ。

『全くですよ。僕は曾て何かの小說で讀んだことがありますが、吾々が、生きてゐるといふことは結局、死ぬるといふことですからね。そして、我々の冷たい死骸が、大地の底に埋められ、親戚とか朋友とかの手によつて、彼等の最後の愛によつてですね。パラ〳〵と土をかけられてしまへば、其處には永遠に解くことの出來ない大地の一線が擴がり、同時に、永遠に冷く[illegible]の醜惡な近い死の戰慄が、[illegible]扉をあけてしまふでせう。そんな果敢ない人生に、何をあくせくとして苦しむ必要がありませう。明日の生命さへ知ることの出來ない吾々が、大學の教室で、爪らしく哲學書をめくつて、それが何になりませう。下らないことです。ねえ？澄子さん！あれを聞いて御覧なさい。ほら！あの雷の音を――今にも大地は呪ひの呪文の中に葬り去られるやうぢやありませんか。ピカット光る。がらがらと鳴る。そして、この屋根にでも落ちたら最後、僕達の生命はどうなるのです？安閑として大きな顏をして地上を歩いてゐる人間の生命なんて、實に哀れなものですね。どこか、禽獸達と違つてゐるところがありますか？』

『そんな恐ろしいことを……私、なんだか――』

と哀願的な聲を曇らした。

『然し、僕がかうして厭世思想に捉はれたのも、やはり失戀からでせう。もし、貴女だつて、岡田君に失戀して御覧なさい。屹度、貴女は僕と同じやうなことを思ふに違ひありません。それほど、失戀の痛手は、吾々青年を闇に葬つてしまふのです。もう、僕には地位も學位も要らない――さうだ！なんにも要りやしない――戀の陶醉と、赤い酒があればいゝんだ！それでいゝ！それでいゝさ！』

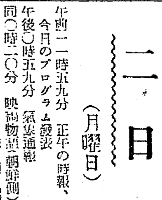
『まあそんな自棄なお考へにならないで――ねえ？』

『どうしろと云ふんです。眞面目に生きろと云ふんですか！はゝゝ。馬鹿な！』と、靜夫は吐き出すやうに叫んだ。

瞬く蠟燭の光りに照された澄子の頬にはさめ〴〵と冷たい涙が流れ落ちた。そして、彼女は堪らないやうに泣き崩れたが、その瞬間恐ろしく青い光が、パッと室内に殺到して來た。

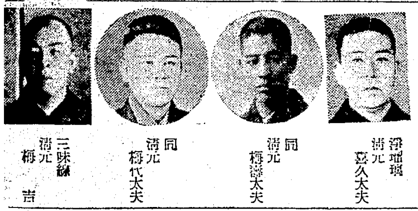
『アレッ！』と、澄子は思はず絶叫した。同時に、彼女の身體は本能的に靜夫の胸にひしと取縋つてゐた。

ラヂオ JODK



二日（月曜日）

午前一一時五九分 正午の時報、今日のプログラム發表
午後〇時五九分 氣象通報
同〇時二〇分 映畫物語（朝鮮劇場）捨て小舟 徐相弼 音樂伴奏
同〇時五〇分 箏曲合奏
一、山田流（イ）壽歌 伊藤薬園 中込聰子 伊藤薬園 稲井久代
（ロ）松づくし
二、生田流（千鳥） 飯塚たか子 北川文子 山田よし子 内田てる子 塚崎久子 仲谷麗子 大木繁子 戸田ゆき子 吉田すま子 佐藤靜子 大内貞子
同一時二〇分 二曲合奏 尾上の松 補導 尺八 古本竹陽
同一時四〇分 尺八二部合奏 百千鳥 澤口笑仙 箏 湊 毅
同二時〇分 三曲合奏 若菜 尺八 鶴田南京 三絃 太田興志 箏 加城茂子 森山仙堂
同六時〇分（A）子供の時間（第二夜）日本五大お伽噺 かち〳〵山 テキスト一二、一三ページ 巖谷小波
同六時二五分 連續倡劇調第一席 三國誌中『三顧草廬』 鼓手 韓 丁 正烈 成俊
同七時〇分 ニュース、翌日のプログラム發表
同七時三〇分（A）淸元 明烏花濡衣（明烏）上下 淨瑠璃 淸元喜久太夫 同 淸元梅壽太夫 同 淸元梅代太夫 三味線 淸元梅吉 上調子 淸元梅治



同八時〇分（A）映畫物語 南海の劫火 生駒雷遊 伴奏指揮 宇賀神味津男
同八時三〇分（A）獨唱 荻野綾子 ピアノ伴奏 高木東六
一、淡路島かよふ千鳥の、源兼昌歌、信時潔作曲 二、子等を思ふ歌及び反歌 山上憶良歌 片山頴太郎作曲 三、過近江荒都及び反歌 柿本人麿歌、菅原明朗作曲 四、花の色は 小野小町歌 山田耕作作曲 五、わすらるる 右近歌 山田耕作作曲 六、平安朝のまぼろし ミゴ作曲
同九時〇分（A）かるた朗吟 大槻貞蔵
同九時三〇分（A）時報（A）引續き 氣象通報

箏曲合奏 午後〇時五〇分

一、（ロ）松づくし 生田流 伊藤薬園社中少女
歌詞、唄ひ囃せや大黒、一本目には池の松、二本目には庭の松、三本目には下り松、四本目には志賀の松、五本目には五葉松六つ昔は高砂の尾上の松や曾根の松、七本目には姫小松八本目には濱の松九つ小松を植ゑならべ十で豊愛の伊勢の松、又いつ毎の約束に日を待つ時待つ君を待つ連理の松も契りを込めて目出度いな若衆

（ハ）千鳥 山田流 大内貞子社中少女
（歌詞）前彈しほの、さしでの磯にすむ千鳥 合君が御代をば八千代とぞ啼く、合君が御代をば八千代とぞ啼く 手事淡路島通ふ千鳥のなく聲を、合幾夜ねざめの須磨の關守、合いく夜寢覺のすまの關守
この合奏は山田、生田兩派の師匠補導で可愛いゝ少女方によつて彈初めとして放送されるものです

三曲合奏 午後二時〇分 若菜

鶴田、大田、加城による歌詞へ年はまだ合幾日も合經たぬ催竹に合今朝合そよ〳〵の春風我が知り顔に鶯の合百々ひ連れ立ちて女子が摘むや合千歳の初若菜 合手事へ若菜摘む手

三日（火曜日）

梅枝に囀づる百千鳥の柔しさに 梅枝に合へ音さへめでたき

午前一一時五九分 正午の時報、今日のプログラム發表
午後〇時五分 氣象通報
同〇時二〇分 ヴァイオリン獨奏 郭正淳 ピアノ伴奏 Jレブース
一、ソナタ四番D長調…ヘンデル作、アダヂオ・アレグロ・ラーゲット・アレグロ 二、『抒情舞曲』作品十五番…ボルサック作

笑ひの午後（A） 午後〇時五〇分

一、寶船 讃州樓 燕枝
二、池田大助 三遊亭 金馬
三、初天神 古今亭 今輔
四、かつぎや 三升家 小勝

同二時二〇分（B）運動競技――大阪市外園運動場より中繼―― 早大對同志社ラグビー試合狀況
同六時〇分（A）子供の時間（第三夜）日本五大お伽噺 猿蟹合戰 テキスト一二、一三ページ 巖谷小波
同六時二五分 連續倡劇調第二席 三國誌中『南屏山祭風』 鼓手 韓 丁 正烈 成俊
同七時〇分 ニュース、翌日のプログラム發表
同七時三〇分（A）浪花節 柳生二蓋笠 吾妻家清吉
同八時〇分（B）人形淨瑠璃――四ツ橋文樂座より中繼 假名手本忠臣藏・力彌屋の段
由良之助 竹本津太夫 竹本さの太夫 本藏 竹本文字太夫 太八 竹本錣太夫 おかる 竹本土佐太夫 仲居 竹本浪花太夫 竹本播磨太夫 竹本長尾太夫 亭主 竹本錣太夫 九太夫 竹本大隅太夫 伴内 竹本古靱太夫 平右衞門 豐竹古靱太夫 三味線 野澤吉兵衛 鶴澤綱造
同九時三〇分（A）時報 引續き 氣象通報

無線と實驗 新年號 特別大附錄

ラヂオハンドブック 見よこの空前の大附錄！

放送受信機、電氣蓄音機、短波送・受信機、テレヴィジョン、寫眞電送の五大科目につきそれぞれ斯界の專門家に依囑して、之を辭典式に配列したる最新式の「ラヂオ・ハンドブック」で、菊半截三百餘頁の別冊附錄、語數約二千を收め、説明は平易、寫眞及挿繪を多數挿入、完全なるラヂオの大辭書である。ラヂオ人必携の書だ（定價本號附錄共一圓二十錢 送料七錢）

尨大なる新年號の內容を見よ！更にラヂオ大辭典にも比すべき特別大附錄「ラヂオ・ハンドブック」を實物について見られよ

世界に於けるラヂオ事業の現況……船橋航平
最近放送の正體
南京大放送局詳報……福井庄兵衞
列車內の無電設備……柴野重義
高周波電氣……川添茂
輕動的特性曲線より動的特性曲線を求むる方法……大岡
テレビ用ネオンランプ……鈴木信雄
新球を使用せる超再生回路の試作……AK生
初步技術漫錄……井上生
新型音響用アダプター（JYT）
中華民國に於けるラヂオの隆盛と管理……OP生
受信機の傳承
最新式電蓄用アンプリファイアの設計……中村
鑛石からスーパーまで
五十錢で出來る鑛石受信機……永原
小學生にも出來る鑛石セット二種……福田龍人
初步の罪球セットの作り方……永原
ペントード使用DC二球の作り方……佐藤
初步向三四受信機の作り方……HOT
家庭向三球受信機の製作……矢澤中島
分離式交流三球セットの製作……野口
同調回路用交流受信機……森田
四球超短波受信機の作り方
ステーダイン、六球スーパーへテロダインの作り方
英和無線大辭典（一）
其他ラヂオ漫談、拡聲器の歪み等趣味と實用の記事滿載（讀者の投稿大歡迎）
附錄・最新放送局受信表（二色刷）……谷村功

實際園藝 新年號 大附錄

大附錄 園藝日記

實際園藝社獨特の編輯による嶄新なもの
園藝家必携のこれまでに見ない特長をつけてある中に園藝の趣味を倍加し、愈々愉快に園藝の事業に精進出來る。
本誌は堂々四十頁に渉つて園藝に關する種々な重要記事を附錄とす

本誌の主なる內容
植物生理の諸理論……土屋
果樹の話……恩田
梅の盆栽法……平野
花卉の草物盆栽……長谷川
室內園藝の話……石井
温室園藝座談會錄……六氏
電熱温床の構造……竹内
温室ボイラーの種類……國分
ペチュニアの栽培……田中
アゲビカイの栽培……池田
西洋野菜の栽培……加藤
促成蔬菜の栽培……宮崎
蘭の栽培……高橋
柿の栽培……園
西瓜苗の栽培……石井
九州の園藝……角田
ベーパーハウスの構造
薔薇の研究……岡本
花卉の分類と栽培……松崎

園藝の初心者にも、園藝の研究家にも座右を離せぬ斯界の權威

本誌と附錄共 金一圓（送料六錢）
東京・神田・錦町 振替東京六五六七 誠文堂

演藝案內

朝鮮劇場
仁寺洞パゴダ公園横入 電光二三六
一月一日晝より五日間天下のファン歡呼せよ！
パラマウント社超特作 獨占封切の二大巨篇
料金 階上 大人五十錢 小人三十錢 階下 大人三十錢 小人二十錢
パラマウント社超特作 全九卷 歡呼の涯 監督 ステイヴン・ロバーツ氏 主演 ジョージ・バンクロフト氏
パラマウント社超特作 全八卷 謎の眞空管 監督 エドワード・スローマン氏 主演 リチャード・アーレン氏 ピッグ・マクラレン氏
新年劈頭の二大巨篇！之を先鋒に企てるスターを擊ちきる二大巨篇が正月のプログラム
次週 豪華と浪漫あり 白米戀愛自由型 死の拳銃
女 七萬人の目撃者

團成社
電光九五九 昌德宮入口
正月一日晝より毎日晝夜二回 特別大興行
絕對自信を以て新春映畫界を席捲すべく威風堂々
巨匠ハンス・シュワルツ氏監督 ウイリー・フリッチ氏 ケティ・フォン・ナギー孃 主演 女王樣御命令 全十卷
パラマウント超特作 全部發聲日本版 その夜 全十卷 フランク・タットル氏會心作 リリイ・ダミタ孃主演

東亞俱樂部
東亞直營 電本二六三七
新春第一陣超特別大興行 元日封切二日まで三日間上映
東活超特作 長谷川伸原作 文藝映畫 助太刀辻講釋
東活現代劇 大江秀夫監督 クロール賭けて
日活 俠勇猛進
◇パラマウントニュース及漫畫あり

京龍館
一月一日より三日間 新正特別大興行！
東活超特作時代劇 膝栗毛 天上の卷
東活現代劇 地獄

喜樂館
日活直營 電本五九七
廿八日より三日間日活の豪華版
新版 大忠臣藏 大河內傳次郎 山本嘉一 片岡千惠藏
外オールスターキャスト
名犬 お猿の先生
若いマドロス 主演
煩惱秘文書
細君新戰術

大正館
黃金町 電本八〇三
昭和八年度新春劈頭を飾る絕對豪華陣の巨篇！
ガソリンボーイ 三人組 ウキリー・フリッチ氏 リリアン・ハーヴェー孃 主演

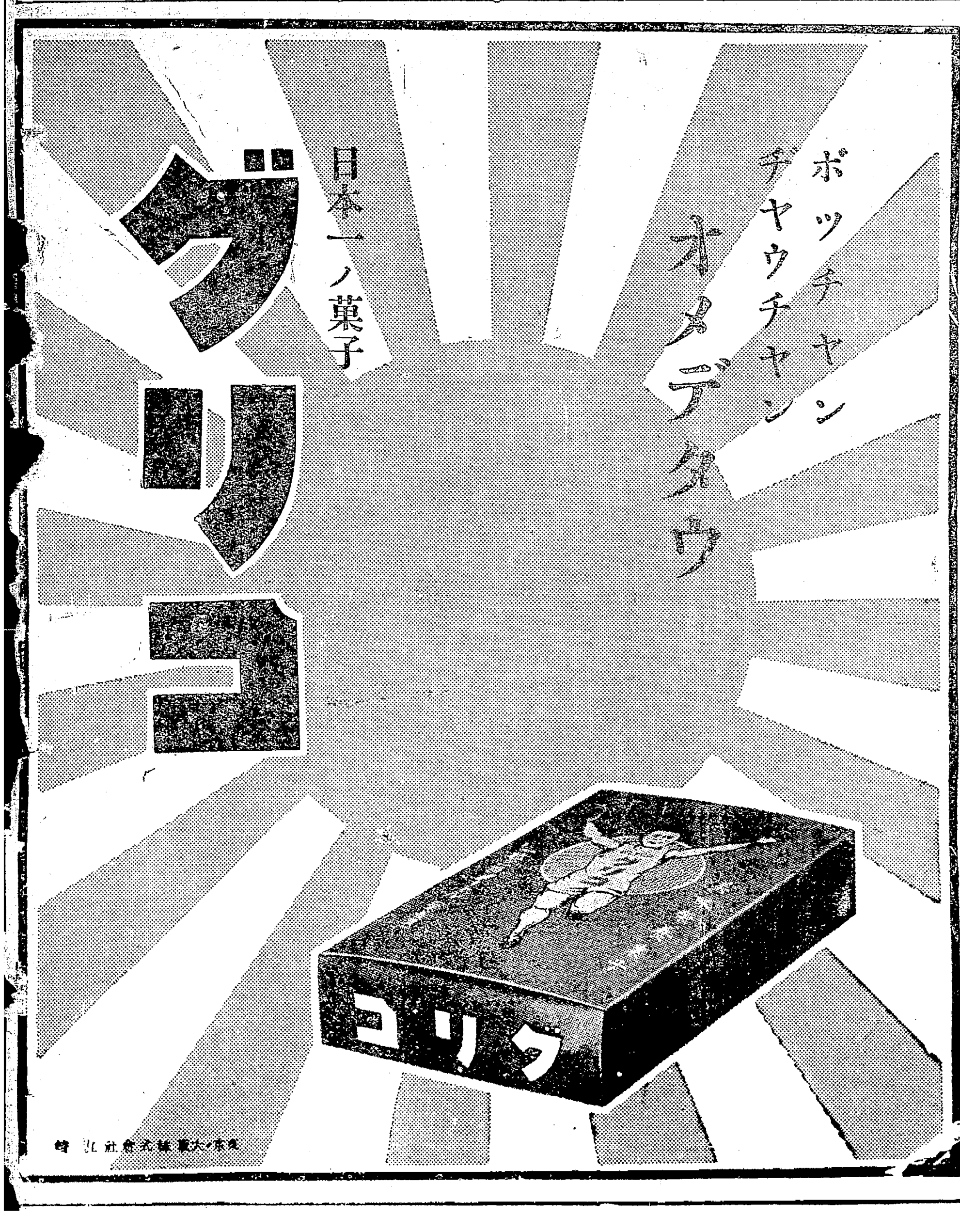
浪花館
京城明治町一 電本三〇
新元旦より八日間 新春元頭を飾る壯觀
浪花節 美勝會 一行三十名
歡喜の一夜
鼠小僧次郎吉

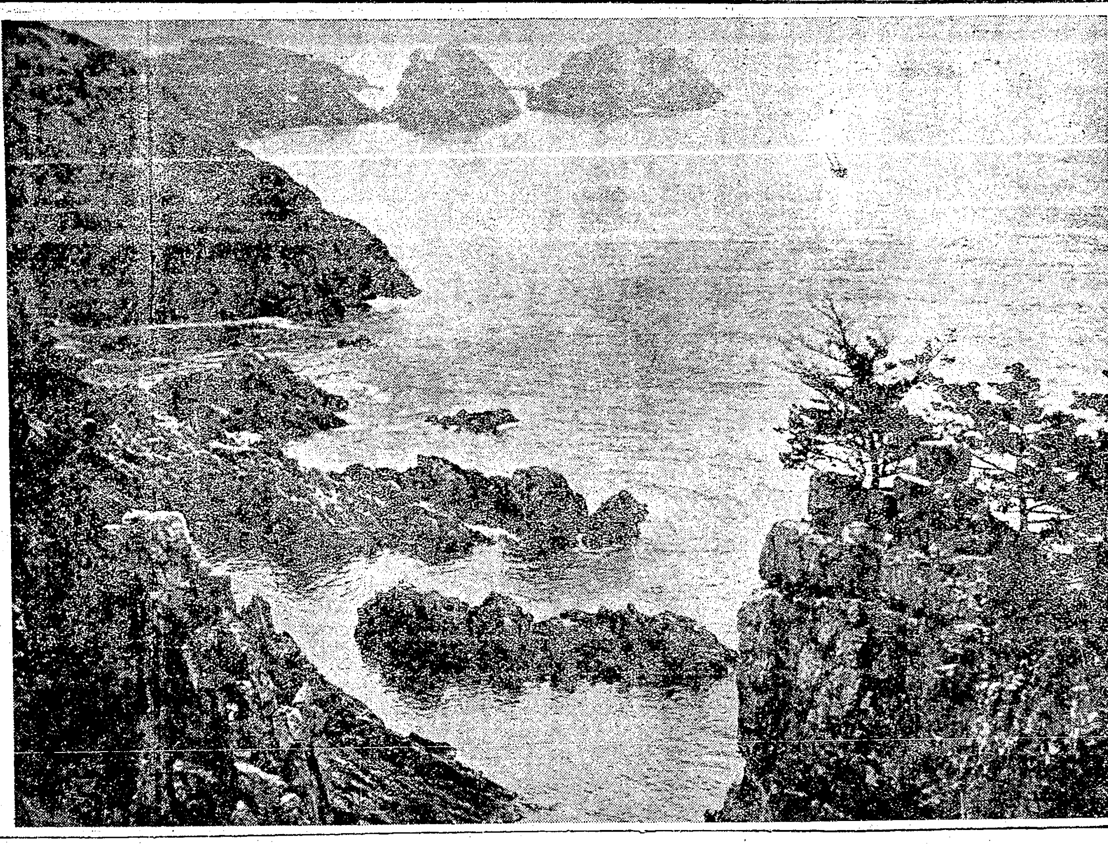
京城演藝館
本町三丁目
新年劈頭を飾る二大映畫
乃木將軍 全九卷
舶來文明街 全九卷

中央館
マキノ 電本三三四
三日まで大公開
中村聲波師を
娘一人に婿百人 全六卷
彼女の運命 全十卷

朝日座
本町五丁目
神變麝香猫
出雲ろく孃 一座

阿波共同汽船仁川出帆
威海衛、芝罘、大連行 利通號
威海衛、芝罘、大連行 共同丸
鎭南浦、大連、天津行 長山丸
代理店 仁川海岸町四 野口商會 電話一四番・一三一〇番





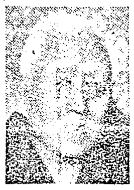
懸賞寫眞『朝の海』一等

京城旭町三　高橋渭水氏

欣快に堪へぬ 國民覺醒の機運

新興日本の將來を暗示す

齋藤内閣總理大臣



國家は年毎に與々榮行くの理想を以て進まなければならない、難關よしその前途に横たはるともこれを突破して進むの意氣あつてこそ理想への一歩は踏み出さるるので國民に此意氣なくしては到底國家存立の使命を完うすることは出來ない、國家の生命は永遠にして難關の阻止は一時の現象に過ぎないから、この一時の現象のために永遠の生命を危ふくするが如きは斷じて戒むべからざることである、況んや萬代不易に傳へられたる皇國の使命は前途に難逕にして幾多難關の進路を阻止するものあるべきは覺悟しなければなるまい

…◇…◇…

昭和七年は洵に多事多難の年であつた、恐らく今年もまた之が續くであらうが、その間にも　皇國の進歩は着々として進みつゝあるは實質の途りに堪へない、誠に昨年頭に於ける滿洲問題の前途未だ明かならざりしと、滿洲國に獨立を遂げこれが承認と共に我外交の旋回頗る鮮明に堂々世界に正義を披瀝しつゝある今年頭とを比較して見よ正邪兩途の軍和に登與せんとする　皇國の使命に於て一歩を進めたることを知ることが出來る

…◇…◇…

又財界の不況は未だ全く回復せずと雖も農山漁村の疲弊都市の困憊に對する匡救策略其の緒に就き、國民の間にも亦更正の聲自ら湧き今や其の實現に努力しつゝあるもの少からざるを聞くは、確に經濟化せる昨年頭に比して一段の生氣を帶び來れるを見る、されど予は此の如き事例を擧げて敢て樂觀を國民に強ひるものではない、國步の艱難はむしろ今後に在り、生活の安定には猶幾多の問題がのこされて居る

…◇…◇…

加ふるに急激なる思想は經濟行進の勢を怠らず、險惡なる世相は未だ全く更改せられず、今年の多事亦昨年の如きものあるを思はざるにあらざるも、受難は試練であり、忍苦は鍛錬である。此受難忍苦を經來つて益々輝きを見る、國民精神の隱約の間に流動しつゝある事象は決して悲觀の材料のみを提供するものではない、我國民には二千年來鍛はれ來つた立派な素質がある、此素質は如何なる國難に遭遇するも之を克服せずんばや[illegible]代の流勢に掩けれて心裡の奧底に潜むとも、一度難局に臨會すれば猛然としてほとばしり出で滿洲事變が起れば皇軍將士の忠勇義烈なる行動と九千萬國民の一致團結したる後援として顯はれ、又國民更生の運動が開始せらるれば忽にして全國各地に反應し、到る處更生の實を擧げつゝある事は此の精神の發露を見るべく、機微の間に流動しつゝある國民覺醒の機運は新興日本の將來を暗示するものとして欣快の情を寄せざるを得ない

…◇…◇…

此國民覺醒の機運に乘じ一片の至誠官民相通じ擧國一致難に此難局を打開し、皇國の一大使命たる東洋平和の確保と刻下の急務たる社會福祉の増進とに努力精進し、以て國家理想の實現に一歩を進めんことを切望して年毎に彌々榮行くべき國家理想をしてやまぬ次第である、新年頭に際し聊か所懷を陳べて大方の協力を望む

曠古の盛治　洪洪大風
曆長嗣慶　春景和融
千秋萬歲　以延無窮

光は東方より

聖天子東方に在はす 吾今朝東天を拜す

【ゼネヴア一日發電】昭和八年の迎春に際し帝國代表松岡洋右氏から日本全國民に送つたメッセージ左の如し

此言葉こそ昨年十二月八日四小國の決議案に對する撤回要求勵議を提げ總會に臨んだ朝の予の心境である、新年を迎へて予は今一度此の言葉を茲に繰返し、國民諸君と共に昭和八年を雄々しく強く踏み出したい、國際聯盟は我が帝國が出發點的基礎的條件として主張する滿洲國の儼然たる實在の承認に關し未だ調和點を發見し得ずに苦しんで居るが予は決して無理と思はぬ、イギリスのサイモン外相へも強調して置いた通り日本人は日本人だ、アングロ・サクソンには成り得ない、アングロ・サクソンも日本人には成るとは出來ぬ

人類が聽て日本に感謝する時が來る

大義を四海に布く日本精神

松岡代表のメッセージ

日本人を何の粉飾もなく裸體のまゝで

歐米人の眼と日本人の眼とは物の見方が大分違ふ、歐米の物質文明の尺度を以て日本精神を計るとは所詮出來ない、併し眞智は結局總てを貫く、アメリカのノーマン・デヴィス氏とは最も率直に打ちまけて話をした、初めは先方も顏色を變へたが、二度の會見で予の言ふたことは能く了解されたと信ずる

突き出すまでの事なのである、滿家は日本の生命線として固より重大ではあるが、若し此の問題を機線に日本精神を世界に宣示する事が出來るならば世界はさらに幸福になるであらう、横井小楠先生はその嗣子が米國に留學せんとする際餞別の言葉として『大義を四海に布く』と云ふ句を與へられたがこれである[illegible]ら事を疑はぬ、[illegible]は小國も大國も差別はない、我國には今や一大革新の時が迫つて居る、併し之は日本精神の回復の惱みであつて、決して物質文明へ追隨の爲と變化ではない、予はモスコーの國立劇場で勞働者が最高藝術鑑賞の機會に均霑して居ることを目の當り膽めて痛く心を動かした、併し予はカール・ラデック氏と會談した時大革新を經た後の日本は外觀は或は貴國と可成り似たものになるか知れないが、その實質には千里の差がある、日本精神は貴方等の社會的政治的共産主義とは全く違ふと告げて置いた、今こそ我等が日本精神に目醒めしむべき時である、大和民族待つて一國の火柱とならば何物か燒き盡さざるものあらうか、昨年十二月八日の總會席上原稿を持たず無準備のまゝ無意識的に迸り出た

日本は磔刑をも甘受する度量を定めてゐるのだ

といふ言葉こそ眞に今の日本の姿と心とを映じてゐると信ずるこれは神樣が予の口を藉りて天の意思全國民の聲を響かせられたのであると思はれる、而して此の言葉が如何に聯盟及び全世界民衆に響いたかは、國民諸君の既に御承知の事と思ふ、右の結果は遲くとも予に勇氣を與へ我等の正義が日本精神が何時かは世界に響く理解させるに至るであらうとの確信を強からしむるに至つた、二千年前基督を磔刑にした人類は今は基督の前に跪いてゐるではないか、人類が醒て日本の眞意を悟り、更に日本へ衷心からの感謝を捧ぐる時が必ず來る、只今日忍耐が大事である『倦まず撓まず』をモットーとして昭和八年の年頭に際し、自らの姿を大廟の神鏡にかけ一點の曇りなき良心と信念を以て大和民族の眞の大使命に向つて精進せんことを互に誓はんとする次第である

東亞啓明期の平和的聖業へ

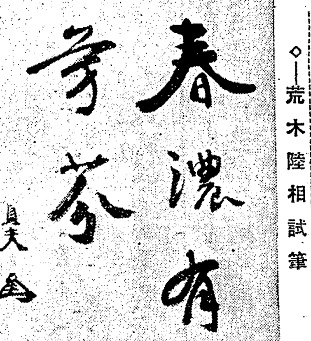
酉は『萬事成就時也』

陸軍大臣　荒木貞夫

皇紀二千五百九十三年の春は瑞を呈して朗かに明けた、思へば昨年は皇國の爲洵に多事なる一年であつた、或は正月早々に錦州政權の驅逐となり、或は上海事件の勃發となり、滿洲の地に於ては、治安確立の爲引續き一定計畫に基きて、大小兵匪掃蕩の業を進め、着々治安確立の效を擧げて居る、此間、昨年三月、滿洲國は高き理想を望みて遂に獨立を中外に宣言したが一方國際問題は過去の清算期に達し、聯盟に於ても事態は紛糾し遺憾ながら容易に解くべくもない有樣である、而も我が同胞は願念する東洋平和確立の爲、將又皇國の存立保全の爲には、遂に已れの信念と已れの努力との外、頼むべき何物もなき眞理を深く自覺し、正義に基き斷乎として滿洲國を承認し、飽くまで皇國の使命貫徹に邁進しつゝ遂に昭和七年は暮れて、乾坤一新無限の希望と高遠の理想とに輝きつゝ、昭和八年癸酉の歲は茲に明けたのである、恰もよし、干支の酉は月に配すれば五月である、一草一木生成最も盛なる季である、又酉は方位に配すれば西に當る、正に大陸を指呼して居る

而も酉は『萬事成就時也』と寓意す、意義深き昭和八年の行手には皇國の飛躍を象徵する一瑞兆が閃いて居る、按するに神武創業の紀元元年亦辛酉の歲に當る、觀じ來れば今年は正に皇謨恢弘の瑞兆が輝いて居る、然しながら世に絕對的なる必要性の存在はない、必然は亦努力に依てのみ實現し得る、滿洲事變以前久しく同胞の忘れて居た東洋平和、否世界平和に對する我が民族的使命を益々高潮し自主自立の觀念を益々振起し、民族的理想の大旆を眞向に翳しつゝ只獨往すべきである、聯盟の動向も今尚逆睹し得ない、而も正義と眞理を貫くに他の動きを顧慮するの要はない唯盤根錯節の國際關係の只中に毅然として突進みてこそ克く一切の障碍を打開し、皇國の使命達成の必然を實現せしめ得るのである

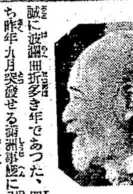
斯く考ふる時、皇國の使命貫徹は對外的に幾多の困難を伴ふ事ありとも結局は擧國一致なる國内問題に歸一するものと信じて疑はない、苟も皇國の崇高なる大理想に邁進する同胞の盛きの努力が命熱當ならざる一時的興奮に依るものであつてはならぬ、任務は重し、皇國の惟神の姿を具現し東亞啓明期の平和的聖業を完遂せねばならぬ、今此重大の時局に際し實現せる九千萬一體の眞爺境は希くは不變であつて欲しい、願て同胞の不變不斷の努力こそ凝つて皇國久遠の力となり、永劫の追となるのである、歲端聊か所懷を述べた次第である



◇―荒木陸相試筆

國民の奮起を祈る

大藏大臣　高橋是清



波瀾曲折多き七年の經濟界

昭和七年の我國經濟界は金再禁止後約一箇年に亘る期間であつて一年間とは云へ政治上、經濟上誠に波瀾曲折多き年であつた、即ち昨年九月突發せる滿洲事變に引續き本年一月には上海事變あり其後の我國對外關係は兩事變を中心として滿洲國生誕、國際聯盟問題等異常に國民的悲備を緊張せしむる情勢の連續であつた。しかも對内的には犬養内閣の後を受けて擧國一致による現内閣の成立あり、非常時局匡救のため諸般の施設を必要とするに至つた有樣であつて之がため、財政の膨脹を見たることは誠に遺憾ではあるが、一面緊急已むを得ざるものとして一日も速かに此の如き原因の除去されんことを希望する次第である。

豫算收支の均衡も回復せん

昭和八年度歳出入豫算の總額は廿二億三千九百余萬圓であつて、之に對する歳入は經常部並に臨時部に於ける普通歳入を合せて十三億四千一百余萬圓である。而して差引八億九千六百余萬圓の歳入不足額は之を公債財源に仰ぐことゝなつた。此の如き多額の公債發行に對して世上或は増税によつて一部の財源補填をなすべしとの議論あるも、我國民の富力の程度と増税の產業界に及ぼす影響とを併せ考ふれば今日増税を行ふの時期にあらざることを信ずるものである。

而も翻つて考ふるに今日此の如き多額の公債財源を必要とするに至つた原因は、第一に昭和四年以來に於る内外不況に基く租税其他の歳入の減少、第二に滿洲事件發[illegible]三に[illegible]所謂時[illegible]あつて、[illegible]財界好轉すれば昭和三年以前の狀態に回復するとも期待し得るのみならず、滿洲事件及び國防充實其他時局匡救費等も今後永久に現今の如き巨額を要するものとは思はれず、總て一時的原因に基くものにしてやがては之等の原因も除去され收支の均衡を回復するに至るものと信じてゐる。

爲替の低落と業者への希望

次に一般經濟界の狀勢を見るに先に實施せる日本銀行及び郵便貯金の利下げ其他不動産資金流動化の改正を始め日本銀行發券制度の實現によつて、通貨の圓滑なる流通を圖り金利の低下を誘導し固定せる資金の流動を促すなど、一貫せる金融政策の具體化によつて生産事業の進展と相俟ち、最近各種企業の上に漸く景氣好轉の曙光を認むるに至つたことは邦家のため慶賀に堪へない所である、然るに昨年金の輸出禁止以來我對外爲替が次第に低落の歩調を辿り、最近遂に對米相場廿ドル臺にまで落ち込むに至つたことは、貿易の趨勢に副はざるも甚だしきものであつて、要するに今日の爲替相場を支配する原因の決して單純なるものにあらざることを示すものである。勿論貿易上の出超にも拘らず爲替上においては既に入超期に屬し、殊に輸入爲替の先物約の急がるゝに反し、輸出爲替の取極は極度に見送らるゝ最近の情勢で爲替を騰からしむるに與つて力あつたことも疑ひない所ではあるが、國價低落の根底に流るゝ有力なる原因が現下における國際間の政治並びに經濟的事情に基く内外不安にあることは否む能はざる所であり所謂世界的災厄であるから、かゝる根本原因の速かに解消せんことを希望する次第である。但しさりとはいひながら、徒らに爲替の低落と之に伴ひ生ずる資本の逃避に拱手傍觀することは國策上多大の損失を招く虞れなしとせず、よつて政府は嚮に資本逃避防止法の施行により所謂圓の逃亡に備へ且其效果も甚だ見るべきものがあつたのであるが、抑も本法が出來るだけ外國貿易業正常の取引に支障なからしむることを急としたゝめ、その間多少取締上の缺陷も生ずることを免れなかつたのである、此の如きことは固より當業者の自制に待つの外ないのであるが若し其自制によるも尚所期の目的を達し難しとすれば、遺憾ながら法令の改正或は新法の制定により取締の嚴重を期する外なしと信ずる

暗雲の中にも一道の光明

翻つて考ふるに我國は今や國内的にも國際的にも未曾有の難局に當面してゐるのであつて、かゝる難局を見事に乘り切るには到底政府の施設のみを以てよく能ふところではなく、國民擧つて自力更生の精神に則り獻身的努力を必要とするのである、最近の情勢は險しきも我國民の間にも漸く一道の光明を認め得るの趣あり、國民の堅確な次第によつては前途に洋々たる大海を見出すとも敢て難事にあらずと確信する、盤根錯節に合はずんば寄その利器を試さんやである、國民の奮起を祈つて已まぬ次第である。

謹賀新年

名刺交換會（不順序）
京城地方法院汶山出張所 伊藤强哉
汶山郵便所 力武惠吉
坡州郡廳 安井竹関趙任中森高関小李許李趙
中上野聖彦 野九鎭悦之 橋林人 敎尙愼 淳 李 ／ 渡一二助元淳士汎貫鎭治貞潤泰龍
銀行・殖產水利組合・穀物檢査所 河本禎次 中村辰詢 李周之助 泳

野村節男
金村縣長 張鳳儀
汶山公立小學校 松本鶴一
坡州公普校 久保田吉光
交州公普校 村上佐吉
春日川公普校 近田彰
坡平公普校 田中勇
新興公普校 成樂榮
金谷公普校 湯山三郎
中山義作
中山昌均
碧石公普校 本田嘉末
金永燮
汶山穀物販賣所 妹尾留吉

成島秀吉 金田奎三 藤敬植 李贊明 朴贊泰 李順求 鮫島命子 金慈綾善
坡州在鄕軍人分會 青山安三郎
春田萬吉
松宮榮三郎
汶山 瀨木治三郎
三井合名會社汶山出張所 李智次郎 武忠林
汶山金融組合 青山安三郎
金村金融組合 柳準熙

坡州郡酒造組合
坡州郡產業團體

鳥致院松函石油組合
中井留四郎
岡清太郎
山地才治

鳥致院水曜會

鳥致院 製絲精米・米穀商 高谷貞助 電話一五番
大田電氣株式會社 鳥致院支店 電話四八番
鳥致院 會席御料理 北一樓 電話一〇一番
朝鮮運送株式會社 鳥致院出張所 電話一五・八番
鳥致院驛前 貨物自動車部 電話一二一番
鳥致院商工會
燕岐郡廳

鳥致院 米穀肥料貿易商 白井素介商店 電話一四番 白井製材所 電話五七番
明けまして御目出度う御座います カフヱー スヱヒロ 電話一三五番 百合子、ミサ子、君子、初美、玉子
鳥致院驛前 建築用木材各種 セメント、石灰 其他左官材料 益田材木店 支店 清州
鳥致院 商組合
鳥致院 南北棉業株式會社 繰綿工場 電話一一九番

春元田平萬次 楠元平太郎 加藤安繁 大野吉久 吉松虎行 早野義晴 大反四郎 長濱多喜治
鳥致院砂防事務所
鳥致院 三星堂大藥房
鳥致院驛前 商工組運送店
朝鮮物產株式會社
鳥致院 片山鴨太
鳥致院 朝永土地株式會社
鳥致院旅館組合 明治旅館 重松旅館 丸屋旅館

農業經濟より 商工經濟へ
滿洲との統制を要す
朝鮮銀行頭取 加藤敬三郎

世界經濟は過去三ケ年間に亘り加速度的に不况深刻化しつゝあつたが、最近に至り英米兩國が先づ金融的に著しく好轉し來り、之が金融界として世界經濟の人氣に好影響を齎し、從つて一般景氣の動きは底入れ狀態にあると傳へられてゐる。然し生產界は世界的に未だ好化の事實を現さぬのみか、世界不况の根本原因と見なされつゝある國際間に於けるコンフイデンスの缺乏と破壞とは依然繼續せられ各國は自國本位の經濟を目標とし關稅の障壁を高め、只管其の財政金融貿易の統制に努めつゝある結果、英米佛を除く世界の主要國は殆んど爲替管理を實行し、現にその數二十有餘國に達してゐる狀態である。此の間我國に於ては海外財界の低迷不振なるに比し近來著しく好調を示し、物價騰貴、貿易良化、株界活況等の事實を見ると雖も、對外爲替は年初以來落調止まず、遂に廿ドル前後に激落するに及び、之が財界に對する影響の甚大なるより、遂に我國に於ても爲替管理貿易管理に迄突き進まんとしつゝあるは周知の事實で、今や我國は經濟國難の打開に努むると共に、引續き朝鮮の開發を促し、新に成立せる滿洲國を支援し、以て內鮮滿の經濟統制を圖り、その經濟の樹直しに全力を傾注すべき極めて重大なる時機に遭遇しつゝある

有効適切なる政策實施を要す 爲替管理もその一つ

我國財界の狀勢をみるに、政府は金輸出再禁止實行以來臨時議會を召集して、所謂非常時局に對する各般の對策を案出しつゝインフレーション政策を採るに至つた。斯くて三月以後三回に亘る日銀の利下と郵便貯金の利下とが斷行せられた結果一般金利低落して金融緩慢の步を進め、物價並株價は何れも騰貴したが、來年度の豫算は膨脹し多額の赤字公債發行の余儀なき情勢に立至り、インフレーション人氣は漸次濃化すると共に爲替相場の落調は强められ、十一月に入るや終に二十一弗を割るに至つた。斯くて政府は思惑賣防止の爲、銀行間爲替取引に關し日々の報告提出を命じたが、結局一時の小康に過ぎず、月末には遂に十九弗八分の七の最低に陷り、其後幾分の反撥を示したが、最近二十一弗內外を維持しつゝある狀態である。

此の間事業界方面に於ては鐵鋼工業の活況を呈し來れると共に合同若くは統制の機運漸次熟し同時に生產及販賣の統制を企圖せられつゝある一方に於て幾分事業界の活況を反映しつゝある。他面米價は前年の出來高よりも[illegible]

[illegible]係の重壓を受けながらも、爲替安通貨膨脹政策の結果稍や活氣を呈し、從つて貿易は近來著しく好化し昨年一月以降十一月迄の輸出十二億三千七百萬圓、輸入は十二億七千萬圓に達し、輸出前年同期に比し一六〇輸入は同じく一三〇夫れ〴〵增加を告げ、その入超額も前年に比し二千六百萬圓の減少を示し居る狀態である。斯く觀じ來れば我國の財界は最近稍好轉して來た樣であるが、全國組合銀行の貸出は昨年十一月末において前年同期に比し却つて一億二千萬圓の激減を示し、生產方面が何等充分資金需要を喚起してゐないことを推知せられ、而も最近本邦財界の急激なる好轉傾向は海外における經濟界の趨勢を超越せる人爲的政策に基づき、從つて既に他の諸國において爲替低落國に對する諸種の對策が講ぜられつゝある矢先、何時迄之にのみ依存し晏如たり得るか、更に前途に不安を萌す如き財政が果して時局を匡救する所以であるか、我國財界の健全なる建直しの爲には、通貨の安定と財政の均衡を得ることが主眼なると同時に、深く我國の立場を省察し世界經濟の情勢に順應しつゝ、一步進んで有効適切なる經濟政策の實施を要する次第であつて、爲替管理を斷行するが如きは其の一具現であらねばならぬ。

刻下の緊急事は 鮮滿經濟の統制 日支關係も淸算せよ

朝鮮の一般經濟界は內外の趨勢に應じ、昨年上半期末迄は大勢尙不况裡にあつたが、其後爲替關係により物價騰貴し、證券界も近年になき上騰振りを示し一方滿洲國の安定等に因つて商勘稍活潑に赴いた結果、最近少しく好轉の兆を呈し、從つて昨年一月より十一月迄の朝鮮貿易は輸移出が二億六千萬圓で前年同期に比し三千萬圓を增加し、輸移入は二億八千八百萬圓で是亦前年より四千三百萬圓の增加を示し、殊に對滿貿易は昨年七月以來急激なる增進を告げつゝあるは注目すべき現象で、滿洲と朝鮮の交通は各方面共益々密接の度を加へ來つた。而して朝鮮は近年農業經濟より商工經濟への轉向顯著となりつゝあるが、此後北鮮の開拓、滿洲國の發達見越等により朝鮮商工界は一段の進展を告ぐべく、從つて鮮滿經濟の相依存する所を明瞭ならしめ、之が統制の具體化を企圖すべきは刻下の緊急事であらう。

滿洲の經濟界は內外の大勢につれて不况は不况ながら、一昨年の滿洲事變以來事態は全く一變し來つてゐる。殊に新興の滿洲國は三月中にその成立をつげ各般の建設的事業着々その緒につき、滿洲中央銀行の如きも設立せられ財政經濟の根本たる幣制の統一を見んとし、一方全滿の治安も大體恢復されて來た。而して從來沿線方面に集中されてゐた北滿の特產物は、近頃大連港に輸送されると同時に、斯界は最近一段の活況を呈し、他面銀價の反撥により一段の購買力を加へつゝある結果、貿易は近年殊の外好轉しつゝある。試みに本邦對滿洲貿易の昨年一月より十一月迄の統計を徵すれば、輸出は一億二千萬圓を算して前年より七千百萬圓の激增を見、輸入は一億一千二百萬圓となり前年に比し六百九十萬圓を減じ、現在我國は滿洲に對して出超となりつゝあるも、此後彼我の經濟統制が理想的に實現されるれば、其の間適當に均衡を得るに至ると共に、實質的に兩國民が共の生活の安定と福利の增進を招來することゝ思はれるが、斯業は尙建國匆々にして其の前途は甚だ多端である。

此際我國は宜しく擧國一致之が支援誘導に努め其の堅實なる發達を期待すべきである。しかも我國は單に滿洲國のみを見て、支那全體を忘れる譯にはゆかず、東亞の大局の上に立ち飽迄日滿支の親善關係を樹立するの必要がある。然るに昨年の上海事變後日支兩國の間には夙に和平恢復の協定成立しつゝあるに拘らず、支那側は陰に排日の行動を續け、殊に我國の對支貿易が依然として非常な激減を示しつゝあるは洵に遺憾とする所である。此際我國としては從來の日支關係を何等かの方法によつて淸算し、兩國間の新局面の展開に努力すべきであると思ふ。

半島產業 維新に直面して
朝鮮商工會議所會頭 賀田直治

朝鮮產業はこれまでは農業時代の域を脫せざりしが、今や工業と鑛業との擡頭により、何となし朝鮮產業維新の新機運が生れ出で、新曙光を迎へんとするが如き感じがせらるるのである。素より世界的不景氣の連續する今日、しかくスピードの發達を期待すべきに非ずといへども多年培養の素地と準備とは遲緩ながらも漸次この域に導きつゝあるものと感ぜらるゝ。

朝鮮の資源 は未だ饒多とはいひ得ぬが、品質は頗る優れてをり、動力は未だ低廉とはいひ得ぬが、前途には炭源なり水力なり各種相應に好望であり、資金も金融機關の發達により累年利便となり、金利も內地に追隨して低下の傾向を辿り、交通運輸も未だ十分なりとは稱し難きも、陸に、水に顯著の發達を示しつゝあり、職工、坑夫の如きも未だ能率の十分ならざるしのあるも、低廉にして各般の仕事に適當なるの資格を有し、技術者に就いても諸般の經驗と新教育の普及とに依り漸くに適材を鮮內にも求め得るの狀況にして、總じて一段の飛躍的發達、鑛工業の成立は必ずしも不可能ならずと思はるゝのである

この三者が 具備する場合の朝鮮の產業界、交通界乃至金融界の繁榮は想像に難からず、他方朝鮮としては產米其に社會組織の向上上、農業施設の改善に安んずる能はず、鑛工業の發展は頗る望ましい事であるのである。しかも從來の助長政策としては主として農業に偏重せられ鑛工業等に對し助長政策の餘地は尙十分に存するのであるから、この機即ち官民通力努力するに於て優に前途の發展を期待することが出來ると思ふ。

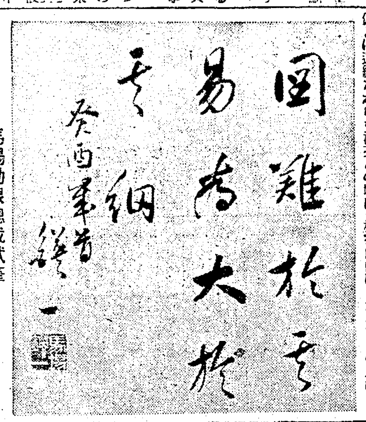
上記の產業的轉機は隣邦滿洲國の日本の援助に依り成立するの今日に於て、之に援護して足場として將た土台として最も便利な地の和と經驗を有する朝鮮が

一番に活動 せしめらるゝの望がある、一例を擧ぐればこれまでは全く雌伏を餘儀なくせられある北鮮や間島が急に飛躍を初め滿洲の資源は朝鮮にも利用消化せられ『日本海湖水化』の理想もさまで遠きにあらざるべきことを示唆するのである。世間は能く『日滿經濟』を云々するが其の『日』には『內鮮』が包含せらるべきことは勿論である。如實に內鮮結合の產業政策が確立してこの隣邦滿洲國との經濟關係が宜しきを制し得るのである。內地と朝鮮との間の經濟關係は素より共通共存を原則として今日まで進みつゝあるが、朝鮮が今日の如く安全となり

新企業可能 に至りたる上からは、內鮮滿の經濟關係益々緊密を加ふるものと思ふ。素より成功の前には試錬あり、時は方に厳冬に入りてしかも春象を含む。吾人は斯く觀念し、幾難局、幾難關を覺悟するに於て突破すること難からしくないのである。畢竟今日の大計は眞相に照らし、認識を高め、物的以上、心的要素を推揮し實質剛健なる幾多人物の活動力を集積すべきである。時代は正に吾人の一大奮起と一大更生とを緊要とするのである。吾人は眞に大にこの天命的好時機に直面して居ることを默認し且つ感謝せねばならぬ

我が商工會議所はこの趨勢に大に

活動を期し 以て之が都備を中外に宣傳し、企業の取引を朝鮮に招來するに一段の努力を致すべき時機と信ず



馬場勸銀總裁試筆

カツト寫眞は米國金融界の心臟ウール街

財界の動向
好轉を期待されるにしても 眞の立直りには時日を要す
日本銀行總裁 土方久徵

財界の前途は 相當期待さる

昨年の財界は金再禁止の後一時々諸商品の騰貴を受け、年初に於いて有價證券、諸商品の一時値上りを來し、之が爲めに所謂金再禁止景氣の出現を見たけれども、一般の購買力がこれに伴はなかつたのと海外財界の不况深刻なりし爲めに間もなく再禁止景氣は消滅し、其の後は却つて思惑の反動を生じて五、六月頃の財界は一層不况に深入りした觀があつたのである。然るに下半期に入ると共に、爲替相場の低落甚だしきに伴れて、輸出貿易の振興と物價騰貴の傾向が現はれ一方米國財界も稍々同復し、政府の時局匡救計畫なども漸次進行し中央地方を通じて、財界の人氣は緩和したのである。殊に爲替低落の利益を得るに到つた事業及は軍需品關係の工業は、目立つて立直つたのである。これを年初に現はれた一時の思惑景氣に比較すれば、貿易の好轉と、事業[illegible]て多少根底ある[illegible]良好に向ひつゝあるやうで、之等の事實は我が財界の前途にも、好影響を齎すものと思はれる。從つて本年卽ち昭和八年の財界の前途は相當期待せられる理由もあるものである

投機や思惑は 此際最も禁物

然し乍ら、以上の理由を以て、近き將來に於て財界の眞の好況を豫想するが如きは不可能といはねばなるまい。何分にも世界の財界は久しきに亘る不况のために各國共に購買力が著しく減退してゐる。故に假令最惡期を經過して前途の好轉を期待せらるゝにしても眞の立直りを見る迄には相當の時日を要するものと考へられる。昨年下半期以降の我國の貿易の好調、事業會社の業績良化等の事實に就いて考へてもその主要原因は、內外にかける物價の需要が增加したのではなく、前述の如く爲替相場低落に原因する所が多いのである。今後若し國內物價の昂騰が著しきに到れば、貿易上に於ける利は漸次[illegible]未だ社會各方面の狀況が立直つたと言ふ處迄到つてゐない、故に購買力が依然として、不振であるので、我が財界の前途は無暗に悲觀するに及ばない迄も樂觀して投機を試み思惑を助長するが如き事は此際殊に愼しむべきであると思ふ

金融の變態的 緩慢を招かん

金融界の狀勢は昨年初めに於ては、正貨現送の後を受けて、相當引締りの狀態を呈して居つたが、其の後時日の經過と共に、幾分緩和せられ、殊に政府は七月一日から資本逃避防止法を施行して、資本の海外流出を防止すると共に、滿洲事變費や、時局匡救計畫の爲めに、國庫資金を追々撒布する事となつたので、事業界に於ける資金の需要不振と相俟つて、再び緩慢の狀勢を現はすに至つたのである。而して、六月の臨時議會に於て成立を見た日本銀行の發券制度改正に關する法律は之亦七月一日より實施せられ、其の結果保證發行限度の擴張、發行稅の輕減等が行はれ、日本銀行は市場に必要なる通貨を圓滑に供給する途が開かれたのであるが、政府は七月中に郵便貯金利下げの方針を決定し十月一日より一分二厘引下の三分としたので、日本銀行も斯る政府の方針に協調し、金融市場を指導するために、三月及び六月の引下げに引續き、八月下旬更に金利の引下げを行ひ、續いて各地銀行の、協定預金利子コール協定率の引下げ等が行はれ、金融の大勢は益々引緩み、金利も亦低下する傾向著しきに到つたが、此の影響は先づ短期の手形割引の上に現はれたのみならず、長期金利も漸次低下しつゝ國債其他の有價證券の値上りを見ると共に、民間銀行會社の起債計畫も比較的容易となり、此[illegible]少く[illegible]に及ぼす影響は最も注意を要する點である。卽ち臨時事變、時局匡救豫算財源たる公債發行額は昭和七年度七億餘圓、八年度十億餘圓の豫定であるから、今後中央地方の時局匡救事業の進捗に伴ひ、或は軍事費の支拂などにより、右の資金が撒布せらるゝに到つたならば、通貨は相當膨脹を見る可く、而して之等の資金は一部は民衆の間に浸潤して購買力の作用をなし、或は地方金融の圓滑に資するものもあらうけれども、斯る巨額の資金を、消化すべき財界の活動が之に伴はなければ、中央集り所謂金融の變態的緩慢を招來するに到るは豫想に難からざる處であつて斯る資金が堅實なる財界の活動に使はれずして徒らに通貨の膨脹を促し、爲替相場の低落を誘致して惡景氣を煽揚するが如き事があつてはならぬので、日本銀行は勿論、其の適正の調節に留意する、金融業者他の一般財界も愼め充分なる考慮を要する事であると思ふ

爲替管理法が 必要とならう

爲替相場は昨年五月まで三十弗を維持して居つたが六月下旬に三十弗を割り、七月には二十七、八弗見當に降り八月には二十二弗迄低下して其の後一時反撥の傾向があつたが十一月末廿弗となり以來二十弗乃至二十一弗の間にある。思ふに金輸出禁止の下に於ては爲替相場の安定を期する事は不可能であるとは云へ、資本逃避防止法の實施により資本の外流出に基く爲替相場の低落は抑制せられ又下半期以降の對外貿易は好調を呈し國際貸借も相當に改善せられてゐるに拘らず動もすれば爲替相場の低落せんとするのは右の如き經濟上の理由以外に、財政上の赤字、外交方面に於ける不安が反映し之に內外の思惑[illegible]之に對して[illegible]相當考慮し[illegible]

賀正

今井五介　東京市澁谷區代々木初台町六二七

今村武志　樺太・豐原・官舍

土岐嘉平　東京市澁谷區大山町一番地

岡野龍一　東京市目黑區三田一六七

大橋新太郎　東京市麹町區上六番町四三

恩田銅吉　東京市品川區大井庚塚町四八六九

加藤久米四郎　東京市芝區白金猿町三十三

加藤茂苞　東京市杉並區清水町六十二

辯護士 法學博士　高武公美　東京市本郷區西片町一〇いノ四七號　電話小石川七八九九　（事務所）東京市日本橋區通三ノ七東京建物ビル五階　電話日本橋一五二五

高山長幸　東京市麻布區霞町二十三

日下時次　東京市芝區白金今里町九十六

藤山雷太　大日本製糖株式會社

縣左吉　東京市世田谷區世田谷二丁目七七

安達房治郎　東京市牛込區河田町一九番地

天宅敬吉　東京市淀橋區下落合町二丁目[illegible]

淺利三朗　東京市澁谷區原宿二丁目一七〇

弓削幸太郎　東京市杉並區阿佐ヶ谷五丁目六五

湯淺倉平　東京市牛込區中町六番地

水野錬太郎　東京市芝區白金猿町六十一

重田勘次郎　東京市淀橋區角筈二丁目九四

東園基光　東京市麹町區一番町四十一

守屋榮夫　東京市瀧野川區西ヶ原町七十四

守屋荒美雄　東京市[illegible]

1933年の國際政局に活躍する世界人

米獨佛三ケ國に於ける大統領の改選、左右兩派の激しき對立下に繰返されたドイツの總選擧、更生か、衰滅か、大英帝國の運命を賭けたオツタワ會議、さては世界的不況の重壓下に喘ぐ世界資本主義諸國を尻目にかけて、第一次五ケ年計畫を完成し、社會主義建設の第一步を確保したソヴエート聯邦——目まぐるしいばかりの一九三二年ではあつた。此の波瀾に富んだ一年を經て、來るべき一九三三年の國際政局に活躍する世界人は誰？以下今年度世界政局の動向をトするに足る世界人の橫顔を描き出す事としよう

ドル帝國の王者
白亞館の新主人公
ルーズヴエルト氏

米國政戰史上會て見ざる白熱戰を演じた昨年十一月の米國大統領選擧の結果、内閣府に至るの榮冠は、遂に、民主黨候補フランクリン・ルーズヴエルト氏の頭上に輝いた。來る三月四日の大統領就任式を以ていよいよ向ふ四ケ年間ドル帝國の王者として君臨するのである。

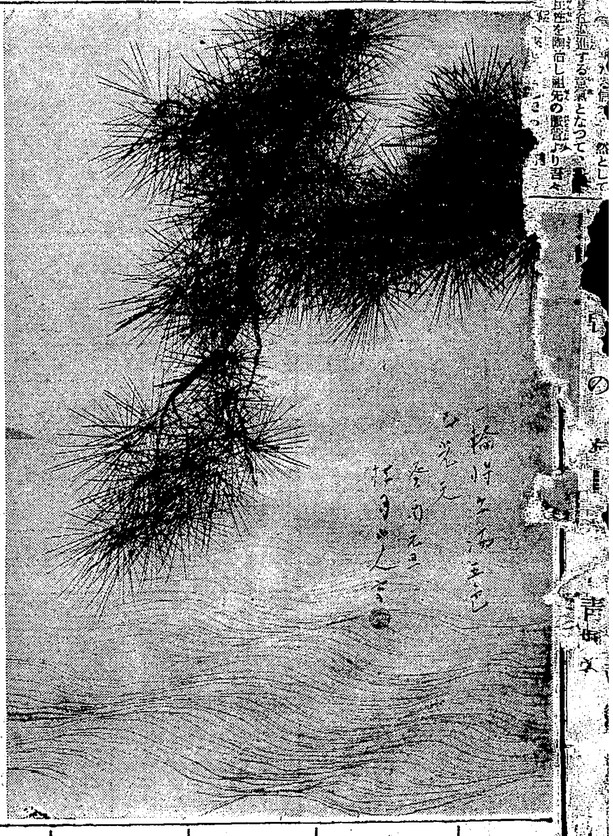
氏は現米國政界に於ては稀に見る名門の出、廿九歲にして早くも上院議員として政界へのスタートをきり、ウイルソン大統領の下にあつては、海軍次官として、其の才腕を謳はれる等、氏の前半生は『順風に帆を揚げる』の一句につきる極めて恒々たるものであつた。然し彼は決して『溫室の植物』ではない。今日見るが如く彼を跛者にしてしまつた惡質の脊髓病との鬪病生活、よくこれを克服して、政界に返り咲き、ニユーヨーク州の知事として赫々たる名聲を博し遂に大統領の榮冠を獲得した。その後半生は彼の意思の人たるを證するに充分なものがある

今年五十二歲、政治家としては最も油の乘りきつた時である。難關入りの第一年に、彼を待つものは日く、經濟問題、戰債問題、世界經濟會議、米國——更に世界——の景氣回復、問題等々、正に難關難問の政界である。一九三三年の國際政治の檜舞臺に、デビユーした彼が、如何にこれ等の諸難題を處理するか、戰債、軍備問題等々、世界政局の縮を見事手術し得て世界景氣恢復のリードを取り得るか、新人ルーズヴエルト氏は華かに登場した。世界の耳目を一身に集めて、彼の今後の活動こそ遂に吾人の深甚の興味を喚んで止まぬものがある

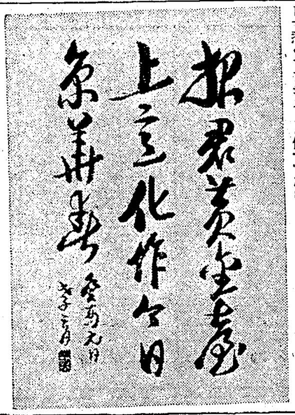
黑襯衣の獨裁者
風雲を呼ぶ妖星
ムツソリーニ氏

一八八三年イタリーのドヴイアに鍛冶屋の子として生れた彼が、小學校教師の資格試驗に落第したばかりに、社會主義新聞の編輯に飛び込んで、社會主義者として第一歩を踏み出したのがそもそも彼の運命の岐路であつたのだ。一度世界大戰勃發するや、日頃奉ずる社會主義實現の好機至れりとして急轉平和主義を捨てゝ戰場に身を投じ再轉、更に之を轉機として、凡そ社會主義とは正反對の立場に立つ、新政黨ファシストの頭領に成り濟ました彼の變貌ぶりの鮮さは、世人を齊しく瞠目せしめた處である、一九二二年秋の『ローマ進軍』以來、滿十年、昨十月にはファシスト十年記念が盛大に行はれた。この十年間に彼が、『祖國の爲めに』を唯一の標語として成し遂げた超人的事業は正に驚嘆に値するものがある。國內的には少くとも彼の目の黑い內は、その政權は盤石の如く搖ぎさうもない。對外的にはドイツのヒトラーと相呼應してファシズムの妖氣を全世界に發散してゐる。外交による平和も彼にとつては、『祖國の爲めに』の一手段たるに過ぎない『祖國の爲めに』と並行して、彼の全ての基調をなすものは彼の『運動』への憧憬である。凡そ固定は彼の唾棄する所であり、絕えざる流動を以て生命としてゐる。彼の對獨反佛の態度も條約の變改に依つて、對外關係が固定する事を好まぬ點に原因すると見るべきではなからうか。昨秋のファシスト十年記念に際し『歐洲は今後十年にして悉くファシストと化すであらう』と豪語した彼の言が奈邊まで實現するか。彼未だ齡五十一、正に活動の最高潮期にある妖星が今後如何なる風雨を呼ぶか、極めて興味深い所である

懸賞寫眞『鷄』一等　永登浦驛前　松村玉仙氏



一輪將出海五色已光天——松林桂月



滿洲國々務總理　鄭孝胥氏試筆

乘出した神秘人
獨逸軍國主義の權化
シユライヘル將軍

シユライヘル將軍が、ドイツ政界の表面に現れるに至つたのは極めて最近の事である。曩に先輩グレーナー將軍のお株を奪つてパーペン內閣に國防相の椅子を占めた時、即ち、隱然たる將軍の實力が表面化したソモソモの第一步であつたのだが、その時既に同內閣の實權は擧げて將軍の掌中に收められるといふ、小氣味よい評判の影を通じて、世人を驚かしたのである。將軍の活動は、勿論ドイツ軍閥をバックとするものであるが、選擧毎に、却つて不安定の度を深め、政黨間の提携も絕望視されるに、昇天の勢ひにあつたヒトラー一派の國粹社會黨すら凋落の一途をたどり出すといふ、混沌停止する所を知らぬドイツ政界にあつて、何時の間にか隱然たる勢力を貯へて、漸く黑幕から姿を現すに至つたのがフオン・シユライヘル將軍である

而も、ドイツの軍閥たるや軍の際ない軍閥だ。此の影に等しいバックを以てして今日の地步を確立した將軍の手腕は正に『奇蹟』を以て呼げるべきものであり、ドイツ政界にあつて將軍が『神秘人』と稱せられるのも亦宜なる哉である

一八八二年、ブランデンブルグに生れ、幼年の頃から、軍國ドイツの傳統の內に、徹底的に軍事教育で鍛へ上げられたのである ドイツ軍國主義の權化と稱せられるのも無理はない。從つて、一度政界の表面に立つや、何を措いても、ヴエルサイユ條約に縛られて手も足も出ぬ祖國軍備の復活をよんだ事は當然といはねばならない ヴエルサイユ條約の改訂を唱へて英佛伊等の諸國に對し、軍備均等の要求を叩き付け、軍縮會議の脫退を聲明して歐洲諸國をして顏色なからしめた彼の軍備均等要求問題も、シユライヘル將軍がその張本人なのである。對外的に此の巨彈を投ずる事を敢てした彼である、國內的には如何なる大決心を以て臨んだか彼はデモクラシイに對して、率直に嫌惡を表明してゐる。デモクラシイの破棄のみが祖國を救ひ得る唯一の道だと信じてゐるさりとて、今俄かに議會と全然手を切つて獨裁政治を樹立する事は未だ四圍の情勢が許さない。彼が實權を握りながらパーペン氏に首相の印綬を帶びさせたのも此の間の事情を物語るものであらう。然しパーペン內閣瓦解後のドイツ政局の混沌は遂に彼に政權を齎らした。到達すべき彼岸に達したのである。ナチス民主黨、共產黨、中央黨等々の對立激化の情勢に在つて、ヒンデンブルグ大統領は遂に彼に組閣を命じたのである

一度政權を手中に收めた彼の統率下に生れるものは、——純然たる軍部獨裁ではないにしても、之に近いもの、乃至之への準備と見るべきものであらう、今後如何にして獨裁形態を達成するか、『神秘人』には、更に大きな問題が課せられてゐる。而も他方彼が軍備均等要求の張本人である事實を思ひ合せば、軍備と戰債の二大問題に喘ぐ歐洲政界に、彼によつて投ぜられる一石は更に大なる波紋を生ずるであらう。ドイツの『神秘人』、歐洲の『惡星』は世界に對して、大きな謎を與へるのである

更生英國を擔ふ
鮮かなリード振り
マクドナルド首相

英國に勝利を齎した世界大戰は皮肉にも、結局英國衰退の一里塚でしかなかつた。永年信奉して來た自由貿易の拋棄、金本位制の停止、等々は英帝國凋落の感を一層深からしむるものであつた。この英帝國未曾有の危機に際會して再生か、沒落かの鍵を握るマクドナルド老首相とは？

傳統の國英國にあつて、スコットランドの僻陬に生れた彼が宰相の椅子を占めたのは全く驚くべき異例に屬する。社會主義者としての青年時代を過ごした彼は一九〇六年勞働黨議員として下院に入りその政治家としての第一步をふみ出したのである。然し一九一四年歐洲大戰の勃發するや、彼はその主義に忠實にして極力非戰論を唱へた爲め、爾後八年間は非國民の汚名の下に公的生活を追はれるの悲境に陷つた。然し戰後の英國は矢張り彼を必要とした。一九二二年勞働黨首領として、再び院內に入り、二四年には英國史上最初の勞働黨內閣に、首班となつたのである。一九二九年再び第二次勞働黨內閣の首相となり、一九三一年英國未曾有の財政難に當面して、所謂協力內閣の生れるに及んでも亦引續き首相の椅子に止まつた。英帝國の運命を賭して生れた此の內閣の組成こそ、正に彼の政治生活に於ける最大難關の一であつたに相違ない。爾來同內閣は彼の統率の下に、先づ國內財政の均衡を得るに全力を傾注した結果、過去一年に於ける業績は大いに見るべきものがあつた。

而もこの間に處して、昨夏のローザンヌ會議に於ては、エリオ佛首相との協力宜しきを得て遂に會議を圓滿成立せしめ、更に、昨冬國際政局の中心地ゼネヴアにおいて日支紛爭問題と並行して、軍縮問題が討議されるや、老軀を提げて壽府に乘込み、折衝數次ドイツの軍縮會議復歸に成功して、さしもに前途を悲觀せられてゐた軍縮會議に一脈の活氣を吹き込み、日支紛爭會議に際しては、裏面的運動ながら小國側の策動を巧に制御して聯盟の危機回避に努める等、さしも世界政治のナムバー・ワン揃ひの壽府に於て、遺憾なくその快腕を揮つてのリード振りは、今尚吾人の記憶に新な所である

更生か衰滅かの岐路に立つ故國の運命を双肩に擔つて起つマック老宰相の活躍は、新人多き本年度の國際政局にあつて更に光彩陸離たるものがあらう

謹賀新年

蔚山郡廳 職員一同

蔚山官公署有志

內科外科 白井醫院 蔚山 電話五七番

林兼方魚津支店 支店長 濱本晉松 電話四番

方魚津漁業組合

蔚山消防組

松尾八五郎

蔚山自動車組合

蔚山 道評議員 吳德相

日本航空會社蔚山出張所 主任 小田荒太郎

南丈一

蔚山 土木建築請負 家具製作販賣 田口金六

京城府漢江通十三 寶榮商會 電話龍山一〇七・六二三

常盤商會 精米部

筆林會 幹部 幹事 小原筆山

京城府長谷川町 第一生命保險相互會社 朝鮮支部長 渡邊退助 電話本局一三三四番

京城府本町二丁目 ㊄ 岩本漆器店 電話本局二一七四番 振替京城三三五九番

京城府黃金町二丁目（日本生命ビル內） 和食專門 花月食堂 電話本局二五七・三八六〇

京城府長谷川町（公會堂內） 洋食專門 花月食堂支店

京城電氣株式會社工事請負店 黑野電氣工務所 黑野正太郎

京城府明治町一丁目 有價證券現物專門 大原現物店 大原正藏

京城府若草町通り 看板 伊豆天壽堂 電話本局一三八八番

和信百貨店 京城府鍾路

京城美容學校長 田中なを 京城明治町 電話本局三七二七番

京城南大門通り三丁目 醫療器藥品 後藤風雲堂 京城出張所 電話本局二五七一・三八八五

京城質商組合

京城長谷川町 砂糖麥粉 中島京城支店 電話本局四九六・二〇〇九

京城府明治町二丁目 長唄 杵屋佐多枝 電話本局三〇六七番

京城府古市町 鐵道省御指定 二見旅館 電話本局六八八・七二四番

京城府南大門通三丁目 共同火災保險株式會社 京城出張所 長 電話本局一七七八番

京城驛前 笑福旅館 電話本局一五五一番

京城美粧院

京城美粧院支部

朝鮮一のオモチヤ屋 子供屋 京城本町ビルヂング 電話本局二一四八番

京城水產株式會社

京城食堂組合員一同

日本勸業證券株式會社 京城支店

京城女結髮組合

京城府黃金町二丁目 共濟信託株式會社 電話本局三三五〇番

朝鮮取引所 秋山滿夫 田崎藤雄

京城府太平通二丁目一〇二番地 日清生命朝鮮支社 電話本局長一四九六番

朝鮮京城 金谷園

癸酉新年紙上名刺交換會

- 林茂平
- 二宮常一 京城商工會議所議員
- 本多龍如
- 八坂爲三郎
- 松本清次郎 京城府會議員
- 見目德太 京城電話株式會社
- 堀内滿輔
- 永岡憲 辰巳[illegible]油株式會社專務取締役 京城府南大門通二ノ一 日本生命ビル 電話本局四四九〇・四一〇〇 一五番
- 多賀秀敏
- 大橋新太郎 京城電氣株式會社
- 武者錬三 京城電氣株式會社
- 有賀光豊 朝鮮殖産銀行
- 武智弘方
- [illegible]
- 井上主計
- 大熊[illegible] 大熊器械店
- 佐藤直吉 明治生命保險株式會社京城支店
- [illegible] 朝鮮鐵道株式會社
- [illegible]
- 加藤常美 株式會社三越京城支店
- 本田建義
- 戸島祐次郎
- [illegible]
- 池神重政
- [illegible] 慶尚北道廳
- 渡邊龍
- 金瑞圭
- 山名松太郎 京城府岡崎町
- [illegible]
- 大坂泰太郎 合名會社杉山商店京城支店
- 荻原三郎
- 吉田英三郎
- 大澤次三郎
- 青木戒三
- 佐藤作郎
- [illegible]
- [illegible]
- [illegible]
- 久保[illegible] 京城府黄金町二
- 杉原長次郎
- 福井武次郎
- 小林利一
- [illegible]
- 福見貞治
- [illegible]
- 齋藤固
- [illegible] 京城運動具商會
- 寺田榮
- [illegible] 朝鮮殖産銀行
- 山根政治 大邱[illegible]醫院
- 山口芳一 鎭南浦
- [illegible]
- 中原史郎 鎭南浦
- 田村作郎
- 笠神志都延 大連[illegible]
- 近藤雄[illegible]
- 増田三穗
- [illegible] 朝鮮殖産銀行
- 伊藤吉三郎
- [illegible]

京城日報 其三

刻下の難局打開の爲め總督府に於ては『自力更生』『社會教化』を二大眼目として全鮮に各種施設を行ひ又唱導せられつゝある折柄全鮮各府、邑、面に於ては如何なる施設と指導とを計畫又は實行されつゝあるか、近く掲載、地方行政當局の參考に資することになつた

新年試筆『萬相一如』宇垣朝鮮總督

内務

地方官民へ 二つの願ひ

地方行政運用と窮民救濟

内務局長 牛島省三

瑞雲洋々として郡都に漲る中に昭和八年の芽出度き春を迎へ、乾坤一新して國民齊しく聖壽の無窮と皇室の御繁榮を壽ぎ添り聖代を頌するを得たのは無上の光榮であり、洵に欣喜の極みである

地方自治 實現に官民の留意を切望す

朝鮮の文化が他に其の例を見ざる程速かなる發達を遂げたのは官民協力鋭意諸般の施設を進め之が開發に努めたる賜であるとは言ふまでもない所であるが、その間地方團體の施設に須ふ所亦尠くないのである。地方行政は將來の理想たる地方自治を目標として健實なる進歩を續け、昭和五年には制度の全般に亘る改正を見、道制を除く外は昭和六年度より施行せられたがその運用は概ね良好に行はれ、官民一致の協力に依り豫期以上の成績を收め、民心亦之が爲一新するの兆を呈するに至り、道制施行の氣運も漸く熟しつゝあることは寔に同慶に堪へない所であるが然し乍ら現在の制度も將來の理想に對する

一階梯に

過ぎぬのであるから、更に地方の發達に伴ひ完全なる地方自治制度に向つて、一大躍進を爲す日の一日も速かに來らんことを期待して已まぬものである。地方行政の進歩は法令制度の形式にあらずして其の制度を活用し自治的行政の實績を擧ぐるに在りと信ずる、しかして制度の活用にはこれに對する知識の進歩、特に公共心の向上と經濟力の充實とを必要とするが故に、私は更に地方行政進歩の爲に官民共に將來此の點に留意あらんことを切望する次第である

土木事業 一層地方民の緊張を要す

昭和七年度における土木事業は非常な盛況を呈し、その豫算總額は總督府開設以來の最高レコードを示して居るのである、即ち國費直轄土木事業費が五百八十餘萬圓、窮民救濟事業費が二千六百五十餘萬圓、時局應急施設費が、一百七十餘萬圓、これに上記以外の國庫補助事業費等を加算する時は實に三千七百萬圓の巨額に達するのであつてこれ等諸事業は、道路に河川に港灣に都市施設に各種の土木事業として各道一齊に實施せられ、到る所にスコップの音トロッコの響が聞かれるといふ

盛大さて

あつて、前記大豫算消化の爲に各工事場は多忙を極めて居るのである。殊に時局應急施設事業は九月に入りて豫算が成立したので、その後は一層の繁忙を來したのであるが、幸に地方民の勞役勵念及勞働能率も漸次增進した爲に大體豫定に近き工事の進捗を見つゝあることは洵に幸である。而して以上の工事を完成するには全鮮を通じ少く共一日平均約十萬人の人夫を要する計算となるのであるが、今日迄の實績に徵するに人夫の出役成績は未だ以て十全なりとは言ひ難いのである、推算によるも全鮮の窮民總數から稱ふるときは尚多數の就役者を工事に送り出す必要があるのみならず、豫定通り工事を進捗さす上に於ても今後是非共

出役人夫

を增加せしめなければならない、此の點に就ては今後一層地方民の自覺を促す必要の切實なるものあるを感ずる次第である。又最近出役者の勞働能率が漸增しつゝあることは誠に喜ばしい現象であるが、折角熟練した勞働力を毎日我慢強く續けないで仕事を早く切り上げたり、又は怠業する日數の多いことは甚だ遺憾である。從つて勞働能率は增進したが收入はあまり增加しないと言ふ奇現象を呈してゐるのである、此の點に就ても一段の注意を要するのである。本年度は土木事業の盛大なりしに伴つて地方に撒布された勞銀其の他は相當多額に上つた譯であつて、それが爲に地方を潤し各方面に表はれた効果は實に著しいものがあるが、只就役者が偶發的收入の增加に幻惑されて

折角苦心

して得た收入を浪費する傾きはないか、或る地方においては工事附近に於ける市日が特に繁榮を來して居る、しかして市日當日には必らず出役人夫數が著しく減少する、之は果して何を物語るものであらうか、汗に依り得た賃金を市日の酒幕に散ずるのではなからうか、果して然りとせば重大なる使命を有せる窮民救濟事業の目的は實に悲むべき結果に陷ることなきやを憂ふるものである。以上の實狀に依り稱ふるときは未だ一般に勤勉力行の氣風の微弱なるを歎ぜざるを得ないのである、因習の久しき到底一朝一夕にこれが矯正を期することは困難であるが、この氣風の涵養は刻下非常時に於て殊に

其の急務

なるを感ずるものである。政府が尨大なる豫算を編成して各種の土木事業を起したことは、固より疲弊せる地方民を救濟し刻下の非常時局を打開するにあるので地方民は此の機會に於て盛んに土木工事に出役し勤儉力行以て出來得る限り多くの貯蓄をなし、勞働及貯蓄の美風を養はなければならない。來る昭和八年度に於ても七年度と大差なく土木事業豫算總額は三千萬圓に達するものと考へられ、從つて地方に撒布せらるべき勞銀其の他も多額に上り窮況打開の原動力が與へられることであるから、昭和八年に於ては更に心氣を新たにし一層緊張して上下一致目的達成に邁進しなければならない

安居樂業の天地へ 朝鮮統治の成果

拓務大臣 永井柳太郎

昭和第八の新春佳節を迎ふるに當り、謹みて聖壽の萬歲を祝し奉り併せて衷懷の一端を披瀝して朝鮮官民諸氏と共に半島の將來を壽がむとするものである。昨年五月拓務大臣の重責に承けてより爾來外地統治の大精神に副ひ、夙夜所管各域の隆榮と國運の發展とを念とし、以て鋭意拓務行政の伸長に微力を致し來つたのであるが、顧つて輓近國際政局の動向特に滿洲事變以來の世界の情勢を觀るに、我帝國が國際正義の實現と東洋平和の確保とを以て國是とし、その實現に全力を傾注し來れるにも拘らず、我國の公明なる意志未だ諸外國に徹するに至らず、依然孤立苦鬪の境に在るが如きは遺憾と稱するの外なき次第である、然し我國民的大信念の下に益々結束を堅くし、國是の遂行に努力するに於ては軈て我國の眞精神の全世界に徹底するの秋の來るべきは期して待つべく、帝國の前途一層赫燿たるものあるを想ふて欣快禁じ難きものがある。

我拓務行政の大眼目はその開發と帝國の半に及び、風土、習俗、文化、歴史を異にする外地各領域を通じ、その住民の治からしむると同時に、雄志を抱いて海外に活躍せんとする邦人に國家的助成を與へて、世界各地に更生の新天地を建設せしめ、兩々相俟つて日本の平和的大衆的發展を圖るに在ることは敢て絮說を要せざる所である。

惟ふに我朝鮮は明治四十三年聖治の域に入りて以來、事物百般逐次面目を新たにし、產業人文の發達の顯著なる中外の齊しく驚歎措かざる所である、是偏に日韓合邦の大精神を宣揚せんとする半島官民諸氏の終始不渝の絕大なる努力の成果と謂ふべく、此間に於ける歷代總督以下の異常なる苦心は想ふだに感謝の念を禁じ難きものがある。

朝鮮は帝國と亞細亞大陸とを連繫する紐帶たり、特に新興滿洲國と帝國とを結合する文化的、經濟的楔子たるの重大なる特殊使命を有し、帝國の半島統治が實に極東の平和を擁護する力强き礎たる上の任務を竭しつゝある嚴肅なる事實に鑑みるとき、予は半島二千萬の同胞がよく視野を大に、心懷を潤くし、和衷融合、半島の天地をして安住の樂土たらしむると同時に、進んでこゝに光輝ある新文化を建設し、東亞全局の康寧と福祉との增進に貢獻せんことを切望して已まざるものである

今や滿蒙の事態一新に伴ひ內鮮人共存共榮の基礎愈々强固を加へつつあることは予の衷心より慶賀に堪へざる所であつて、予は茲に朝鮮同胞と共に大日本帝國の萬歲を三唱せんと欲する。

鐵道

使命重きを加ふ 文化の先驅者

半島開發に又日滿連絡に

鐵道局長 吉田浩

半島陸上交通の業務に從事し最初の新春を迎ふるに當り所懷を述ぶるは眞に欣快とする所である、財界の不況も今や更始一新の徵を萌し隣邦滿洲國に於ては建國第二年を迎へ新興の意氣を以て建設途上にあり、此の秋に當り我が朝鮮の鐵道は、日滿交通の要衝として、いよいよその使命の重きを加へ來つたことは言を俟たない、即ち一例を擧ぐれば東京より朝鮮の縱貫幹線を經て新京へ、スピードアップの必要も迫り、又資源に豐かな東部滿洲の開發が進むにつれ、その生產物の販路として、雄基、羅津、淸津の諸港を介し、之を內地に求むるは必至の趨勢と云ふべく、從つて我が北鮮の諸線が、茲に重要なる役割を擔ひ、日滿の交易上新たに一大幹線を形成せむとするに至つた

翻つて鮮內鐵道建設の方面を考ふるに、惠山、滿浦等國境線の延長は、順調に進捗して既に經濟地點に達し、北鮮拓殖鐵道も本年度內には一部の營業を開始して、木材、金鑛等の富源を開發し、東海線の諸線も亦年と共に伸長して幾多の古蹟探勝地等への距離を短縮し、或は南鮮各地の交通に便益する所多大なるものがある

一面陸上交通統制の見地から、自動車營業の監督が當局の所管とせらるゝに至つたが、近く自動車交通事業令も發布され、法令の整備と共に事業の統制も漸く其の緖に就かむとして居る

斯くして三千餘粁の國有鐵道と一千餘粁の私設鐵道は、三萬五千餘粁の自動車網を加へ、半島陸上交通の整備に、產業の開發に、其他あらゆる文化の先驅者となりて自力更生の新しき昭和八年に臨まむとするものである

朝鮮の鐵道は未だ經濟線に至らざるもの多く、之が經營に相當困難を感ぜらるゝもその使命たるや實に重大なり、半島文化の開發、產業の進展に資すべく、吾等內鮮二萬の從事員は整齊戮力、以て交通機關の完備を期する次第である

官民各位吾等が微衷を諒とせられ、充分なる理解と指導とを吝まれざらむことを切望する次第である

農林

窮狀打開には 先づ自覺から

前途に光明を認めさせたい

農林局長 渡邊忍

一陽來復茲に昭和八年の新春を迎ふるに當り謹みて聖壽の萬歲と皇室の彌榮を祈り奉ると共に我半島產業の隆盛躍進を念願する次第である。顧ると昭和七年は吾が國に於ては內外共に誠に多事多端の歲であつた、加ふるに累年打續ける經濟界の不況は農山漁村の疲弊を來し中小商工業者の極度の窮迫となり產業上に於ける受難は特に甚大なるものがあつた。私は過ぐる一箇年を回顧し今茲に半島產業の實情を觀り、當業者と共に相協力し凡ゆる困難の排除に努むると共に自力更生の大旆の下に緊褌一番半島產業の隆興に勇往邁進したいと念願するものである

商工業 相當の好轉を期待さる

朝鮮の商工業は昭和七年當初に於ては打續く世界的不況に累せられて、農山漁村の疲弊と共に依然沈衰の域を脫せず、之が匡救の爲に官民共に腐心を重ねた所であるが、其の後對外的には金輸出再禁止に基く圖爲替の暴落、滿洲に於ける政情の安定、米國財界に於ける幾分の好轉等に起因して輸出貿易は著しく好轉し來り對內的にも政府の農山漁村、中小商工業者の救濟等財界非常時對策低金利政策などに依り漸次回復への步調を辿りつゝあるものゝ如く認められる

先づ貿易に就て見るに輸移出入總額は七年十一月末迄に於て既に五億四千八百八十四萬圓に達し六年同期に比し一割五分の增加を示し就中輸出貿易に於ては滿洲輸出は二千三十八萬圓となり、殊に對り六年に比し約三倍の激增を來した

斯くて對外貿易の好調は政府の各種救濟事業、低金利政策、インフレーション政策等と相俟つて國內の各經濟事象に好影響を與へ物價は夏頃より著しく騰勢を辿り、一般卸賣物價に於ても六年十一月の指數に對し七年同月には一割二分三厘の騰貴を示し、殊に重要商品に於ては四、五割の增を示せるものも尠くはない、殊に財界の影響に最も敏感なる株式市場に於ても昂騰を續けて最近は近年稀なる景氣を呈し朝鮮產業の中樞たる米穀に於ても最近に至りて相當の昂騰を見、昨夏以來近年稀なる好況を示せる絲價と共に農村に多大の好影響を齎してゐる、上述の好轉は政府の各種施設と共に一面金融界に及んで貸出の激增となり又運輸界の回復となり荷動きに活況を呈し、鐵道輸送貨物も漸增し海運方面に於ては運賃の騰貴を示し配船不足の盛況を呈してゐる、而して工業方面に於いても工業熱漸次旺盛となり人絹工場、紡織工場の新設擴張等工業の勃興機運を釀成しつゝある

以上の好轉は昭和八年に於いては如何になるであらうか、昨年の好轉の原因たる爲替關係の影響は今後尙相當繼續するものと豫想せられ、滿洲貿易に就ては同國內に於ける今後の施設に俟つものにして最近の輸出の躍進は單に同地の政情の幾分安定せるに因るものなること、及び政府の低金利政策及インフレーション等の影響は寧ろ今後にあること其の他政府の各種の新事業、北鮮開拓、滿洲國に於ける運輸機關の整備等々を考察すれば新しき年に對する展望は突破的異變の生ぜざる限り相當の好轉を期待し得らるゝことゝ思はれる

鑛業界 產金を先驅に一齊好轉

鑛業方面に於ては金鑛業の採算極めて有利となり一方時局の關係其の他內外事情は依然として產金增加の緊要なるを痛感せられ朝鮮金鑛業の將來は一層期待せらるゝに至つたのである。特に三月政府が金地金の時價買上方針を決定したる或は本府の金探鑛奬勵に關する豫算が議會の協贊を經ることを得たる等內外の刺戟全く朝鮮金鑛業に注がれ、鑛業出願件數は實に約三千件を算し就中金鑛業の出願は其八割を占むるの狀況であつた。金探鑛奬勵施設は諸般準備の都合により八月に至り金探鑛奬勵金交付規則を制定發布して實施したるが交付の申請を爲すもの實に二十六鑛山を算し之れ等に對しては夫々調査を遂げ年內大部分交付の指令を發したのである。元來金鑛業に對しては補助金を交付するが如きは實に劃期的の施設であつて此の意味に於て昭和七年は朝鮮鑛業界としては誠に記念すべき年であつた。而して本奬勵施設も昭和七年度に於いては、種々の關係上廣く中小鑛業に及ぼすことを得なかつたので、更に昭和八年度においては相當豫算の增額を要求し其の他にも新規なる補助施設に付て聊か乍ら豫算を要求中である、幸にして議會の協贊を經ることを得ば本年は更に其の範圍を擴張して中小鑛業家の期待に副ひ得るものと思考する

以上直接補助施設の外去る臨時議會に於ては救濟事業費中に金山道路改修費を計上せらるる等朝鮮金鑛業は誠に、惠まれたる狀勢裡に記念すべき昭和七年を送つたのであるが、年末頃に至り之れ等金鑛業旺盛の傾向等の爲一般財界稍好轉の傾向を示し、爲替相場に對比し低廉なるに乘じ金の密輸出を誘致し、前途に一抹の不安を投影した、本年は之れ等の點に付て官民共に充分なる警戒と對策とを講ずることが肝要であらう。

銀は漸く市價騰勢を示し好轉の兆を見せ其の他鉛、亞鉛、水鉛等の特種金屬鑛物にありても相場漸く採算點に達するの希望あり斯種鑛業復興の曙光を見るに至つた

石炭は有煙炭が年末需要季に於て內地及滿洲炭の朝鮮進出により狹隘せらるるの狀勢を呈し聊か不安を感ぜしめられたが、朝鮮炭の特質は依然主として家庭用方面に普及して其の需要を喚起し且內地に於ける石炭販賣統制機關として昭和石炭株式會社の創立を見て內地炭界不味に對する對策が講ぜられ、滿洲炭は種々の事情によりて豫期の如き大量輸送困難なるものあるが如く、甚しき影響は免かるるに至るべく觀測せらる、無煙炭需要季節に至り內地需要著增し各炭坑とも相當移出量を增加し好況裡に越年した

其の他黑鉛も幾分好轉を期待し得るの傾向あり、朝鮮產明礬石は輕銀原料として着目せられ已に內地に於て企業に着手せられたと聞く、螢石はこれ亦內地需要を增加し、埋藏量殆ど無盡藏と稱せらるる高嶺土は其の品質漸く認められ、西海岸地帶に於ける硅砂は硝子原料として名あり、石綿亦漸く斯業者の注目を惹き或は新に有望なる菱苦土石の大鑛床が發見せらるる等非金屬鑛物に於ても亦其の豐富なる資源は前途大に祝福せらるるものがある

水產業 更に一段の工夫を要す

水產方面に於ては漁業は昨年春に改正せられたる漁業制度の下に步一步堅實なる發達の跡を辿つてゐるが、近年の經濟界の不況は魚價にも多大なる影響を及ぼし近年漸落の一途を辿れる漁獲價額は漸次低減し漁村は漸く疲弊の色を加ふるに至つた。而してこれが匡救に關して漁業經營の合理化を圖ることは此の際最も緊要適切なることゝ考へられるので漁業組合をして極力低利なる資金を融通せしむると共に、地方財主の融資に付ても從來其の弊最も大なる不當契約の是正に努めしめ、一面漁價の維持統制に資する爲漁獲物の委託販賣を勵行せしめ、尙之が助成徹底を期する爲道令を以て漁獲物の陸揚地及取引地の指定を爲し、其の他一般漁民の福利を增進すべき各種の共同施設を助成する等鋭意之が救濟更正に努めつゝある

水產物の製造業は一般に品質著しく向上し朝鮮產品の信用益々增加し其の販路漸次擴張しつゝあることは洵に喜ばしい現象である。然しながら近年の經濟恐慌の影響は製造業方面に於ても極めて深刻で就中水產品中の大宗たる鰮油及鰮搾粕の製造業に於ては打擊極めて甚大で殆と斯業の經營に直面したのであるが、各關係道內に於ける當業者をして水產組合を組織せしめ製法の改善、生產費の低減、低資の融通、販賣の統制、運賃の低減等の諸施設を爲さしめ、漸く相當の採算を維持することを得たのである

又支那向の水產製品は客年の日支紛爭以來、遂に輸出は殆と杜絕するの悲境に陷つたが、事件の解決と共に漸次回復するものと思はれる。尙一方滿洲國の成立に依り、將來同地方の嗜好に適する製品の輸出に專ら努力すべきであると思ふ

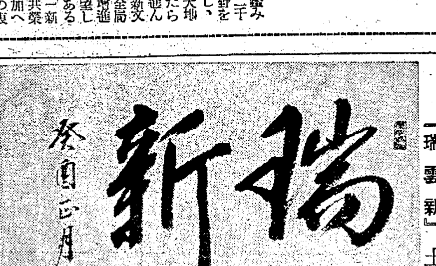
罐詰製造業に付ては今次の經濟恐慌に際會し鮮トマト罐詰及蟹罐詰に付ては朝鮮一圓の當業者を網羅する水產組合を組織せしめ規格の統一、製品の改善、生產費の低減、資金の融通、販賣の統制、販路の擴張等に關する施設を爲さしめ强固なる結束の下に和衷協力善處せしめたる爲價格暴落の打擊を受けずして堅實なる發達を遂げ來つて居る

念願 一層努力と充分の戒心

敍上の如く朝鮮に於ける商工業、鑛業、水產業の前途は極めて洋々たる曙光を認め得らるゝのであるが、靜かに檢討すれば一般國內消費の依然たる不振狀態、國際爲替問題に關する將來の不安、世界不況の未だ終熄せざる等種々深甚の注意を拂ふべき點多々あるのであるから、一般商工業者は須く充分の戒心を要すべく、この際幾分たりとも現れたる好調を利用して取引の改善、事業合理化の徹底を策し以て將來の飛躍に對する準備を怠らざると共に着々發展の地步を占むることに充分なる覺悟と一段の努力を拂ふことが肝要である

又鑛業者にありては既に金鑛業を先驅として鑛業界は一勢に好轉の動を見せつゝあるのであるから此の氣勢を逸せず、而も往年世界大戰當時の如く徒に好況に熱狂して度を失することなく確固たる企業により堅實なる發展を期することは、昭和八年に於て朝鮮鑛業界にあたへられたる大なる試練として特に企業家各位の冷靜なる計畫と熱烈なる奮鬪努力を希望する。

次に水產業者にありては、速かに從來の粗放なる經營方法を矯正して之が合理化に努むると共に各種水產團體は各其結束を固くし專らその强化を圖り當に有效適切なる共同施設を爲し當業者の生產費の低減を圖り、漸次高利債の整理を行はしめ生產品の販賣の統制を爲し價格の維持に努むる等、將來一層團體の力を活用するが非常時局の匡救上將又產業の開發上最も望ましいことゝ思ふ



『瑞雲新』土方日本銀行總裁

賀正

朝鮮取引所仁川支店 澁谷鐺

仁川郵便局長 小川要次

仁川府海岸町 三井物產株式會社京城支店 仁川派出員 太田政郎

仁川本町 松屋呉服店 電話八二番

仁川柳町 合名會社 朱命基精米所 電話三八一・九四六番

仁川海岸町二丁目 仁川鹽共同販賣組合 電話八一六番

仁川本町四丁目 綿布商 河野商店 電話一八番

仁川府本町四丁目 仁川無盡株式會社 電話七六八番

仁川山手町 上田文次郎 電話九五〇番

仁川仲町 淺岡旅館 電話五三番

仁川府本町 文具商 中川勝美堂 電話三四一番

仁川物產客主組合 電話四八番

朝鮮取引所米穀部 取引員組合
○ 桑野健治
(大) 堆浩
(太) 新田義民
(王) 金仁梧
(ウ) 內海清藏
(マ) 菰淵紋七
(メ) 竹多柳三郎
(福) 小林幹三
(益) 康益夏
(?) 劉君星

京仁線朱安 精米業 渡會儀市

辰馬汽船株式會社代理店 本店、京城。支店、鎭南浦、釜山
仁川府本町四丁目二番地
株式會社 朝日組仁川支店
電話長五二・九番六八二番 九六四番 電略(ア)
振替口座京城六一二番

仁川穀物協會

仁川船具金物商組合

天日鹽、食卓鹽、精製鹽、粉碎洗滌鹽販賣
京城專賣局仁川出張所

仁川濱町
朝鮮運送株式會社仁川支店
電話長五二一・長三四八・一四三

殖産

前途洋々たり矣 然し今が大事

將來の飛躍準備を怠るな

殖産局長　穂積眞六郎

窮狀打開に努力を傾注

顧みれば始政以來既に二十有餘年、その間常に大衆の福利増進と産業經濟の進展とを目標として進んで來たのであるが、最近に至り累年の不況は社會全般に……

土改事業も恢復の機運

土地改良事業計畫は大正十五年産米増殖計畫更新の當時……調査も完了し、本年は愈よ法規の制定を見るべく、又産業組織の整理統一、競馬法規、畜産計畫等の諸施設も本年より實施せらるべく半島産業の發展に堪へない次第である

……ので、始政以來夫々必要の施設を爲し、其の成績見るべきものあり往年の荒廢たりし赭山荒野も今や次第に森林を構成し半島緑化の跡著しきものあるは洵に欣快に堪へない所である、然し地方林業施設に付仔細に之を見れば、尚今後の改善に俟つもの甚だ多く、林政の……

北鮮開拓とその重要性

……

警務

警察はあくまで公衆の味方

相携へて更生に邁進したい

警務局長　池田清

茲に感慨多き昭和七年を送り端睨す可らざる新春を迎ふるに當り更始一新益々警務の刷新を期し部下諸員と共に奮勵努力以て警務の重責を完うせんことを……

顧著なるものあり、治安維持上深く憂慮に堪へないものがあつたので、我が朝鮮に於ては此の重大なる時局に鑑み緊重なる特別警戒を實施し、不良徒輩をして蠢動の餘地なからしめ、以て治安の完璧を期したのであるが、幸ひにして……

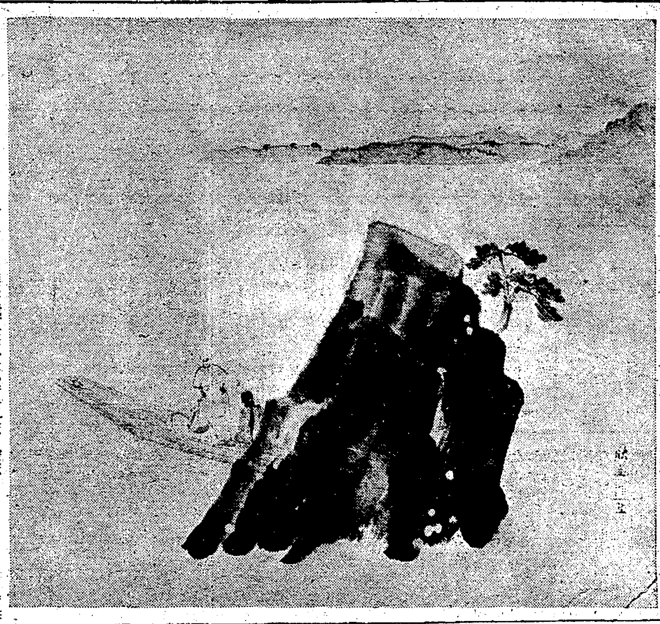
國境方面の警官の活躍

次に國境方面の状勢を見るに、滿洲國の成立以來國境對岸に散在して居た馬賊、大刀會匪、共匪等は學良一派の使嗾に依り……

殉職警察官の栄光に祭粢料下賜

……

鶏　池上秀畝



朝の海　松岡映丘

言論界

朝鮮言論界の狀勢を通觀するに、近年能く統治の精神を體し大衆の指導と啓發に努力せられ、殊に昨年は滿洲事變を始めとし内外諸多の事件の爲に洵に多事多端であつて、朝鮮統治の上に及ぼした影響も尠くなかつたのであるが、能く之が指導を誤らず時局に適應せられ、……

感謝に堪へぬ

癩救療豫防事業に寄せらるる同情

癩の救療豫防事業に付きましては已に御承知の如く昨年末財團法人朝鮮癩豫防協會を設立し……

聖恩鴻大

困窮者救療の計畫實施さる

學務

國民の緊張は喜ばしい限り

禍を轉じて福となすの機

學務局長　林茂樹

自奮自勵

助長進展

協心戮力

警官の職務に

各位の御理解と御援助を仰ぐ

今日まで

不屈不撓

根本精神

謹賀新年

仁川砂糖米穀株式取引所　所長　伊佐山伊三郎

仁川濱町　米穀商　松浪秀雄　電話一七〇番

仁川宮町　株式會社　増田屋商店　電話一〇九番

仁川濱町　仁川旅館　電話四五番

仁川府會議員　佐藤滿賀

仁川府龍里一七一　邵城藝妓券番　電話八六番

仁川金融組合理事　上野進一郎

うどん　そば　ぜんざい　正月屋　萬盛庵　電話八四番

仁川支那町　華商商會

仁川濱町　穀物商　吉金喜三郎　電話六三〇番

仁川本町四丁目八　穀物輸出商　久米商會

阪神汽船株式會社仁川代理店　仁川組回漕店　本町四丁目二番地

仁川仲町　綿布商　協成商會　電話三六番

仁川山根町二丁目　米穀肥料　山口富太郎　電話九八番

仁川外里一七七　金允福

仁川府外長堤里　麵子製造組合　電話七五番

阿波國共同汽船會社　大連支店　第三十六共同丸

仁川月尾島遊園　會長　吉田秀次郎　專務　今井省三

仁川仲町　内科小兒科　川口病院　院長　川口漁夫　電話四〇九番

仁川山手町三丁目　岩井病院　電話一〇二番

仁川商工會議所　會頭　吉田秀次郎

仁川府會議員　中川哲

仁川府尹　松島清

京畿道富川郡　北島面漁業組合　德積面漁業組合

仁川穀物協會内　㊆仲立組合　橋口勘右衛門、木下德三、田岡留吉、本村篤一郎

仁川稅關長　芳賀文三

仁川酒造組合

朝鮮取引所　常務理事　秋山滿夫

仁川花町　奥田精米所　電話六〇八・七〇五・三六七

仁川米豆取引所　平岡宇太郎

仁川商工會議所　副會頭　太田忍

謹賀新年

京城府本町二 日章堂 電話本局一八七四

京城府黃金町四 德永商會 電話本局三七三三

京城府南山町二 京城美術倶樂部 電話本局二三六〇番

朝鮮製綿株式會社 京城府元町一ノ一〇四

京城府本町一 山岸天佑堂 電話本局三七二一

京城府長谷川町 朝鮮水產會 電話本局二四六〇

遞信吏員養成所 佐々木仁

京城府黃金町二 龜屋旗店 電話本局一五八五

京城府本町三丁目 紙商 望戸力一 電話本局一八〇五

京城府南大門通二 增田食料品店 電話本局二五三三

京城府南大門通三 東京火災保險株式會社 京城支店

京城府南大門通一 大同生命保險株式會社 京城支部 電話光化門六七一

京城府南大門通五 朝鮮火藥銃砲株式會社

京城府本町二丁目 印舗 千代田號 電話本局九八七

京城府旭町二 京城葬儀社 電話本局一五六七 四二四二

大田醫師會

大田榮町一丁目 稻永酒店

大田本町一 生野精米所

大田春日町二丁目 アコヤ樂器店

大田春日町二丁目 雜貨 陣内稔

大田本町一丁目 新川屋辨當店

大田本町二丁目 明治生命保險代理店 沼田虎次郎

大田本町一丁目 田中幸佑

大田春日町二丁目 牛屋正雄

大田本町二丁目 高田卯吉商店

大田春日町二丁目 湊印刷所

大田驛前 菊水 新井利邦

大田春日町一丁目 たからや號 上田力太郎

大田春日町二丁目 古田折箱商店

大田本町二丁目 鈴木喜一書店

大田本町一丁目 高谷食料品店

大田榮町二丁目 王丸魚店

大田本町二丁目 三協商會支店

大田春日町二丁目 丁子屋醸造場販賣部

大田春日町二丁目 瀧川大田支店

大田本町一丁目 齋藤金物店

大田春日町二丁目 朝鮮ラヂオ普及會

大田春日町二丁目 曾田染工場

大田春日町二丁目 杉光武右衛門

大田本町二丁目 朝鮮革具製造會社

大田本町二丁目 大盛堂藥房

大田春日町二丁目 中野寫眞館

大田春日町 野々村印刷所

大田鐵道水曜會

忠清南道立大田醫院職員一同

忠清南道農會
同畜產聯合會

東洋拓殖株式會社大田支店
株式會社殖產銀行大田支店
郡是製糸株式會社大田支店
株式會社漢城銀行大田支店
大田電氣株式會社
朝鮮興業株式會社大田管理所
日海興業株式會社大田支店
大田金融組合
朝鮮運送株式會社大田支會
忠南無盡株式會社
懷德金融組合

忠清南道金融組合
同聯合會

大田料理屋組合

忠清南道森林組合聯合會

忠清南道水產會

大田本町二丁目 芦田朝鮮支店 電話一六五番

大田本町 肥料 雜穀 若林茂商店 電話四六番

大田本町二丁目 南部京平商店 電話四五番

大田春日町二丁目 ますや酒店 木本增藏 電話二六七番

大田驛前 自由軒 電話四一四番

大田 畑商會 畑孝三郎 電話二二九番

大田春日町三丁目 安井煉瓦工場 安井金之助 電話一七八番

大田榮町 昭和印刷株式會社 電話六三二番

大田 トラック組合

大田本町二丁目 商友會

大田春日町二丁目 大田皮革株式會社 電話一三四番

大田貸座敷組合

大田本町二丁目 西村哲次郎 電話長一四六番

大田邑議員
佐藤庄太郎
本司義足
中村藤太郎
野木林藏
山川德次郎
金東洙
金大英

日本生命大田出張所 尾崎喜藏
千代田生命大田出張所 陣野起平
明治生命大田出張所 實田茂

鳳鳴館

大田春日町 大田座 主 小松省三

大田本町二丁目 百萬商會 電話一〇一番

大田驛前通り 雜貨 堀米吉商店 電話一四二番

大田驛前通り 土井洋服店 電話三一七番

大田本町二丁目 活田太一

大田本町二 松浦牛乳搾乳場 電話一七〇番

大田本町二丁目 土井深商店 電話六五番

大田春日町一 福田吳服店 電話一六二番

大田本町二丁目 今井辰次郎 電話三六番

大田榮町 末吉翠香園 電話三五五番

大田榮町 一光商會 電話一一三番

大田榮町 大田產業組合

大田春日町 岡金太郎商店 電話一〇一番

大田春日町 銀座履物店 電話一四六番

大田春日町二丁目 福永寫眞館 福永正二

大田大興町 五十嵐工場 五十嵐政光

大田本町二丁目 鶴川伊兵衛 電話二一〇番

大田大興町 警心館 稻田啓四郎

大田本町二丁目 芦田葬儀店 芦田松雄 電話三二一番

大田本町二丁目 箕浦廉次郎

溫泉自動車部 電話六〇一番

大田木材商組合
中澤材木店
明田材木店
吉原材木店
富士材木店
實政材木店
小澄材木店

大田郡東明普通學校長 宮原英夫
同山内普通學校長 中野繁三
同儒城普通學校長 池田美德
同鎭岑普通學校長 中村八之助
同九則普通學校長 宗方喬
同儒城小學校長 宇野木時藏
同鎭岑小學校長 内之浦秀夫
同新灘津小學校長 竹野義龍

大田 須々木組 組員一同

大田學校組合會議員
吉村吾一
中島潔
永吉嘉兵衛
南里六次郎
山本幸太郎
安井鈴次郎
湯藤書生

大田本町二丁目 原田ラク

大田驛前通り 島田吳服店

大田本町一丁目 岡本仁作魚店

大田春日町二丁目 小野自動車部

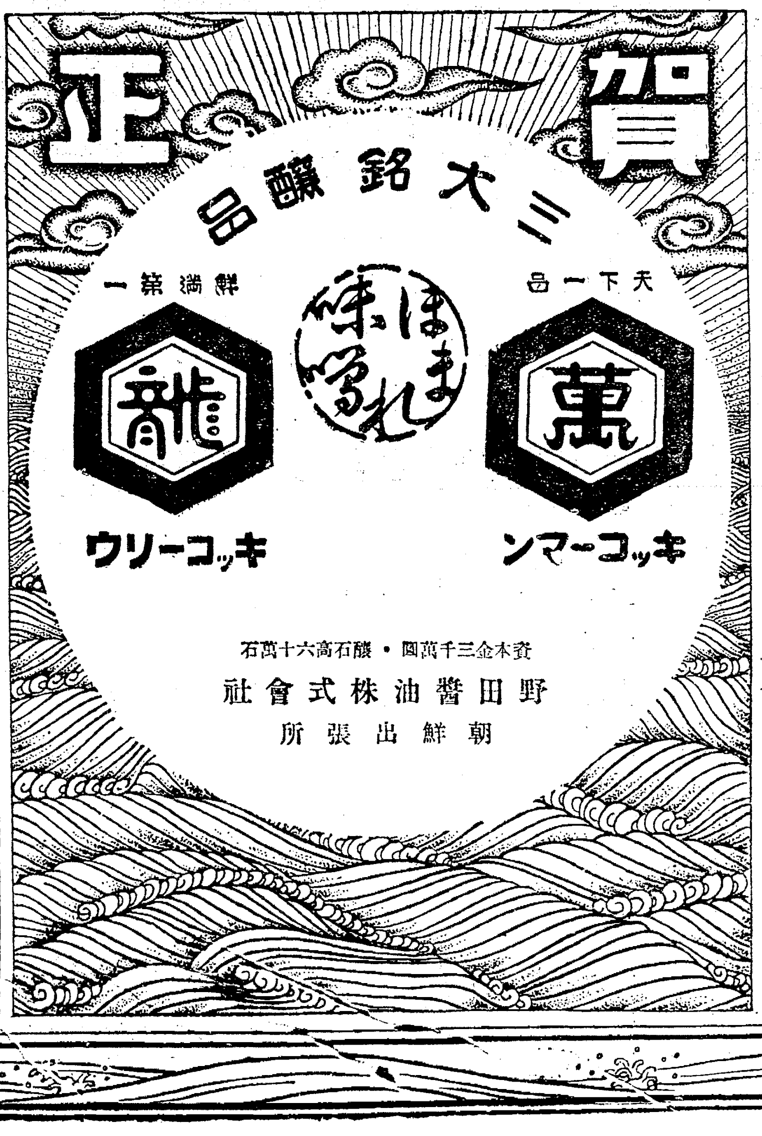
大田鐵道構内 四百番會

新日本火災保險會社 大田代理店

大田本町 大田物產株式會社

大田春日町二丁目 武井運動具店 電話三三九番

大田
石光齒科醫院
橋田齒科醫院
戸木田齒科醫院
十川齒科醫院
竹田齒科醫院
山下齒科醫院
橘高齒科醫院



大田本町二丁目 天野時計店 電話三二〇番

大田本町二丁目 辰巳昇藥舗 電話四二六番

大田驛前 井上タメ商店

大田驛前 階上食堂 福田喜佐

大田本町二丁目 中尾酒造場 電話六五四番

大田 辻醬油釀造場 辻萬太郎

大田本町一 中村精米所 中村拾三

大田春日町 料理仕出し やつこ 電話三六五番

左官業請負左官材料一式 大田春日町二丁目 安藤清江

柔道整骨士 大田春日町二丁目 西田邦吉

和洋食 大田春日町二丁目 赤玉パレス 電話一六二番

大田春日町二丁目 平棹次郎 電話三四四番

大田旅館組合

大田春日町二丁目 東京そば 料理仕出 柳家 電話一二四番

大田春日町二丁目 小暮洋服店

大田本町二丁目 若山新助 電話六五六番

大田本町二丁目 酒類 穀物 松田傳一商店 電話五四〇番

大田驛前 大田ゴム商會 兒玉長之助 電話三〇四番

大田驛前 メリヤス 文房具 化粧品 雜貨 紙 田中洋品店 田中喜三郎

大田春日町二丁目 東亞藥局 伊藤健藏 電話二三五番

大田本町一 大田魚菜市場 電話一一七番

大田榮町 中峯蓄音器店

大田春日町二丁目 寶來堂 志原安太郎 電話一七三番

大田消防組

大田春日町 土木建築請負 末吉組 末吉定十

大田木曜會

忠清南道廳第一食堂員一同

忠清南道警察職員一同

昭和七年に於ける 朝鮮美術界の回顧

遠田運雄

一年間の朝鮮美術界の回顧、決して洩くべき事が少くは無い。然しこれを具に記載する事は到底成し難い事である　色々展覧會を考へるに、たゞの出稼ぎ的繪畫が目的であるものと朝鮮美術界に何事かを考へさせた所のものと在る、私は到底文章で實體を連ねて、下らないものをもうまく云ひ繕ふ術は知らないので、前者に關するものは例へ大家で有つても有名でもこれを抹殺するのに僕が折れない、其代り朝鮮の畫壇に、何物かを寄與したと認めるものに對しては努めて回想を新たにし度い考へで書き初める

昨年は前年に比を見ない程內地からの移入美術が多つたのである何か色々な理由も有らふが、最も大きな理由は繪が賣れなくなつたからで有る、衣食足りて禮節を知る通りに先づ美術は物すべて、衣足りぬ時に於ては發展活動は止まる、斯ういふ狀態が永續するとすれば恐らく本年も昨年より遙に移入者の多きを見る事であらふ

何よりも、目ざましい斯道の發展が委頽する事は頗る目出度からざる事である

一體に今は戰爭、滿洲、軍事豫の聲高い時で、美術を高い聲で言ふと叱られさうな時である。何にしろギヤングとか、何とか黨とか言ふ面倒な野蠻人があるし、日本では國民萎微の樣、たゞさへ生活に慰安潑剌の無いのが、人前を繕つて何も彼も澁び落した樣に內部生活は繪畫さつぱり、そして、ラヂオだの、紙製玩具だの、劍術道具が家の中に雑然として足を踏み込む餘地もない狀態である、勇士の歡は音樂にかけつて終つた

ヨーロッパで仲間入りする時だけ藝術にもスポーツを持ち出したり大國呼ばゝりをする人々もあるのだから、人々よ純正美術や音樂に接して、生活內容をすこし認める樣なノンビリさがあつてもよい、

軍事で思ひ出したのは、十數年前私達の現役時代の散兵線である、最初に指揮官は前面の敵の所在を示して呉れるが前進中に何時の間にか散兵が連絡を忘れてしまふので、いつの散線でも、散兵線より突出する事無く後れる事なく、常に注意を横に向けて前進攻擊する練習をツンとやらせられた、演習に於ては前面の敵は聲彈を送つて來ない假設敵であるし横へ注意を集注する樣に馴れたとすれば假設觀念上に誤りを生ずる樣に成つて來ないだらふか

この現象は、現下の日本美術界にあてはまる樣に思ふ。いつの間にか前面の敵たる目標をわすれて僻畔より抜き出る事なく遅れる事なく、たゞひたすらに末技である技工にのみ腐心して、追究に、面をそむける樣にいたる事は一昔前の散兵心理と似て居る樣に思ふ。ヨーロッパでは皆總ひく／＼の追究に餘念がない、あらゆる種類の仕事に係す所無きまでに、自己の個盤を私事に倦むを知らぬ。踊つてからに取つて今迄見えなかつたこの日本畫界の特殊性が目に立つて來たこの鑑別に關する事無い埒外の朝鮮では激動の無い事は淋しい事であるとしても、一つのほのかな喜びであると思ふ、然し斯ういふ土地柄に離れて生活する者は通常の努力では猶まだ足らず格別の緊張を忘れてはならないと思ふのである

扨て私は本題を進めよう

先づ一月に於て三越で開かれた在城畫家の色紙展に昨年の展覧會の第一指は屈せられた

平素と設の展覧會などで其人の力作のみに接してゐたのであるが、この諧謔調と即興詩の小品に依つて或る人々の極めて良き半面を知る事が出來た

村上美里氏の毛筆の味、堅山坦氏の技工は秀れたものであつた、多田氏の色紙も光輝を放つてゐた、

春寒圖　木村竹太郎氏作

五月ごろからそろ／＼冬眠後の活動期に入る

白日會が朝鮮新聞社主催で商品陳列館にて開かれた、鮮展の前の事とて一般に非常な期待が掛られて蓋を開けた、確に鮮展よりも力作が多いことは事實であつた、なほ詳しく云へば、この會員達は洋畫壇に於て皆有名な人々である、それが曾て鮮展に出品した作品ばかりを集める事故、一般の鑑賞家に取つては從來の見物であるといふ先入的觀念の上に催しに設けられた期待である

私はこの大展覧會に於て見出したものは、何でもない或る特殊の才能だ、アカデミックの緊張を缺いた人達の大作が何であらう、この愚劣な混濁した、洪水の中に聰い力を持つて人に迫つたものに、椎方氏の庭園の一隅を取材とした二點があつたことである、心ある人にとつて何物かの寄與があつた事と信ずる

大家を以て任ずる放漫なる一群、これは技工の出身でそれが生命である、敎へられた通りにやるより外に能力がない、たゞ常套と斷念と忍耐との結合を吾が朝鮮畫壇に與へたとすれば甚だ無意義でなかつたかも知れない

五月下旬には眞野紀太郎氏個人展が三越で開かれた、この會に於ては朝鮮にて類例の無い賣行きを示した、吾々の先輩はとまれ功勞者として迎へらるべきである、後から來た粗忽者は人波に押されて、斯ういふ老大家の辿つてゐる所を踏んではならない

五月上旬に京城日報來青閣で岩井彌一郎氏の個展があつた、氏の作品を見て直ぐに、ロシアの百姓に見る鈍重と正直とを感じたであらう

これは日本人には珍らしい性格であつて、例へばどれを見ても才氣に溢れた樣な薄つぺらな畫壇にあるとすれば、何か重々しく特殊の香氣を放つ樣に感じられる、この畫を歐羅巴へ持つて行けば極めて平凡だが

日本の洋畫壇に在つては實に珍らしい存在として喜びたゝへられるのである

日本洋畫壇にどれ程の創造力があるか、氣迫があるか、疑はしいもので、形式を徒に飾りた、技工の產物であるもののみとしか思はれない、才氣をひらめかした內容のない、嫌味な氣取りが其前衛分子である、然らずば、即興が日本の長所であるとしては、たまらない事だ

かういふ渦中にあつて氏の特性は益を誕うすべき存在である、そして吾が朝鮮畫壇に與へた寄與の少からざるものゝある事を知る

五月から六月に亘つて鮮展が開催された

凡そ既成展覧會には必ず共通の事情がある、それは鮮展に於ても同じ事でで當然の事だ鮮展の傾向に迴る問題は制度の問題である、出品者側が盛んに制度の良否を問題にしてゐる事である、曾て鮮展から一度も制度改革を提示しなかつたにも拘らず出品者が恰も鮮展から制度改革を強ひられた樣に而も毎回改革案を練つてゐる事等は、何れの展覧會にも曾て無い不思議な現象である

明年は定遂の出品者が少く成つたそして何となく無氣味な噂が出品者の間に、影の如く通り魔の如く出沒した事は例年に無い事である、出品者は他を顧る事なく、もつと熱心な作業に沒頭し向上する時は斯る愚はしきことは逃避してしまふ筈である

昨年から鮮展制度の一つにスポーツ的機構が加はつた、即ち特選がある以上に賞金が出る事である藝術家がスポーツに熱中出來る性格だつたら、その人は藝術家たるの素質に、そぐはないものを持つてゐるのではないか、藝術に默念する時はスポーツ的競爭心は毛頭ない、彫刻はスポーツに似て非なる事天地の差である、藝術初步の勉強には進級賞品授與の制のあることが見受けられる、英國で流行する犬のスポーツに商氣仕掛の疋を走らす樣なものである

制度に不滿が有るなら初めから出品しない方がましである、所が鮮展出品者の內には審査に落選したり特選に漏れたりすると不平や不滿の爲制度を指摘して見たり世論に向ふて改革や反對論を擔ぎ出す人が出る、良心が無いかと思はれる、畫家は正直で純眞だと思ふと飛んでも無いインチキを平氣でやる樣な變質的人格の出現することがあり出品者一般を救はれざる境地に陷入れ惹いては展覧會を蔑する樣になるのは理から必ず事である出品畫は大した豫想を裏切ることなしに入落が定まり特選者及賞金受賞者の發表があつたと私は思ふ

たゞ非アカデミックな側の人は割合に優遇されなかつたが、それとても審査上の誤りであるとは信ぜられない、日本畫部の李氏、加藤松林氏、堅山坦氏、宇野逸雲氏各々お年に劣らざる力作を發表して居る洋畫では昨年は特に女流の躍進を見せ、松崎喜美氏、下田キミ氏藤井芳子氏の特選があり定遂の山田新一氏、李仁星氏、久し振りで星野二氏の跳躍があつてそれ／＼力の籠つたものが出陳された一昨年特選の鄭玄雄氏も美しい少女像を出品してゐた、何にしても鮮展は吾々朝鮮畫壇の唯一の官設展である且又搖籃に等しき鮮展のより良き發展には大なる關心を持つて居る人が多い

出品者は更に己れを高め、製作に全力をそゝぐ事は彼等への唯一の道であると確信するものである

七月になると上旬に三越で多田毅三氏の告別展覧會があつた、同じ時期に明治製菓樓上で仁川出身の河本一男氏の個展があつた、已に氏は中央畫壇に於て認められてゐる人だ同氏の作品を見ると未だ獨自の形式が出てゐないけれども、氏の素質は溫雅な所があつてそれが作品の上に現はれてゐる。形式に用ずられず和やかな祖母の散策を叫つてゐる。地方出の文學青年やアマチユアの畫家の好んで趨りさうな滋味あるサンチマンの形式第一なる粗雜な近代洋畫に墮することなく、寫實に立脚し純朴な少年の心で一歩々々の地步を占めて行く氏の將來は期待さるべきである

下旬には無綫幸小澄の氏の個展小野竹喬氏の小品展が共に三越で開催された

後者は錚々たる青年日本畫大家である、この展覧會の小品に依つてのみ氏の藝術を知ることが出來たが動もすれば師範學校の優等生の臨畫を見る樣な美術に思はれて、聡明などであらうと同情された

八月には新島氏の個展が明治製菓の樓上で開催されたけれども私は都合が惡くて參觀出來なかつた。

九月上旬には高間惣七氏の個展が三越で開催された作品は大小五十餘點近來稀な大個展であつた恐らく此數年を通じてこれ程の刺戟を朝鮮畫壇に與へたものは無かつた同氏の三四年以前の作風は未だ以て本領を發揮してゐない所があつたかも知れぬ、然し最近の畫風は洋風の構成と大膽なる色彩對比とが漸次發展して來て氏の趣味に合致しようとしてゐる所が見られて作品は皆何れも習石に等しい光輝を持つてゐた

中旬には閨秀畫家松田青風氏の小品展があつた

九月下旬には三越で私共の飛鬪會が開催された、私共四人は思ひ／＼の仕事をしてゐて、藝術上の主義主張から集まつたものでは無いが、たゞ自由な作品の發表機關を持ちたい爲めに創互に出身學校が同じで友誼上の親密さを持つので、他所に在る樣な、友人を賣つたりする事無く良心から結び附いた會である

扨て各會員の作品に就ては、先づ前衛の山口長男氏の作品には昨春以來の鍛錬を見るべく展覽と案配は複雜構圖に成り、形式が整つて來た。そしてモテイヴは一層單純に還元されて來た、明らかに進步の階梯を踏みしめてゐる、氏の作品にはまだ日本畫壇の垢にまみれない生一本な所があつて喜ばしい。石黑氏の作は形式に非常な變化を來した樣であるが素材の選擇は單純化を經て、中に一二の作に於て早くも完成を見せた力强いものがあつか

佐藤氏は昨年は一部(大作)には氏の標的と技工との一致を缺きともすれば趣味に遍しようとしたが他の一部(出品)に於て極めて大膽な技工を以て成功をさめて居る

九月、十月に亘つて二科會と帝展への出品者が朝鮮畫壇にあつた、二科會へは山口長男氏、三木弘氏荒井龍男氏の三人で此の內荒井氏は初入選である

三木氏は、今や二科會の定連として、重きを加へた、朝鮮の展覽會では係り力作を發表して呉れないのが遺憾に思ふ

帝展の常連がいつも入選し、時々落選する事は帝展の爲めに良い事であり、畫家の爲めにも一つの省察を與へる機會でもある二科會への入選者が年々減じて行くの出品者は年々增えて行く、帝展京城出身の遠藤浩三氏は、昨年の帝展に入選してゐる出品畫は評判が良い、其他鮮展で昨年特選に成つた、李仁星氏が、水彩で初入選してゐる、この二人だけを朝鮮展係者から出したのみであつた

遠藤氏は曾て鮮展にも出品して入賞して居る、先年歐洲留學を終へて歸朝後一時模索時代を經過したが、雖然一昨年から、形式を完成し一派の畫風を創造するに到つてから目覺ましき飛躍をなした

朝鮮出身のために、朝鮮畫壇に取りて慶賀に堪へない、最後に十一月になつてから、第二回目の朝鮮アンデパンダン展が商工獎勵館で開催された、大作に乏しく皆整理一ぺんの出品にしか見えなかつた荒井龍男氏が大作を出品して人目を惹き、田中善明氏の作が、當時京日で批評を書いた、石井光楓氏に評判が良かつた、高木寬氏は最近の上京により中央畫壇見學の結果形式上の變化を御みやげに齎した、同氏の作は良い所がある

十二月に入つて青山熊治氏の長逝が報ぜられた

心臟狹窄症が因をなしたといふ事である、曾て猫が日向ぼつこをしてゐる樣な青山さんの寫眞を見て、如何にも心構への悠然たる、風丰に見受けたが、それは表面の事で、其皮下には、仕事にどれ程の血を搾る、酸苦に堪へて居られたことであらうか氏の大作は大家の風格を備へ高の描技品格を備へたものであつたが已に今は亡し日本洋畫壇の大なる損失であることを痛惜するのである。本年は昨秋から京城に滯在の石井光楓氏が當地で畫會を開くかも知れない、永い間亜米利加と歐羅巴で研鑽をつみ昨春歸朝した人である、氏の作品には、日本的な陳腐の缺點に少しも影響を受けない大味なまゝの力が作品に盛られてゐる事と思ふ

なほ遠藤浩三氏も故鄕に等しい京城で本年は個展をやりたいといふ希望があるさうで最近の仕事を吾々に發表してくれるであらうし兩者の個展は必ずや朝鮮畫壇に良い刺戟となる事を豫想する

さて私の書くべきことはこれで盡きた(終)

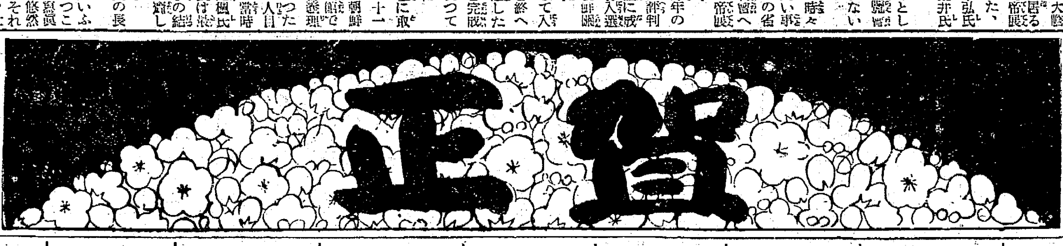
銘酒喜久松釀造元　平壤　松岡酒造場

平壤府山手町　菓子商　田端寶榮堂　電話四五三番

朝鮮平壤府壽町　酒類問屋　奧田政吉商店　電話一五二番

平壤府大和町　洋食器食料　寫眞機材料　明治屋　電話一〇九番

平壤若松町　前田孫平　電話五四二番



平壤府南門通二丁目　藤井商店　電話一〇六・一五六番

平壤府新倉里　仲村森吉　電話一〇八五番

臺灣青果同業組合指定　內外果實青物バナナ問屋　林商店　平壤府大和町十番地　電話長三二六番

洋菓子、パン各種　キャンデー・ケーサン饅頭本舗　木村屋平壤支店　電話七七五番

西鮮造林合資會社　松尾六郎

平壤府南門通二丁目　陶器製造　中本商店　電話五一番　振替京城一五八番

平安南道　大同郡農會

平壤府山手町　梶道夫　電話一四二番

平壤　稻葉組

平壤無盡株式會社

合資會社　原田鑄物製作所　代表者　原田貞輔　平壤府船橋里

平壤警察署　職員一同

平壤　西村金彌

平壤興業株式會社

平壤府壽町一〇三番地　鐵商　長富商店　長富甚八郎　石井隆太郎

平壤旅館組合

大同警察署員一同

平壤府大同門通　肥料雜貨　合資會社　鹽貝商店　電話四三七三番

煉炭、石炭、池田式ストーヴ　池田富一商店　平壤府幸町　電話一七八番

平壤　古下藤一

平壤公立初等學校長一同

平壤府南門町　平壤購買組合　電話一〇三番

朝鮮平安南道江西郡東津面　朝鮮無煙炭鑛株式會社　江西支店

製造販賣　炭酸カルシューム　精製石灰　生石灰　建築用石灰　左官用各種　大理石　精米用石粉
朝鮮平壤府橋口町　合資會社　竹中商店　電話八二八番　振替口座京城一二三番
江東郡晩達面下端里　竹中化學工業所

平安南道江東郡江東邑內　官公署職員一同

銘酒金千代釀造元　齋藤酒造合名會社　平壤府

中平組　平壤・電話一七七番

朝日旅館　平壤・電話四〇九番

平壤　齋藤清治　河野國太郎　横山邦雄

平壤郵便局員一同

平壤府櫻町　合資會社　吉澤組　電話八七八番

平壤醫師會

平壤專賣支局員一同

平壤　竹信組　電話一二五七番

平壤燒酎販賣組合

大同運輸株式會社　取締役社長　福井武次郎

平安南道　平原警察署員一同

平壤　宮川覺之助

平壤旭町　今井祐次郎

平壤　水谷組

平壤　松尾正枝

平壤司法代書人會

銘酒火藥　鷄林商事株式會社　平壤府大和町　電話一八番

平壤府櫻町　金剛サイダー　朝鮮飲料合資會社　振替口座京城六…

平壤料理屋組合

平壤　食料雜貨　桑田商店

平壤府新倉里　大同自動車商會　尹永善　電話五八四番

平壤府新倉里　株式會社　箕城券番　電話五八六番

平壤府里門里　廣田本店

龍岡黃龍會

平壤券番

平壤府廳員一同

平安南道　高等官食堂

朝鮮商工株式會社　取締役社長　中村精七郎　專務取締役　山口芳三　常務取締役　大浦秋吉　常務取締役　中村仁

平壤魚市場

大日本製糖株式會社　朝鮮支店

元日本コーンプロダクツ株式會社　日本穀產工業株式會社　平壤船橋里大同江驛前　電話一七四九・一四五・二三四六　東京營業所 [illegible]　大阪營業所 [illegible]
〈營業品目〉◎コーン・スターチ ◎グルコース ◎コーン油 ◎デキストリン ◎コーングルテン [illegible]

平壤土木建築協會　事務所　平壤府山手町

京城日報

其四

朝鮮に現はれた鷄の種々相

鷄林の由來と地名の鷄

エロ、グロの鷄の野話

自力更生を聲高く叫びつゝまさに進まんとする我々の前に一夜は靜かに明渡り鮮かな酉の年は希望に輝く燦たる初顔を東海の上に現した、我々の前進はこの鷄たる旭の光によつて力强く踏出さなければならない、酉は積極的で且又活動的な動物だ、朝鮮はその名も床かしき鷄林八道の國である、鷄の聲に起上り又鷄の聲に寢入る國である、古人の教に『鷄初めて鳴けば合歡を致せよ』の一句は活動を啓示した金言である此一句は云ふまでもなく初鷄に起出て顔を洗ひ口を嗽いで活動の世界に立つべしと教へた自力更生にもつとも大切な金言の一つである、これをも一歩進んで近代の言葉でいふならば『鷄』は朝鮮に於ける活動のモットーである、今まさに我々はこの『鷄』の進軍マーチに連れて洋々たる第一歩を踏出すべくその朝に臨んだ。

併しとりの內には色々ある雄鷄、雌鷄、大鳳、小鳥、目細とり、嫁取り、婿取り借金取りまで下れば誰か一寸現代苦に陷るが兎に角鷄に深い因緣をもつてゐる朝鮮には古今を通じて種々雜多な――エロ鷄、グロ鷄、黃金鷄等々もろ／＼の鷄が喜劇、悲劇を演じてゐる、お屠蘇の座興としてこれ等朝鮮鷄の種々相を紹介する（金井生）

科學を超越した神秘な傳說

鷄林八道の由來

朝鮮には鷄を繞つて種々な傳說昔話があるがその中で[illegible]『鷄林八道』に現はれた[illegible]い』と一喝するであらう併し神話傳說は何れの國に於いても遂く科學を超越した神秘境から生れるものである。鷄がなした、否鷄に因んだ『鷄林八道』の由來も矢張り昔新羅の國の都たる慶州で起つた超科學的傳說の一である。その昔新羅の國第四代王、脫解王九年三月の或る夜に王が月を眺めながら宮廷を散策してゐると金城（王宮の城）の西に當る始林の林の中で時ならぬ鷄の鳴聲が聞こえてきた、王はさて不思議なことである、時は未だ宵の內であるのに

鷄の鳴聲 とは尋常ならぬことだわいと頻りに不審しく思つてゐたが夜の明くるのを待つて瓠[illegible]

[illegible]ほど燦然たる銀色を呈する純白な一羽の鷄が前に立つてゐる大木を仰いでことありげに鳴いてゐるのであつた、瓠公は不思議な鷄もあるものだと顔を上げて樹の上を仰いでみれば

高い枝の 先には金色輝く櫃（箱）が一個ぶら下つてゐる瓠公は急いで宮中に歸りこの奇し樣を王樣に告げると王樣は『我が國に如何なる靈兆ぞ來らん』と急いでその櫃を持つて參れよと命じた、臣下は件の場所よりその櫃を取下し王樣の前に捧げた、王はその中は凶か吉か、はて如何なる寃花が藏されてあるかと心を躍らせながらその蓋を開けさせた

王子を産んだ金櫃（李王職御貸下）

あな不思議、その櫃の中にはみるも可愛い一人の男の子が目をぱつちりあけてねてゐるのであつた、王樣は今までの相憂は何れにか立消えてその赤兒のむくむくと肥つた容姿の非凡なのにすつかりみとれてしまつて王樣は

満面に喜 色を現して左右に侍つた臣下を顧みながら『これ豈天が我に令胤を賜はるに非ずや』といたく悅んでさつそく王子として宮中に育てることになつた。この不思議な子供は段々大きくなるに從つて聰明は人に過ぎ、智略は群を拔いて正に大器の人物を現した、王樣はその名を『閼智』とつけ、生れた金櫃に因んで姓を金とつけた、これと同時に始林を鷄林と改め、新羅の國號を鷄林と名づけたのである。新羅の國は朴、昔、金の三姓が相繼いて王位に就いたのであるが『閼智』は王位にはつかなかつたが閼智の代の孫に當る『味鄒』といふ人がはじめて王位に就いて新羅の十三代目の王樣になつたのである、又朝鮮で

一番多く みる金の苗字も『閼智』から始まつたもので、古誌に富む慶州には今なほ千古の神秘

風俗に現はれた鷄

過般京都でおこつた『結婚解消』問題は三十二年のどんじりをつとめた女權擁護運動でありこれをきつかけに三十三年には如何なる新奇拔な女人問題が飛び出るかは計りしれぬこの際にもつとも目の毒になる一夫多妻の鷄のエロを紹介するのは甚だその當を失した嫌があるがこれは昔の話で今の世のできごとでない點を特に諒解して大目にみてもらひたい

畫鷄のエロ 畵鷄とは讀んで字の如く畵にかいた鷄である、話は高麗朝でもつともエロ氣分を發揮した王樣毅宗の時に始つてゐる、毅宗といふ王樣はグロ味たつぷりでありながら又エロ味をより多くもつてゐたから堪らない、俗にいふ兩刀使ひの猛者で始末におへない王樣であつたのである

女と酒は三度の食事よりもすきな方で立つても女、坐つても女、ねても女は寧ろ普通であるが兎に角酒、色には飽くとのない王樣であつた、宮廷の池の中に眞畫間しかも滿朝の百官宮女が列してゐるにも拘らず二十前後の花をあざむくばかりの侍女を眞裸にさせて池の中に追込みおのれも肥滿した肉體を丸裸になつてその侍女の臀をおつかける等全く言外の沙汰が一二に止らなかつた。斯樣に

エロ氣分 を發揮するかと思へば、時には又非常にグロテスクなある反動氣分に囚はれて時の諫諍を一身に負ふて政事を一任させてある重臣の房々したヒゲを燒いたりそれをきかぬと怒つてお手打にしたりするうつかり氣のゆるせない王樣である

日夜女と酒に全威令を蕩してゐる王樣だからエロに緣故の深い凡ての行事は常に宮中の彼の寢室に絕え間なく行はれてゐる。時の或る卜者は『男の精分をよりよくつけるのは健全な雄鷄を畵にかいて床の下におくのに限る』と如何なる根據からだ說であるかはしらぬが斯樣な言を廣してゐたのを面目に受けた或る內侍の一人が、窃かにこの畵鷄の演劇を旨くやつて王樣の寵を得んものと考へて注鄭同正義鋪なるものと計つて或る日密に王樣の

床の下に 鷄を描いた畵鷄一枚を隱しておいた、然るに、その翌朝になつて演劇の目的は正反對の結果を齎した、それは內侍一派を陷れようとする一味のために反對に誣まれて『畵にかいた鷄は死鷄であ、王樣に死を呪つた』といふかによつて折角樂遊を夢みた內侍金鼎鋪の兩名は流島の厄になつたといふ笑へないナンセンスがある

朝鮮では古から正月の元日にはどの家でも門の上に鷄をかいた畵と虎をかいた畵とを貼つて厄除の呪にする事がある、今でもなほ京城の古家にはその畵が貼つてあるのを見にする、これは鷄林の傳說から生れたもので又普通の時でも新しく建てる時とか又貼かへ時には一種の裝飾用として雞、獅、虎の四つの動物の畵を貼ことが流行してゐる又濟州島の『酺祖祠』といふ神祠があつて年正月になると元日から村の若衆が大きな鷄の面を冠つて先須鳴物を鳴らして村村を廻り淨財を集めて酺祖祠の祭を行ふ慣習がある

鷄龍山連天嶺の惦書

字解――方百は『庚』馬角は『戌』口或は『國』禾生は『移』で庚戌國移即ち庚戌の年に國變るを暗示した惦書である

グロテスクな方面に現はれた鷄

地名に現れた鷄の外にエロ、グロ方面にもその跡を殘したのが尠くない中にグロ方面に現れた鷄は先づ高麗朝忠惠王時代に鷹坊使といふ人がをつて鷹飼ひを專門に司つてゐた、之は丁度日本で諸大名が競つて鷹狩に耽つてゐた時代と同樣に忠惠王は鷹狩に非常に興味をもつてゐた頃である或日鷹坊使は

何時もの 通り鷹に夕餉の餌として雄鷄一羽を與へた、宮中で大事にして飼つてゐる鷹であるから餌にも自然すき、きらひがあつたかどうかはしらないが鷹坊使が與へたその雄鷄を半分喰ひかけて殘した

何時もの ことであるから鷹坊使は何氣なくその喰かけの鷄を鹽芥糀にほりなげてしまつた、然るにその夜の五更が過ぎて一番鷄の鳴かんとする頃合に門外の鹽糀よりいとも哀れな雞の鳴き聲がきこえてきた、これをきいた鷹坊使はさて不思議なことである、鹽糀より鷄聲とは奇聞なつて珍しいことであるとさつそく坊丁に命じて門外に据ゑておいた鹽糀を調べると、驚くべしグロもグロ、羽はむしられ頭ははみざされ體の半分程は鷹の嘴でかひちらされたみるもなまなましその雄鷄が片方の足で甕を支へからそれこそ悲鳴を上げてゐるのである

この悲慘 を極めた有樣を見た鷹坊使は胸のつまるほどの憐れさを感じた、そしてことが餘りに不思議であつたためこのできごとを一分始終忠惠王に言上に及んだ、これをきいた王は暗然としてしばしの間默想に耽つてゐたが『鷹坊司は速かに廢せよ』と云ふて鷹狩をやめたと云ふ高麗朝鷹坊廢止の記錄が殘つてゐる高麗の忠惠王は前述の如く涙にもろい王であつたが又一方には我もずいぶんつよい王であつたとみへる。王は或る夜お氣に入りの或る臣下の家の夜宴に招ぜられ數よ酒よと亂痴を極めてゐる

眞最中に 暗をつんざく一聲の鷄鳴に王は忽ち興がさめて醉眼朦朧として佩劍を拔き鷄小屋を目掛け一擊を食はした主人なる臣下は突然何事なるかをしらずただ／＼周章狼狽、うろたへるのみであつたが王は靜かに主人に向ひ『この家の鷄はよく主人の心をしつてゐるわい』と皮肉を浴びせると主人の臣下は平身低頭して『鷄は口あつて時を報ずるのみ』と答へた、これは正しく鷄を繞ぐる醉興の隨一である

何故鷄は―― 高い處で鳴く？

童話に現はれた鷄

昔金剛山の山奥に一人の樵夫とその老母とが住んでゐた或日狩天に逐はれた鹿を隱して命を助けたその恩返しに鹿のとりもちで天上にをる仙女と佳緣を結んでその樵夫は母を下界に殘して仙女と共に上界で暫く暮してゐる內に下界に在る母が懷かしくなつて再三再四仙女にその心を告げて漸く暇をもらひ下界におりることになつた、樵夫が出發する際に仙女は與れ／＼もいひきかした『下界においても貴公は天馬に乘つたまゝ母と對面してすぐ天に歸るよう、若過つて土を踏むやうなことがあつては天には再び歸れない』と懇に注意をして樵夫を下界に送つた、樵夫は空を飛びかける天馬に乘つてまたゝく內に下界に下りて喜んで迎へる母と對面して暫くの間のできごとを互に語りあつてゐる內に母は『久し振りに歸つたお前に何も喰べさせるものがない、之でもさめない內に喰べてくれ』といつて熱い／＼南瓜の粥を母はだしたので樵夫は喜んでその器を受けとらうとする拍子に過つて器を地上に落しそれに氣をとられた樵夫は仙女のいふたことを忘れてうつかり地上に下土を踏んでしまつた、さあ大變なことになつた、さう、からすに自分が乘つてきた天馬はみゝ內に雲の間を縫つて天に昇り樵夫はどきくさの間に土を踏ばかりに、永久に天に昇る機會がなかつた樵夫は毎日々々戀人天女を思ひ病らつて遂に死んでしまつた、其樵夫の化身が雄鷄になつて何時も／＼天を仰いでは悲しく鳴くやうになつた、少しでも高い處があれば必ずそこに昇つて天を仰いで仙女に屆くやうに大きな聲で泣いてゐた

一番鷄、二番鷄が 時計の役目

朝鮮の時間と鷄

朝鮮に時計が發明されたのはかなり古い話で既に李朝世宗の時宮中には太鼓の醫時計が据付けてあつたと云ふてゐる世宗の時代と云へば西暦千四百十九年から同五十二年に亘る年代で今から約四百七、八十年前のことである、然しその時計は勿論精術なものではなく又世に普及するほどにもなつてゐなかつた、從つて時を計るのには矢張『漏水』といふて水の雫をかぞへて時を計つてゐたのである

この『漏水』も宮中にのみあつて民間の標準にはなつてゐない、早くいへば宮中の時計は『漏水』の外に日中には日影を計る『ソイ』即ち磁石があつたが此等の利器は民間には容易に手に入れることはできない、從つて民間の時計は晴天の日には日脚、夜は星、それからは鷄にたよる外はなかつた、初更、二更云々するのは『漏水』を標準として京城の如き都市でのみ鐘を打つが郡部ではそれさへなかつた畢り民間の時計はたゞ鷄あるのみで一番鷄、二番鷄、三番鷄、亂鳴雞といふて一番鷄は今の時間では午前一時ごろその次は二時、三時と鷄の鳴くそのつどを標準にしてゐたのである、それから京城には夜の二更即ち今の九時ごろになると城外との交通を斷つて城門を一齊に閉めて『破漏時』即ち一番雞の鳴く頃に又一齊に四ヶ所の四大門――南大門、東大門、西大門、彰義門（北門）――を開いて、城外との交通が開始されるのである、京城では鐘路の鐘を打つて四大門の開閉を命じるが田舍では一番雞の鳴く頃合を京城の開門時として野菜賣や旅人が城內に這入つてくる。斯樣に田舍では雞を時間の標準にして勸勉な人は大抵一番雞から二番雞の鳴くまでには床を離れる、亂鳴雞とは今の午前五時でその雞を床の中できくのは百姓達の一つの恥としてゐた

――新羅古都林――

歷史的な 鷄の異鳥

鷄の種類は斯界の專門家に讓ることにして茲に歷史に現れた最も畸形的な鷄を調べてみる、朝鮮の古書『文獻備考』の物異編にかう書いてゐる

『後漢書に日く馬韓に長尾鷄を產す、下尾の長さ五尺餘、又新羅宗勿王三年二月、神雀あり始祖の廟に集まる十四年四月楊山に小雀の大鳥を産む△訥祇王十八年、百濟から白鷹を送る△神文王十一年三月、沙代州より白雀を獻ず△元聖王元年三月頃江鎭より赤鳥を進ず

高麗太祖十年四月西京の民、張氏の家の雌雞化して雄鷄となり三日にして死す高宗四十年惜卓然なるもの京師より江南道に還り

鷄龍山下 の一村を過ぐ時鵲ありて樹に棲むその數は皆に頭は凹に、尾は艶なり、居民張福云ふ此の鵲來り巢ふこと既に七年其の雛は毎年土梟の食ふ所となり守ぞ祈へて已まず京顚の鄭る點一年にして頭始めて白く二年に頭悉く白く三年に體擧て白し、今年に及び幸にその厄を免れ居漸く元に還つて黑しと卓然附け之を異とし同社天英師に語る、師曰く、これ鵲頭人也と

△仁祖の時、嶺南に四足の鷄を產す、十四年七月寧海府に雀あり鷄を産む

以上の如く文獻備考に現れた鳥は凡て畸形なもので中には今日の

科學では 容易に肯定することのできないものもあるが新羅高麗、李朝を通じてこれらの鳥は吉、凶の運命を繞る尤とも獵奇的なものであつた

枕鷄と烏鷄

枕鷄と云ふのは文字通り枕鷄であるが昨今はその種類がすつかり絕えてしまつたが今から四十年前までは京城にも方方に飼つてゐたやうである、この鷄は唐の國から渡つてきた處から一名唐鷄とも云ふてゐるがその外貌は日本にあるチャボ鷄の一種でその小い鷄に永い間人工を加へ極小にして枕の中に入れて時を計つたと云ふ珍品である

烏鷄は今でも忠南地方では稀にみるがこの鷄は外貌は烏に似て純黑を呈し足は勿論、肉色まで黑色である、昔から肺病の特効藥として名高い、その外一時闘鷄も流行つたがこれは日本で流行するシャモの一種で今は余りみあたらない、又近代の養鷄に現れた外國種も色々あるがこの紹介は斯界の專門家に讓る

木鷄と老母

この話はエロ、グロのありふれた因緣を離れて老母の衰退を悲んだ世にも稀らしい孝行もの、話である、昔高麗朝時代に、京師に近い或る村に一人の文人がをつた、七十を過ぎた老母が日に日に衰退しつゝあるその哀れな姿をみて物悲く暮してゐた、雞が鳴く又鳴くする內に日は暮れ又夜が明けて時は流れる、その度に自分の懷かしい母は一歩一歩と死の國に導かれてゆく淋しい影を思ひ浮べては涙のにじむ月を送つてゐた、或日彼は何を思ひついてか木片で小さい鷄を刻んで明るい窓際に安置してその前に老母を鼎座させ

此鷄膠々報時節
慈顏始似日平西

と云ふ一句を詠じて我が慈母の老ゆくを嘆じたと云ふ

民謠と鷄

民謠と童話に現れた鷄は枚擧するに遑のない程豐富にある、中に二三の秀逸をえらべば先づ蜜い戀路を邪魔する曉に鳴く鷄の民謠がその隨一であらう

『塀を越える時、吠える犬は仁王山の虎に咬まれよ床に入る時、鳴く鷄は南山の山猫ににらまれる』

この唄は昨今でも京城の近郊では盛んに唄ふ民謠の一つであるが竊に忍ぶ戀路を窒つた唄である又これは民謠ではないがいはゆる上品な唄として妓の中に歌けれる黃鷄詞にも戀しい主を待ちつゝ『主は待てど來らぬ、屛風に描いた黃鷄が長い首を伸ばして鳴く時來るか』と戀人を待ちこがれた儚ない唄もある。又江原道地方には

『先王堂（辻堂）の鳥は又も鳴く、主の病は今日も惡い、お前は何が悅しいかよ、人の心もしらぬやうに』

この民謠は如何にも淳朴で田舍の氣分を遺憾なく現してゐる、日の暮れがゝつた淋しい夕陽に暗い氣持を抱いた村の女が不吉を意味する眞ッ黑い鳥を氣にして主の病氣を憂ふる心情が、この一句であり／＼みえる咸鏡道の古い童謠に

『吉州、明川細布賣り商人よ鷄が鳴くとて旅たつなよ、嶺には人あり、劍あり』

この童謠は咸鏡道吉州、明川の特產物たる北布商人が同地に盛んに出入する頃生れた歌で、或る旅宿の小娘が夜中に便所にいつて細の外で匪賊共が自分の家に泊つた北布商人を道中の嶺に待ちぶせして殺して金を奪はうとする相談を聞いて一番雞を合圖に旅宿を發足するその商人達に歌つて危險を知らして命を助けたと云ふ。

謹賀新年

平安南道 中和各官公署一同

天然スレート瓦 アスファルト施工 佐藤義商會

平壤八間通 伊藤佐七

平壤北金融組合 直井芳五郎 平壤府新里

園藝、高級花卉、果樹栽培、蔬菜栽培 仲村報國園 平壤府船橋里 電話二六〇番

朝鮮平壤府船橋里 金泉燒酎釀造所 國崎文作 電話一二四番 振替京城一二九二〇番

平壤府大和町 森田藥房 電話二二九・一〇九一番

平壤 淀川組 電話六四一番

平壤 金能秀

平壤府黃金町八〇 銅鐵機械商 當所岩治商店 電話一〇一三番

平壤府泉町 印刷和洋紙 藤野南山房 電話六七五番

平壤府大和町 カワハシ樂浪堂 電話三四二番 振替京城二〇二一番

平壤府大和町 洋酒食料 龜森幾雄屋 電話一六四番

平安南道 孟山無名會

朝鮮平壤府大和町 脇坂文鮮堂 電話一四・三〇六番 振替口座京城九一一番

賑町券番

平壤 菊名仙吉

樂浪名菓製造元 下江黃金堂 平壤府大和町 電話三〇三番

平壤鐵道ホテル支配人 河原木宗橋

平壤府泉町（府廳前） 脇坂印刷所 電話二四三番 振替京城一九八二番

諸官廳御用達 陶器金物 世帶道具一式 沖信昌男商店 平壤府本町 電話七一二番 振替京城一六一五八番

平壤府 林田四郎

平壤刑務所職員一同

平安南道陽德邑內 各官公署職員一同 各學校職員一同 各種團體職員一同

平壤官公立中等學校長會

平壤材木商組合

小野田セメント製造株式會社 平壤支社 朝鮮平壤府外勝湖里

平壤水曜會

平壤府船橋里 菅原組 菅原正雄

平壤吳服商組合（イロハ順） 本田屋吳服店 吉本吳服店 丸橋吳服店 三中井吳服店

片倉殖產株式會社 平壤營業所 平壤府大和町 同鎭南浦出張所 鎭南浦三和町 同沙里院出張所 沙里院西里 同新安州出張所 新安州元興里 平南自動車商會 平壤府 陽德溫泉九龍閣 陽德郡新旭邑

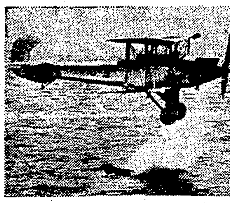
平壤府平川里 大村製糸所 電話一〇四〇番

最新兵器の話

どんなに勇敢無比な軍隊でも今まで夢にも見得なかつたやうな新兵器で猛襲されれば一たまりもなく殲滅する。その最もいゝ例が一九一六年のソンム戰役におけるドイツ軍の慘敗であらう。この日英軍はそれまで味方にさへ秘密にしてゐた新發明の怪兵器『タンク』を四十九臺も第一線に並べて突撃した。丘陵でも塹壕でも森林でも鐵條網でもまるで無神經にのり越え押しやぶつて進んで行くこの醜怪な戰車群が肉薄した時、さすがの獨軍の精鋭もくもの子を散らすやうに逃げ去つてしまひ、最後まで頑強に抵抗した勇士達は何れも打ちまくられふみ潰されて、三百名もの兵士が腰をぬかしたまゝ否もなく生擒にされてしまつたといふ。この一例でも明かなやうに今後の戰爭は精神力のみでは斷じて勝つことは出來ない。勿論戰勝には旺盛な士氣も必要ではあるが、更に絶對的に敵に優越する、出來得べくんば敵の意表外に出るやうな新兵器を持つことも必要である。從つて現在世界各國では秘密裡にその全科學的智能を傾けて日夜新兵器の研究に沒頭してゐるのだがその研究の成果は大概軍機の秘密として極秘に附されてゐるので容易にうかがひ知ることは出來ない。然し既に發明されたと云はれ、或は發明されたと想像されてゐる新兵器中には、後に述べる殺人光線のやうな物凄い代物さへありその進歩には實に驚倒すべきものがあるのである。がそれはそれとして、今は最も手近な廿世紀の人氣者たる飛行機から話を進めて行かう

あくまで空の脅威
新鋭飛行機

今日飛行機そのものは、新兵器と稱すべく余りに一般化されてしまつた感がある。然し現在の飛行機を世界大戰當時のものに比べるとまるで別物と云つてもいゝ程その性能に於て格段の相違が生じてゐる。例へば我國の世界に誇る九一式戰鬪機の如きは僅五分間で二千米の高空に上昇することが出來、その水平速力もまた一時間に四百キロ（約百里）と云ふ驚くべきスピードを出し得る素晴しいものなのである。

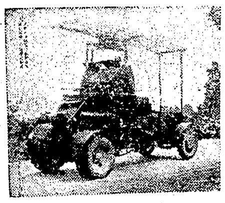


（英國の最新式魚雷運搬器）

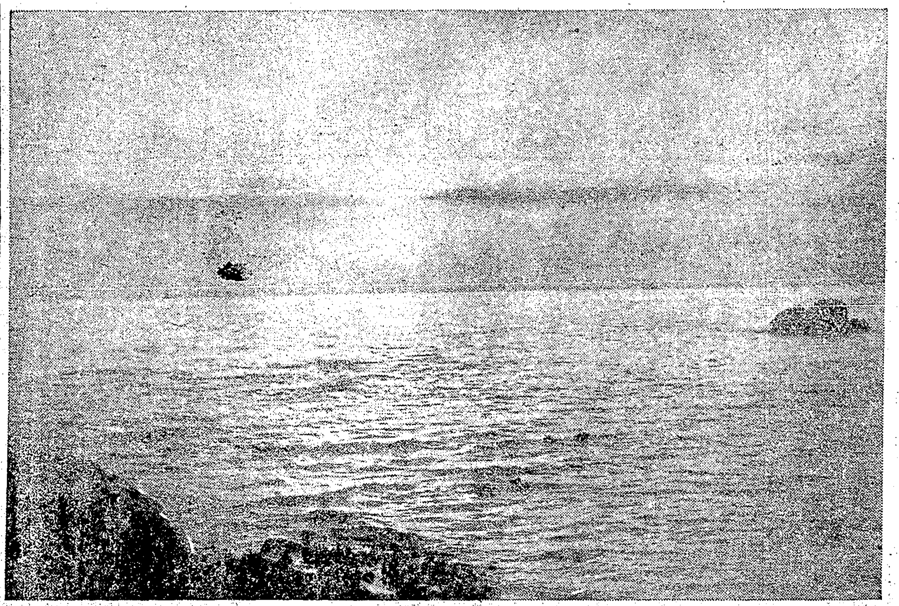
今度の日支事變で我が軍の用ひた飛行機は必ずしもこんな新鋭機のみではなかつた。が滿洲に於ける陸軍機と云ひ上海に於ける海軍機といひ、何れも偵察に爆撃に神出鬼沒よく地上部隊の活躍を助けて絶大の偉力を發したことは人のよく知るところである。尙この他に變り種としては我が海軍が昨秋英國から購入して目下横須賀海軍航空隊で鋭意研究中のオートジャイロ（竹トンボ式飛行機）がある。これは機體中央に備へつけられたローターの水平廻轉により竹トンボと同じ理屈で垂直の上下昇降を自由にし得るもので從つて狹隘な場所から發着しなければならない艦載飛行機としては最も便利なものである。外國では既に蕃地探險その他に使用してゐるが、我が海軍でも去る十一月五日の航空神社例祭當日には早くも横須賀から東京へ訪問飛行を行ひ、東京の眞只中の上空で數十分間に亘つて各種の妙技を揮ひ、『こんなものを使ひこなすのは譯けない』と云はんばかりの意氣を示して滿都の市民を熱狂させたのであつた

花形役者はタンク
水陸兩用の裝甲自動車

空の飛行機と對照して將來の戰爭の花形役者となるべきものは地上では例の『タンク』こと戰車及び裝甲自動車であらう。話はちと古くなるが天正十年の昔明智左馬介光俊とやらいふ名將は主君光秀の敗北を知るや愛馬を勵まして琵琶湖を一氣に乘切り留守の坂本城に驅けつけたといふ逸話がある。然しこの明智クンにして今日の御時世にあらしめればそんなお寒い思ひをしないでも充分目的を遂することが出來たに違ひない、といふのは今日の軍隊には水陸兩用の裝甲自動車があつて、之にのつて走れば陸上は普通の自動車と同じ速度でとばせるし一度水邊に出たら其まゝ水中にのりこんでギヤーをきりかへさへすれば忽ちスクリウが廻り出してモーターボートに早變りする。然もその時速たるや十キロは出るから琵琶湖などは數十分でのりきれる譯だ、處でかうまで自動車兵器が發達してくると有史以來兵隊さんの親友だつた軍馬もそろそろ失業問題を考慮しなければならなくなつてくる。現に米國では新に騎兵聯隊を機械化聯隊に改編してゐるし、英國では遂に輓馬輜重を全廢して輜重兵を全く機械化してしまつた。その他ソヴエートロシアでは獨立の裝甲機械化兵團を創設したし、各兵種の機械化は今や世界一般の趨勢で、やがては徒歩する歩兵や乘馬する騎兵などが全世界の軍制から姿を消してしまふことになるであらう



無線通信機を裝備した佛國陸軍の裝甲自動車



勅題『朝の海』懸賞寫眞一等　仁川府濱町　魚住露葉氏

譯なく人を殺す毒ガス
代表的のものが三百種以上

然し世の中に何が恐ろしいといつて化學兵器程、殊にその中の毒ガス程、恐ろしいものはまたとあるまい。今かりに東京市の重要區域二里四方の住民を卅分間で全滅させやうとすれば僅かに六トンのホスゲン或はイペリットを飛行機上から撒布すればよく、しかも六トンの毒ガスを搭載するには普通の爆撃機が十二臺もあれば澤山なのである。そして某國には百機に近い飛行機を搭載し得る航空母艦が數隻もあるのだから實に危險極まる話ではあるまいか。處でこの毒ガスは今日ではその代表的なものだけでも三百種を超へてをり今これを人體に及ぼす作用から類別すると窒息性糜爛性中毒性及び催涙性クシヤミ性等に分けることが出來る。窒息性といふのは、呼吸器諸機關特に肺臟を冒して窒息致死せしむるもので鹽素『ホスゲン』等がこれに屬する。糜爛性は皮膚に發泡糜爛せしめるもので、その蒸氣を吸ひこめば肺臟その他に浮腫を起す毒性の最も激烈なもので、『イペリット』および『ルイサイト』がこれに屬する、中毒性は神經系統及び血液を冒すもので青酸および一酸化炭素が之に屬し何れも極短時間で人を殺す、また催涙性は臭化ベンジル、鹽化ピクリンの類で人を一時的に失明させるもの、クシヤミ性は主として砒素化合物で鼻や肺を燒くやうに刺戟してクシヤミさせ或は嘔吐を催させ、敵が苦しがつて防毒面をとれば直に他の毒ガスを送つて致死せしめるなどに用ひる。かくの如く毒ガスの毒性は猛烈であり然も化學工業の發達につれて種々な新毒劑が發見されてゐるので、もし今後世界大戰があれば、戰場と内地との區別なく毒ガスの脅威に逸れ得ないと考へなければならない。この毒ガスに襲はれた時の應急處置としては防毒面が手許にあれば問題はないが、若しそれが間に合はない場合には少くともハンカチに水をひたし手早く鼻口を蔽ふことを忘れてはならない。そして毒ガスはすべて空氣より數倍重いため地上に沈澱するからどこでも近くの一番高い場所例へば丘陵地とか高層建築とかに上れば、とにかく死ぬことだけは免れることが出來るのである

人も馬もマスクを　騎士と馬　毒瓦斯を撒かれた戰場を馳驅する

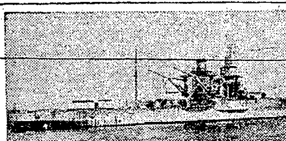
素晴らしい火砲の發達
二百哩も飛ぶ長射程砲

かゝる内地への毒物攻撃は主として飛行機によるものであるから今後の戰爭には防空施設が非常に重要なものとなる。この方面の主兵器は勿論高射砲であるが、之は當然飛行機の發達に呼應して日進月歩の有様で、現にその照準具を以つて一例とすれば、今日では基礎の諸元を照準具の目盛に合せて照鏡の中で飛行機を狙つてゐれば砲身は機械的に飛行機を狙つてゐるやうな便利な仕組になつて居り然も一つの指揮裝置で同一の飛行機に數門の高射砲の彈丸を集中し得ることも出來るのであるから殆ど彈道距離に敵機が落ちこんだが最後むざむざとりにがすやうなことはめつたにない譯である。この高射砲の話が出た序に最近火砲の發達を見ると、之も全く眼の廻る程の素晴らしさで先頃フランスのマーズ大佐が發明したと傳へられて全世界の軍事界を驚倒させた長砲の如きは三二二キロ（二百哩）の遠距離に達し得るもので、三二二キロと口で云へば簡單なやうでも、若しこれが新潟附近に据へつけられゝば東京を始め關東地方の大都市は忽ちにして焦土と化するし、また和歌山附近にこれが上陸するに至れば名古屋から京、阪神一帶は全く死の沙漠に歸する外はないのである。然しこれを別にしても火砲研究は今や全く革命期に逢して居り、一方には佛人フォシオン、ピニブレイの創案にかゝはる電氣砲の研究があり、全く電氣的に無聲無煙で驚くべき怪速力の彈丸を最大六百キロの遠方へ發射せんとし、その他方には近來科學界の寵兒として傳へられるロケットが漸く長射程砲の代用として實用化せんとしつゝある。このロケットは從來の火砲の彈丸が砲身内の火藥爆發によつてのみ推進力を與へられるのと異り、ロケット自身の生成する噴出ガスによつて突進するもので云はゞ自給自足の動力によるものだから、若しこの研究が完成すればアメリカのゴダード教授の主張する月世界旅行も不可能でなく、ましてアメリカから日本へ彈丸をとばす位のことは近い將來に疑ひもなく實現され得る問題だ

◇—米國陸軍の十六吋大徑砲

殺人光線と怪力線
科學界の寵兒　電氣學と光學

更めていふまでもなく廿世紀科學界の寵兒は電氣學と光學であるが、その電氣學の進歩がまた兵器界に物凄い變革を齎さうとしてゐる。例へばかの無人兵器の無電操縦がその一つである。我國でも去る昭和□年遞信省が無電で月を操縦成績をおさめ、諸外國を驚かしたが、この無電操縦の研究は車、軍艦、水雷等から今では飛行機、無人タンクにまで及び、之が實用化した曉には無人の敵陣に數十臺の飛行機が自り無電操縦で敵の政治或は大中心地に至り、其上空から揃へて急轉落下を起す事もあれば、又數百數千臺の無人戰車がらりと散兵線をしいて司令部の無電操縦により我無者縦する壯觀も出現し得る譯で。而電氣學としては軍の神經をなす通信連絡法として以前使はれてゐる無線電信無線電話の他に今やテレビジヨン（電視）に暗視も殆んど實驗の域を、電送寫眞も實用の域に達してゐる。この電氣學に光學の革新が協力する時こゝにまるで人とも思へない殺人光線或は怪力線の發明が生成する。これには作用のもの電波作用のもの及放射線應用のもの等があるが何れもまた兵器として實用すべくいまだ有効距離が少いので、各國秘密裡に巨額の費用を投じて、一日も早く自國だけこの研究を遂げ能力あるものにして見せやうと躍起になつて競爭してゐるのであるが、然しもしこれが理論通りに完成した曉にはこの世界はどうなるであらう。この怪力線の向ふところ、人馬は忽ち殺傷され貯藏され火藥は爆發し、電信電話電燈その他一切の電氣施設は破壞され、飛行機や自動車は運轉を停止するか燒却され、そして家屋その他一切の可燃體は火災をおこす。また如何なる精鋭な武器も火砲も艦もこの光線に照されれば忽ちぐんにやり溶解して役に立たなくなる。即ちこの發明は（若し完成すれば）兵器界の大革命である。と同時に恐らくはそれ以上のものであらう。何となれば一度戰爭に之が用ひられることになれば戰爭は既に單なる戰爭でなく實に死滅そのものと化し、勝者も敗者も相打の形で死滅するより他はなくなるからである。この悽慘無比な兵器の發明は遂に戰爭をして人類の堪へ得る限度以上のものとするに違ひない。或は發明家は本發明の目的は戰爭の災禍を絶滅するためにありと云つたと聞く。然りそしてまたそれは全世界の民衆の衷心から希求する處でもある



（米國軍の無線操縦標的艦）

平南レース倶樂部

平安南道立　平壤醫院

朝鮮電氣興業株式會社

謹賀新年

櫻井秀專　京城府明治町二丁目

合資會社　谷岡商店　紙印刷業　京城府本町四丁目一三一番地　電話本局長三四〇番　一八一四番

愛知産業京城支店　同蘭谷牛乳販賣所　京城府本町五丁目五二　電本三四〇六番

山岡時計材料店　修繕部　京城府黄金町二丁目　電話本局長二三四八番　振替口座京城三三二番

貿易石炭　林田金次郎　京城本町二　電話本局六五番

龍山　南券番　電話龍山一〇二五番

京城羅紗組合

京城左官組合

安本常一　京城黄金町一郵便所長

淺野太三郎

門田寫眞製版所　京城長谷川町　電話本局三三一〇番

坂田商店　京城出張所　小山セツ　京城御成町七六　電話本局四四三番

今村病院　院長　醫學博士　今村豐八　京城若草町　電本一八三一・三一六五

博文社印刷所　京城府太平通二丁目　電話本局三〇六一番　振替京城八一四五番

みのや呉服店　京城本町二丁目　電話本局五六七番　八八八番

堀田鐵工所　京城府黄金町一丁目　所主　増井治郎吉　電話本局一五七八番

大海堂印刷株式會社　東洋オフセット印刷株式會社　京城府太平通二丁目一番地　電話本局(光)二一〇〇番・二一七六番

京城府内各郵便所長

越田電氣商會　京城府本町一丁目四八番地　電話本局長一四三〇番　振替口座京城六五六七番

池田病院　池田季雄　池田勝三

京城内地人辯護士會

京城蕎麥商組合

麗水金曜會

全南麗水　宮田甚次郎　米穀肥料雜貨　電話一四四番

麗水　日本殖産會社麗水支局

麗水　富士屋ホテル　電話

全南　麗水郡守

麗水郵便局　局員一同

麗水本町　農場　干拓事業主　永岡茂市

麗水邑

麗水　本田精米所

麗水　醫師　橋口文夫　電話一二一番

興洋水產株式會社　運輸部　代表者　政吉信

全南製氷株式會社　代表者　政吉信　電話一二四番

麗水　西垣利三

麗水　全南道評議員　明昌淳

麗水　金漢昇

全南水産株式會社　代表者　政吉信　電話一二五番

全南麗水　麗水電氣株式會社　電話一三〇番

全南麗水　大阪商船株式會社　朝鮮郵船株式會社　麗水代理店　電話一六六番・一六七番

全南麗水　海月樓　矢野サワ　電話三七番

京城日報麗水支局長　麗水邑會議員　麗水學校組合議員　松本政良

全南麗水　麗水中央醫院　醫師　曹柱煥

全南麗水　又華眼科醫院　院長　金相龍

全南麗水　麗水小學校長　佐多喜三太

全南麗水　麗水公立水産學校

全南麗水　麗水警察署　職員一同

全南麗水　麗水公立普通學校長　江口愼策

全南麗水　山海樓　山海食堂

童話 お正月の贈りもの

水谷まさる

(一)

『もうぢきお正月ですねえ。ぼくお正月までに、退院できるかしら?』

寢臺に寢たまゝ、窓の外を見てゐた秀雄は、さびしい、顔をしてさういひました。どんよりとした空は、かなり風だつてゐるらしく、つい今しがた、屋根を越えて、四角い字凧がぐん〱あがつて行きました。龍と書いてある字凧。長い尻尾が風になびいてゐます。看護婦の君島さんは、ほゝゑみながら。

『坊ちやん、大丈夫、退院なされますわ。お熱だつて、ずつと低くなつたんですもの』といひました。

『でも……』と、秀雄は、どこの子か知らないが、字凧をあげてゐる元氣な子供の、見えない姿を心に描きながら、さびしく口をつぐみました。

『あ、坊ちやん、お正月になつたら、凧があげたいんですね』と、その時、君島さんは字凧に氣がついて、明るく笑ひました。『大丈夫ですわ。ほんとに退院なされますわ。もし退院できなかつたら、あたしの首をあげますわ。この首を……』

秀雄は、君島さんにさう云はれると、心のなかを見すかされたのでちよつと恥かしくなつて、顔をうごかして君島さんの方を見ました。

ところが、君島さんは、『この首を……』と、云ひながら、兩手のさきをのどにあてがつて、いかにも強くのどをしめてでもゐるやうに、目を白黑させて、顔をまつ赤にして息ばつてゐました。秀雄はついさびしい氣持ちがほぐれておかしくなりました。

『いらないや、そんな首……』

『あら、あら、此首ぢやだめですか?遠慮なんかなさらなくてもいゝんですよ。こんなかはいゝ鼻がついてゐるのに……』

君島さんは、自分の鼻をつまみあげて、きやつきやつと笑ひました。

今度こそ秀雄も、笑はずにはゐられませんでした。といふのは、君島さんは、もうこの間から、口ぐせのやうに、

『坊ちやんの鼻は、ほんとにいゝ格好ですわね。どうしてあたしの鼻は、こんなにへしやげて、丸つこいんでせう?』と、云つてゐたからです。

『おかしな君島さん……』

秀雄のさびしい氣持ちは、どつかへ吹つ飛んで行つてしまつて、いつしよになつて、笑つてしまひました

(二)

君島さんは、ほんとによく面倒を見てくれました。秀雄が默つてゐると、いろんなおもしろいお話をしてくれました。雜誌や童話の本なぞも、よく讀んでくれました。秀雄はどんなに慰められたかわかりません。君島さんが好きになりました

十二月三十日――その日の回診の時、院長さんは、診察をすましてしまふと

『どうです。坊ちやん。お家でお正月を迎へたいでせう?』といひました

『えゝ』と秀雄はほゝゑみました

『ぢや、今日退院なすつてもいゝですよ』

『ほんとですか?』

秀雄の聲が、大きすぎたので、院長さんはほゝゑみながら、

『ほんとですよ。』といひました

院長さんが病室を出て行つてしまふと、秀雄は寢臺のうへで、兩手をあげて、

『ばんざい!』といひました。

君島さんは、にこ〱しながら

『坊ちやん、お目出度う……これであたしも安心しましたわ。首をあげずにすんだので……』といひました。『さつそく、お宅へ電話で知らして、どなたかに迎へに來ていただきませう』

君島さんが、電話をかけに行つてゐる間に、秀雄は急にさびしくなりました。一ケ月もゐたこの病室、そして、ずつとつき添つてゐてくれた君島さん。一日も早く退院したいとは思つてゐたものゝ、いざ別れてしまふとなると、妙になつかしいのでした。

秀雄は、寢臺にすわつたまゝ、しみじみと病室を見まはしました

そこへ君島さんが歸つて來ました『お家からお母さまが、お迎へにゐらつしやるさうですよ』

秀雄はうなづきました。

『あら、坊ちやん、どうかなさいましたの?あんなに喜んでゐらつしたのに、淋しさうにして……』

『だつて、ぼくね、君島さんと別れるの、いやなんだもの。』

『まあ、なに云つてらつしやるの?坊ちやんが退院なすつたら、遊びに伺ひますわ。』

『毎日來てくれる?』

『毎日だつて伺ひたいんですけどお仕事がありますからね……』

君島さんの目は、淚にうるみました。

『君島さんが、ぼくの家の人になつてくれると、いゝんだけどなあ……』

秀雄は、つぶやきました。

それを聞くと、君島さんは、たまらなくなつたらしく、淚にうるんだ聲で

『坊ちやん』と云つたきり、寢臺のうへにかゞんで、兩手で顔をおさへてしまひました。

あんなにも明るい、あんなにも陽氣な君島さんが、泣いてしまつたので、秀雄もびつくりしてしまひました

『怒つたの?君島さん。』

『なんて、坊ちやんは、きれいなお心持ちなんでせう……怒るものですか……あたしはね、坊ちやんとお別れするのが、さびしくなつたんです……毎日、坊ちやんと遊んで、ほんとにいゝ日を送りました……ほんとに、ありがたうございます……できるものなら、毎日これからもお目にかゝりたいんですけど……』

『わがまゝ云つてごめんなさい』

秀雄も、淚ぐんでしまひました

……君島さんは、また、よその病…についてあげるのね……そしてその病人を慰めてあげるのね……だから毎日は來られませんね……だけど、ほんとに君島さんの仕事はいゝ仕事だなあ、みんなを喜ばして……ぼくも來年から、すこしでもみんなを喜ばすやうにしよう……』

(三)

その晩、秀雄さんは、久しぶりで、なつかしい自分の家で、みんなといつしよに御飯をたべました

『よかつたね。』と、お父さんはお祝ひのお酒に醉つて、なん度も云ひました。

『みんなそろつて、これでお正月迎へられる。』と。お祖母さんもうれしさうでした。

『兄ちやん、凧あげてね……』と、弟の信雄が、あまへました。

『羽子もつきませうよ。』と、妹の千代子も、あまへました。

『兄さんは、まだ退院したばかりなんですから、あんまり無理を云つてはいけませんよ。』

お母さんは、信雄と千代子に、注意しました。

やがて、お父さんが、秀雄に向つて云ひました。

『ね、秀雄、お前にも、なにかお正月のプレゼントをあげやう。なにがいゝかい?明日は大晦日だから、明日買つて來てあげる。信雄と千代子のは、もうきまつてゐるんださ。お前のほしいものを云つてごらん。凧かい?空氣銃かい?それとも蓄音器かい?』

その時、秀雄は、きつぱりと答へました。

『ありがたうございます……でも、ぼく、入院させていただいたんですもの、おかげで病氣がなほりました、だから、もうけつかうです』

『ははは……、そんな遠慮はいらないよ。なにもお前がわざと病氣になつたんぢやないし、病氣がなほつたんだから、そのお祝ひもかねてなにかプレゼントをあげよう』

『ありがたうございます。でも、ぼくもうプレゼント貰ひました』

『え?誰から?』

『君島さんからです』

『あの看護婦さんだらう?持つて來てお見せ。默つてちやいけないね』

お母さんも、お祖母さんも、信雄も千代子もどんなプレゼントだらうと思つて興味を持ちました。

けれど、秀雄は座を立つて行かうともせずに、につこり笑つた顔をつき出して、

『ほら、これです』といひました

『え?どれだね?』

『これですよ』

なほも秀雄は、笑顔をつき出しました。

『わからないね』とお父さんが云ひました。

『なあに、兄さん』と信雄がいひました。

ほかの人はみんな、けげんさうな顔をしました。

『笑ひ顔ですよ。明るい顔ですよ いつもさういふ顔をして、みんなの役にたつて、みんなを喜ばすことですよ』

『おや〱、秀雄は、すばらしいことをいふぢやないか』

『ええ、君島さんに看病して貰つたおかげで、ぼくは知つたのです ぼくには、いいプレゼントでした 學校を休んでも、殘念ぢやありません』

秀雄は、しんみりと云ひました みんなも、秀雄の言葉に、すつかり心をうたれました。

『なるほど』とお父さんはうなづきました。『いゝプレゼントだ。お前はよく自分で貰つて來たね。お父さんが買つてあげるものよりずつといい。さ、それぢや、そのプレゼントを、家中の者が分けて貰つて、みんなもそのつもりで、來年は樂しく暮さうね』

みんなも、うなづきました。明るい電燈の光は、幸福がこゝにゐますよとでも云ひたさうに、みんなの團欒を照し出してゐました。

お正月と家庭教育

東大門公立小學校長 稻荷誠平氏談

輝かしい昭和八年を迎へるに當つてお子達のある家庭に對する私の所感の一端を申述べて見たいと思ひます

何といつても子供に取つて正月は樂しいものであることは大人が昔を想ひ反せば充分想像の出來ることでせうそこでこの樂しい正月を最も有効に利用し之を敎育的に取扱ふことに依つて、より一層正月の意義をなすものと考へます。先づ第一に各家庭での正月の行事を子供によく味あはせたいことです

◇……◇

正月の行事については朝鮮は內地の各地方から寄合つてゐるため家庭によつてそれ〴〵風習が多少違ふ點もありますが神詣とか年賀挨拶とか屠蘇雜煮を祝ふことと書初、初荷等は勿論、子供の遊びとして双六かるた取り、追羽子、凧揚げ獨樂廻し等に至るまで大體に於て同樣であつてこれ等は人間一生を通じて忘れがたい思出となるに違ひないと思ひます

◇――◇

さてこの樂しい正月の元旦に際し朗かに嚴かにそして希望に輝く氣分を以て敬神崇祖の精神を涵養し國家社會に對し感恩報謝の念を起め更に一家の幸福を祈ると共に年を加へる喜びと同時に自己の向上伸展を期するよう指導することは誠に大切な事であり又最もよい機會であると思ひます。それについて私が常に考へてゐることは朝鮮に來てゐる內地人は一般に若夫婦の家庭が多い事と內地に本家とか主家といつたやうな家のある人が多いためか、それとも腰が坐つてゐないで何だか假住居の心持でゐる人が多い故か兎に角神棚や佛壇等を祀つてゐない家がかなりある樣に見受けられます。かうした家庭に於ては敬神崇祖の念を養ふことは不充分でなからうか。(キリスト敎は別ですが)この點は親たるものゝ一に考へなければならぬことではなからうかと思ひます

◇――◇

年の改まると共に凡てを清算して向上の第一步を踏み出すべく一家揃つて神佛の前に禮拜する時こそに大きな或物を得る事と信じます

『それから第二には子供の躾の大改善を行ふには正月が最もよい時で家庭での躾けこの機會を逸してはならぬと思ひます

◇――◇

歳が一つ增した事の自覺を促して子供の惡癖惡習慣の矯正を計ること。例へば返辭が惡いとか起床の規律や身の廻りの始末がわるいとか、朝晩の挨拶家庭內の呼名、兄弟喧嘩等々いくらでもありませうがこの際思ひ切つて改革させることです割合に効果が多いやうです。それにはどうしても一年間の反省をせしめて懇々と說き子供と固い約束のもとに無理のない樣にして根氣强く結果を見ることが大切です

◇――◇

次には親き中にも禮儀ありで家內一同年賀の挨拶を互に交すとか又近所知人親類等に禮禮をさせることもよい事と思ひます。又正月に關する古來の行事殊に家風として殘された良習はどこまでも持續してほしいと思ひますが、たゞ注意してほしい事は子供をいつも忘れぬやうにして、正月らしく有意義に過させる事です

◇――◇

正月は大人のみの正月であるかの樣に子供を邪魔扱にしたり、屠蘇機嫌で醜態を演じたり、卑猥な言動を子供に見聞させることは最も愼みたいものです。いかに親の威嚴を示したとて百日の說法何とやらで子供は內心どう考へてゐるか誠に寒心すべきものがあります。殊に子供には子供の正月があります。子供を中心とした罪のない樂しい無邪氣な團欒の機をつくつてやることは大變よい事と思ひます。最後に申上げたい事は正月の休みは相當長いので家庭敎育の方針によつて之を善導する好機でありますが故に前述の外其の子供の個性に應じて出來るだけ惡を懲め善を勸め長所を伸すやう心懸けてほしいものですそれが休暇後の子供を見ますと却つて反對な現象を見受けるのでありまして始業後どうも學習狀態も健康狀態も惡くなつて來てこれが常態になるまでどうしても一週間位かゝるのであります。

◇――◇

そこで特に學校から望みますことはお正月のために子が不規律、不節制、不養生に陷らぬやう注意して頂きたいことであります。一家が夜更かしをする子供も遊びにふける、朝寢をする、寒いからぐづ〱する從つてだらしくなる自然休暇中の復習も怠たるといふ風になり勝であります。元日に嚴肅な心持ちになつたのはいつの間にやら飛んでしまつて、御飯時も定らず、遊び過ぎたり、食ひ過ぎたりし易いものです。それを、まあお正月だからとて見逃したり、見逃してくれるのをよい事にする樣なことは最も留意すべき事と思ひます殊に寒い朝鮮では室內の遊戲や娛樂が多いため其の弊が特に子供に及ぼすことの多いことを忘れてはならぬと思ひます。

◇――◇

國家非常時に際し今後一家一國を背負つて立つべき第二世には餘程しつかりした家庭敎育が必要の樣に思はれます。長い休みにはなるべく家事の手傳ひを子供相應にさせ身體に進んでする樣に勤勞好愛の習慣をつけ强く明くそして規律正しく節制のある生活をさせるやう望んでやみません。それから不養生の點については何しろお正月の食物は誠に不消化物が多くおまけに狹い一室に閉ぢこもつて運動不足になりがちです、それがため流感や猩紅熱にかゝり易く又胃腸を害し易いやうです、出來るだけ積極的に戶外運動を奬勵して身體を丈夫にするやう切望いたします

◇――◇

めでたいお正月にかたくるしい話をいたしましたが此の位にして止めておきませう

子供の作品

エンソク

鍾路公立小學校 二年 河添和雄

七日ハタノシイ エンソクボクラハ、シヤウチユウダンユキデタイヘンウレシウゴザイマシタ 川ヲトホル トキ、テフテフガ花ノ 上ヲヒラヒラトンデヰマシタ。又 ムカフノハウニハ、デンシヤモトホツテヰマシタ。ダイブン アルイテ シヤウチユウダン ニツキマシタ。ツクト、センセイガ シヤイマ 『アソビナサイ』トオツ シヤイマ シタノデミンナ ヨロコンデ アソビマシタ。ソノウチ サイレンガナリマシテセンセイカラオベンタウヲタベテヨイトオユルシガデマシタノデ 又ミンナハ ウレシサウニイソイデヒライテタベマシタ モトノ ヤウニ ナランデ、ゲンキデウチヘ カヘリマシタ カヘツテ オトウサンヤ オカアサンニ オハナシヲスルト タイヘン ウレシサウナ オカホヲナサイマシタ

てまり

南山小學校三年 池川多己子

私のすきなてまりは、まん圓いかつからです。物につきあたれば直ぐはねかへります。お母さんが『多己ちやんが小さい時、てまりが一番好きだつたね。てまりで遊んでゐる時外のおもちやを出してもそれをぽんとほつて、てまりばかりで遊んで居ましたよ』とおつしやいました。私は又『私は小さい時分そんなにてまりが好きだつたの、大きくなつてもやつぱり私はてまりの遊びごとが一番好きですよ』とお母さんに言ひました。私はてまりが丸いのやら、はねかへつて來るのが面白くてたまりません、だから好きのだと思ひます。私はてまりと聞いてもなんだか遊びたいやうな氣持になつて心がをどり立ちます。てまりといふ名をつけたのはだれでせう。てまりの中はどんなになつてゐるかな。だれが考へ出したのかな、などと思ひ出します、てまりのてんらん會はないでせうか……あつてほしいものです

戰爭ごつこ

南山小學校三年 伊藤茂

十二日は、日曜日でした それで僕たちは兵たいごつこをしました。杉本君が工兵になり前田君が、砲兵になりました。いよ〱開戰の時間がきましたまづ敵からしふげきが始まつたしゆつといふ音がして、さつと水けむりが上りましたと、同時に松本君が『砂をかけろ』と言ひましたので一同でかけますと水けむりは直にきえました。それで後を見たら、青竹の中になげ玉が一ぱいはいつて居るのが水の中に浮んでゐました。太田豐と言ふ人が大佐になりました『あつまれ』之から總攻擊と太田大佐の命令が下りました。『うわつ〱』僕達は口々にさけんで追擊しましたがばたり〱となげ玉にやられてたふれます。『なにくそ』とがんばつて立ち上り敵をおひまくつた。さすがの敵も死物ぐるひの僕たちにおひまくられて僕たちは見事敵のじん地を占りやうしました。さつとひるがへる日章旗『ばんざい〱〱』あゝゆくわい

京城府鍾路二丁目 井上藥品部 電話光化門八番

京城府岡崎町 淺川酒造場 淺川巖次 電龍九九一番

京城府古市町四三 蓑田新次郎 電話本局四五四二番

京城府本町一 料理 江戸川 電話本局一四六・九二八

京城府鍾路通一 梅鉢そば店 電話光化門四七八番

京城府長谷川町八六 錦糸布商 加藤商店 電話本局一八八八番

謹賀新年

京城印刷組合員 (代表者いろは順)

特別會員 井上商店 岩田鐵工所京城分工場 初田活版製造所 日本紙業株式會社京城支店 萩原洋紙店 ゲルトネル商會京城支店 大倉洋紙店京城支店 中山洋紙店 矢野商店 合資會社萩野商店京城支店 合資會社近澤商店洋紙部

通常會員 大和商會印刷所 大發印刷所 大海堂印刷株式會社 早坂製本所 橋本印刷所 西尾印刷所 西村印刷所 近澤健藏商店 太平堂印刷所 大谷印刷所 大塚商會印刷所 門田コロタイプ製版所 片岡印刷所 共盛堂印刷所 谷岡印刷所 北內印刷所 野津集文堂印刷所 山口印刷所 山田印刷所 山本印刷所 松本印刷所 博文社印刷所 京城日報社 江里口印刷所 江里口印刷第二工場 朝鮮印刷株式會社 合名會社近澤商店印刷部 佐藤印刷所 開進堂印刷所 帝國地方行政學會印刷所 開壽堂印刷所 白石商會印刷所 京城荷札製造所

京城府櫻井町 野津集文堂 電話本局一七二四

京城府黃金町一 合資會社泰明商會 京城出張所 電話本局二三〇一番

京城府鍾路二丁目 角田被服會社

京城府明治町二 渡部美粧館 電話本局九五八

京城府長谷川町 合名會社近澤商店 電話本局九四三

京城府桀三洞六〇 料理 清和園 電話光化門一八二七番

鎭南浦郵便局 職員一同

鎭南浦 河村商會

鎭南浦 大和組

鎭南浦 大日商會

朝鮮總督府穀物檢査所 鎭南浦支所

鎭南浦 野田良二

鎭南浦 藤本釀造所 柳原釀造所

鎭南浦 高橋仁作

鎭南浦 鹽販賣組合

鮮航同盟會 鎭南浦支部

鎭南浦 汽船株式會社

鎭南浦 岡修修二

鎭南浦三和町 鎭南浦水産株式會社

鎭南浦三和町 マルトミ取引店

鎭南浦 警察署員一同

朝鮮米穀倉庫株式會社 鎭南浦支店

鎭南浦 產業組合

鎭南浦府榮町 內地人貸座敷組合

鎭南浦 象山郁次郎

鎭南浦 土木建築協會

鎭南浦 生牛移出株式會社

鎭南浦 青木組

鎭南浦 無盡株式會社

平安南道立平壤醫院 鎭南浦分院

鎭南浦 福井滯

鎭南浦 商盛會

鎭南浦三和町 輸移入貿易商 鈴木商店 電話長一一番

朝鮮運送株式會社鎭南浦支店 支店長 鈴木喜代藏

滿洲製粉株式會社 鎭南浦分工場

鎭南浦電氣株式會社

日本鑛業株式會社 鎭南浦製錬所

鎭南浦府廳職員一同

鎭南浦公立學校職員一同

平南江西郡 日本鐵道興業株式會社 江西農場

會員組織 鎭南浦取引所

鎭南浦龍井里 海陸運輸 合資會社 三和組 社長 姜俊植 電話事務所二三五番 同本宅四二六番

鎭南浦 新井新藏

鎭南浦 合資會社 加藤精米所

鎭南浦 土曜會

謹賀新年

青松郡守 高亘明
義城麯子組合
義城 吳國泳
義城醫院 金弘鎭
日本工業桃李院 花田橋工事場
桃李院酒造組合
安溪 公醫 愛甲早吉
安溪金融組合 酒井國太郎
安溪酒造組合
安溪公立普通學校長 豊田官一
醴泉郵便所 山下豊記
慶州郡甘浦 松島屋旅館 電話三番
慶州 山口熹澄
慶州 柴田旅館 主 野中榮
慶州電氣株式會社
帝國徵兵保險代理店 朝鮮火災保險代理店 慶州 光成勝一
慶州警察署員一同
安東金融組合 理事 三枝治信
安東郵便所長 古賀正藏
安東公立普通學校長 金子直江
安東面上洞 李相杓
大興電氣株式會社 清道支店
清道郡楡川公立普通學校長 山下秀八

安東戊辰會
義興產業組合
咸昌產業組合 理事 金漢翊
醴泉官公吏一同
安東邑 大邱刑務所 安東支所
安東公立普通學校 職員一同
安東警察署長 植田柳助
春陽公立普通學校
春陽金融組合
義城郡 朝鮮酒造組合
義城釀造株式會社
三州社 三島辰二
大邱七星町一二三四 土木建築 水利請負業 李永實
慶州郡甘浦 御料理 明月本店 明月分店 明月劇場
倭館警察署 職員一同

道立大邱醫院
慶尙北道廳 金時權 古川兼秀
大邱米穀取引所
善山十五日會
大邱測候所長 布村重次郎
尙州郡尙州邑 朴寅洙
大邱朝鮮酒釀造株式會社
大邱府南龍岡町 二三酒造場 難波幸作
青松 沈相完
漆谷郡廳
青松金融組合長 平田義三郎
春陽木村株式會社
大邱印刷株式會社
共榮自動車株式會社 大邱府幸町
大興電氣株式會社 社長 小倉武之助
慶北 星州官公吏一同
大邱旅館組合

浦項邑長
浦項 雜貨商 山崎永七 電話二六六番
慶尙北道水產會
迎日水利組合 目原碩介
浦項警察署 職員一同
朝鮮慶北浦項仲町 各種印刷 啓文社印刷所 電話一〇六番 振替京城貳壹壹〇番
共榮自動車會社 浦項營業所 電話九番・一〇九番
書籍雜誌、文房具、運動器具 大阪朝日新聞販賣店 村田太陽堂書店 浦項本町・電話一二三番 振替釜山三七三九番
大邱府東門町 高田官吾
尙州邑會議員 蒲生嘉藤治
尙州邑濟世醫院 朴正紹
尙州邑本町 尙州齒科醫院
咸昌金融組合 理事 趙範錫
咸昌公立普通學校 職員一同
店村 戸西南公立普通學校 職員一同
乃城 公醫 金昌煥
奉化郡廳
奉化郡乃城 金珍圭醫院
禮安公立普通學校 母牟田一夫
慶尙北道立 安東醫院
安東郵便局
慶北倭館 入山昇

慶尙北道食堂會員
大邱公立中等學校長會
醬油味噌釀造 今金屋商店 大邱東本町
慶尙北道森林組合聯合會
高靈酒造會社 生部又一
高靈郵便所長 久野逸三
高靈金融組合 徐海錫
高靈警察署 署員一同
高靈金融組合 理事 宮本庸三
慶尙合同銀行 慶州支店
大邱府公立初等學校職員一同
大邱府公立補習學校職員一同
浦項醫友會
大邱無盡株式會社
佛國寺ホテル 杉山藤三郎
甘浦漁業組合
大邱府東雲町 棟居酒造場 同 東門町 小賣部
大邱金曜會

朝鮮運送、大阪商船 嶋谷汽船、岡田汽船 沿岸發動船 浦項運輸株式會社 浦項 電話一三・二五六・二六四
浦項郵便局 職員一同
江口漁業組合 理事 長谷川保
浦項驛長 大塲好
慶北道評議員 文明琦 盈德
浦項釀造株式會社
慶北漁業株式會社 迎日郡浦項邑浦項洞
浦項公立普通學校 校長 江本喜一 外職員一同
白頭山燒酎發賣元 合名會社 大上商店 電話二一〇番 二六〇番
慶尙北道水產試驗場 場員一同
朝鮮慶尙北道浦項 大興電氣株式會社 浦項支店 支店長 池田謙
浦項公立小學校 職員一同
大邱府元町 南鮮運輸株式會社
大邱府本町 南方商店

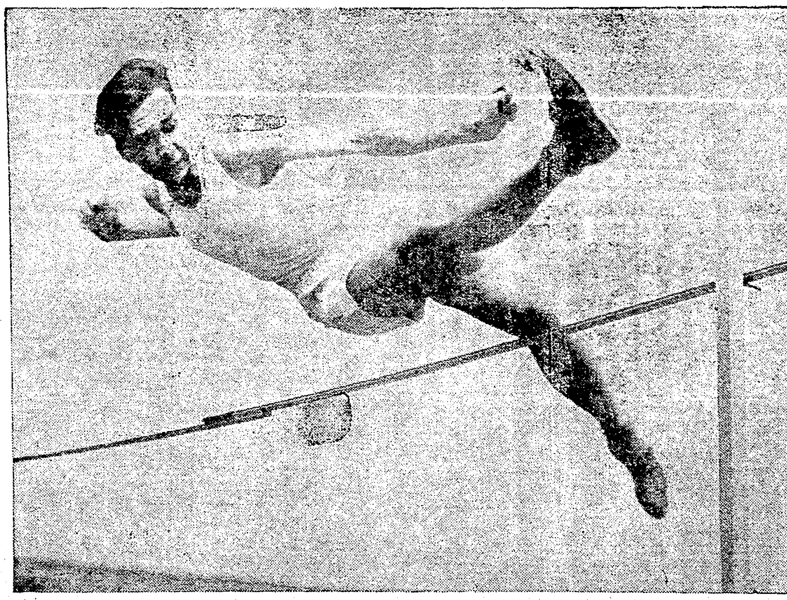
浦項料理屋組合
迎日漁業組合
大邱府本町 松前商店
大邱專賣支局 職員一同
大邱府東本町 片木屋酒店
和洋式設備、御料理、玉突 ベビーゴルフ場等完備 大邱公會堂食堂 大邱驛前・電話八五二番
大邱穀物株式會社
大邱府廳職員一同
朝鐵自動車株式會社 大邱出張所
朝鮮運送株式會社大邱支店 支店長 原田宣
大邱醫師會
大邱產業金融株式會社
慶北金融組合聯合會
榮州官公職一同
慶北漁業組合聯合會

朝鮮生糸株式會社
大邱製絲株式會社
片倉製絲紡績株式會社 大邱製絲所
安東郡廳員一同
大邱鳳山町 阿川組 木曾田志一郎

大邱料理屋組合
（いろは順）
いけす　生駒　白鶴　登喜和　鴨川　樂天　魚竹　福壽軒　明石　朝日食堂　清の家　菊萬　水戸家

永川官公職一同
慶北聞慶 官公吏一同
尙州土曜俱樂部 部員一同
義城官公吏一同

京城日報 其五



せつめい

ハイジャンプ六呎八、二分の一インチ（世界記錄）の保持者ニューヨーク大學ジョージスピッチ氏のジャンプぶり

昭和八年の半島運動界に對する希望

本府學務局　竹內一

明け行く昭和八年の半島スポーツ界に注文する心からなる希望も決して少くない。併し、筆者は親愛なる本紙の一隅をかりて唯一言特に半島の未來あるアスリート、體育運動競技關係者各位に左の言を呈し期待する。それは『模倣より脫して創造の時代に入り實力養成を期すべし』と言ふ事である。

今や日本の凡ての現象に於て、過去六七十年間の文化の模倣時代を脫退して、日本民族の歷史的自心の要求の上に立つた日本獨特の創造時代に面しつゝあるのを觀ふ事が出來る。體育運動競技に於てもさういひ得やう。去夏オレンジ薫る彼岸羅府の天地で示した水陸其他の種目に於ける我等代表選手の活躍は已に我々のレベルが世界的にまで引上げられた事の確信を得ると共に、徒らに先進諸國のものを模倣する事なく、今後は從來の我等の實力を基礎として獨創に依り我々の實力を發揮すべき時代に面した感を深くした。其の好例は水上競技に於ける競泳であらう。今や日本の競泳に於けるフォームは世界の先進國アメリカを蹴飛ばして斯界の研究の注目の標となりつゝある事は過言ではない。

凡て物事の發展は先づ模倣より初まるかも知れない。併しこの傾向は或る時機に至ればその發達を阻害する條件下に置かれる。この際一段の飛躍を望むものは、その上に立たるべき獨創時代への轉換である。

勿論獨創といつても、盲想に起因する獨斷主義であつてはならない。廣く知識見解を世界に求めてその上に立脚した個性の閃きでなければならない

他人があんなフォームで走るから又跳ぶからとか、或るチームがゾーンデフエンスとか、或はラグビーファイヴエイスを置ひて成功してゐるとかで、自分も自分のチームもさうしなくてはならないなどの考を除いて貰いたい。又折角考へたフォームやチームワークが一年や二年に成功しなかつた事などに氣を腐してそれを放棄して失ふやうら輕擧盲動を愼しまれたい。僅か一年や二年で强くなるものではない。須らく名アスリートの體驗談に聞くべしだ

スポーツのコーチや學校、社會體育の指導だつて同じ事が言ひ得る。近頃よく問題になつてゐる、ニルスブックの體操がどうだとかボーデの表現體操やダルクローズの律動體操がどうだから、徒らに目新しいものに走る樣ではコーチとし、指導者としての自信も信念もない事である。この點アメリカの大學のフットボールやバスケットボールのコーチなど決して理論的に見て偉學者ではない。然し作業は不斷のその道のみの研究と長年の體驗に、依つて、不拔の獨創——信念を得てゐる。ドイツあたりで、お隣の丁抹がブックの基本體操で騷がうと我關せずの體である。獨逸にはカーンやグーツムーツによつて系統づけられた歷史的のものがあるぞといはぬ許りに

我が半島のスポーツ界も已に內地のそれと同一步調下にあると信ずる。一般スポーツを論ぜず學校での體育運動競技を問はず今までの經驗を土臺とし、新らしい組織と朝鮮自體の特殊的條件を配慮した獨創の時代に入るべきだ

過去一ケ年間に於ける我が半島のスポーツ界を回顧し、その種々の惹起された現象を展望するとき誠に感慨無量だが、一面この獨創主義の機に面しつゝある事を痛感させられる

されば若人よ！お互にイミテーションの時代をオーバーしてクリエーションのゼネレーションにステップインしやうではないか！

一九三二、一二、二〇

回顧と希望

龍山公立中學校敎諭　全日本陸上競技聯盟委員　眞玉菊雄

萬國待望の、第十回オリムピック大會が、かの榮譽を誇るロスアンゼルスに於て開かれ榮ある日章旗は、幾度ともなく晴天高く勝鬨として世界人類環視の下に掲げられ、新興日本の意氣や怖るべしとの感を抱かしめたこの記念すべき、一九三二年も幾多の功績と希望とを包んで去る

△

回顧すれば三二年こそは、國の內外を問はず、實に多事多忙の歲であつた

之を我國陸上競技界についてみる時、一九一二年、始めて日本が國際舞台に名乘りを擧げてより苦節十二年、巴里の大會に於いて我織田選手によつて得たフキルドの一點、その一點こそ我國競技界が世界的進出の曙光であつた

斯くして一九二八年アムステルダムの大會を迎へ、我等全國民の多年期望した日章旗は遂に、かの北歐の空高く／＼翻つた

それ以來我國ジャンプ界は一躍世界的となり今や完全に世界を風靡するに至つた

之に反して我スプリント界を見るに一九一二年、ストックホルム大會に三島選手、一九二〇年アントワープ大會に山岡、加賀の兩選手、一九二四年巴里大會に谷選手、一九二八年アムステルダム大會に相澤選手、といふ樣に各大會毎に我國第一人者を送つたのであるが、未だ惠まれざるスプリント界は不幸にして第一豫選毎に慘敗の淚を呑んだ

△

而るに第十回ロスアンゼルス大會を迎へ、吉岡選手によつて得たる一點こそは、パリの大會に於て織田選手によつて得たる黎明の一點に等しく將來の吾スプリント界に一新紀元を劃した

吉岡選手のみならず多數の世界的選手を生んだ我競技界はやがて全世界を征服するの近きを信ず。來るべき一九四〇年の大會こそ之が實現を期することゝ信ずるのである

△

全日本陸上競技聯盟は八年計畫なるものを立て來る一月十日、十一日の兩日代議員會及競技委員會を開催され修正討議の上、最後の決定がなされる筈である

先に同聯盟によつて發表されし五項目が本年如何なる方法により如何なる順序のもとに實施さるゝか？如何にその趣旨は完全であらうとも之が實行さるゝものでなくてはならぬ。特に外國チームの招聘、日本チームの海外遠征等の條項に至つては莫大の經費を要するもので果して之が實現するや否や多く不安に絕えない

△

今や吾半島運動界には一大波瀾を描きつゝあり

設立以來幾多の功績をあげベストテンに入る數名の日本選手を出した朝鮮體育協會も去る第八回朝鮮神宮競技大會の終了を機とし、或は半島代表選手として、或は協會幹事として、多年半島運動界のため盡力されし主事蜂岸氏および協會常任幹事として永年主事を助け庶務を處理せし熊谷氏の勇退をよぎなくせしめた

多年協會の庶務に携り熱心半島運動界のため活躍された兩氏を今協會より失ふことは吾人の等しく遺憾とする處である

事茲に至る理由奈邊にあるやは知る處でないが尠くとも現在における協會の運命は改造か？それとも解消か？重大岐路に立つものと言へやう

この敗者を機に吾人の之に對する希望は、名譽ある半島運動界の健全なる發展のため、よりよき內容の充實と、信賴すべき鞏固なる基礎を有し名實共に全鮮體育界の統一を計る協會たらん事を望む

△

半島各種運動界も愈よ隆盛を極め技能の向上はもとより設備方面に於ても着々改善され運動に親しむ人の數も加へられた結果內地各團體との間に密接なる連携に迫られてゐる

從つて在來の如き組織の體育協會では充分の效果を現はすことは望めないのであつた。爲めに各競技には新なる組織規約の下に結合した聯盟の成立となり或は內地一流の支部として、より有効なる發展に邁進せんとしてゐる

その一例を言へば西部ラクビー協會朝鮮支部の如き、或はやがては全朝鮮陸上競技聯盟の本部ともなるべき京城陸上競技聯盟或は排籠球各支部、或は卓球、水上、氷上競技の聯盟組織等あらゆる種目に於て各異る獨立した組織を樹てゝ斯道の健全なる向上發展を計るべく努力して居る

ラクビー協會は既に鞏固なる基礎定まり、着々として實を結んでゐる、又京城陸聯に於ても、中等學校各學年別對抗競技、專門學校對抗競技、滿鐵競技部の招聘、各チームのコーチ等々第一回の試としては十二分の效果をあげたものと信ずる

斯く各の支部なり聯盟が各種運動競技に成立すれば一切の競技會等は各團體をして活躍せしめ一層これが合理的進展を計らしめるがよい。殊に之に携はる役員によく斯道に精通し常に研究を怠らざる人物を以て健全なる發達に努力し得る人を選ばねばならぬ。在來の如き名前のみあぐる役員は御免を蒙りたい

斯く論じ來れば在來の朝鮮體育協會の如きは實際的には何等必要も感じられない。されど各多數の異れる組織を持つ團體を一に纒めてこれをよく指導統制し以て中央地方の連絡を全からしむる體育協會は最も有意義であり、希望する處である

雄々しスキーヤーのジャンプ（寫眞）

氷上界今冬行事

城大豫科氷滑部長　藤井秋夫

此稿が掲載される頃は既に城大豫科チームは日光でのインタア・ハイの試合を終へ城大チームは盛岡でのインタア・カレッヂの試合を開始してゐるであらう。京城師範が幸ひにして遠征出來ればこれ亦盛岡でのインタア・ミドルの試合を終えてゐるはずである。此三つの試合が京城に關係ある氷上競技の皮切りなわけである。

豫科チームはホッケー、スピード兩種目に涉つて連年優勝して來たが、梅津、川西を失つた今年は二高の大津、松高の李（徽文出身）を向ふにまわして一等二等を爭ふことは一寸難しい。只確實に三等以下を獲得出來れば或ひは優勝可能かも知れないが、又、心細い感がある、ホッケーの方も前年度の選手を大部分本科に送つたのであるからこれまた自信に缺けてゐる。只年末の強敵北大豫科も五十嵐、千田等の有力戰士を本科に送つてゐるから、その點が多少の安心を與へる位なところだ。かへつて今年は二高あたりが恐い

師範のホッケーチームは中島君一人を失つただけで吉原、見元等が健在であるのに對し、唯一の强敵札幌師範は有力な選手を失つてゐるから先づ優勝確實といへやう

盛岡中學は只元氣といふだけだし他チームは問題にならない。

大學チームは昭和五年の全日本大會に早稻田に準決勝で敗れ六年のインタア、カレッヂで同じく準決勝で早稻田に敗れてゐる昨年は氷の關係で仕合中止だつたが、好運な組合せで決勝までは確實に行けるはづだつたのに誠に惜しいことをした、今年は花井、植松に超努級を失つたがその代り梅津、川西、山住、桝等が益々油がのつてきたから決して恥しい試合はしまいと思ふ早稻田が牧、小西等の精鋭を失ひ慶應が金子を初め粟川、有賀を送り、北大の主將久保が去つた今冬こそは城大にとつて思切つて活躍しうる時と云へやう、特に城大の中心は一年生だから來年、來々年と益々延びる可能性があるのは心强い

一月中旬から朝鮮アイス・ホッケー聯盟のリーグ戰が始るが、私共は內輪同志の勝敗は眼中においてない。このリーグ戰は要するに練習仕合にすぎないのだ。私共は廿三日頃行はれる對滿洲醫大との仕合に目安をおいてゐる。昨冬は幸ひにして接戰の後勝つたが、今年はどうであらうか？名選手日本の莊司君は卒業し、平野、林兩君の健康が思はしくないといふも醫大は恐ろしいチームだ。早稻田、慶應等より數等强い對手だ。此冬も勝てれば、『第十一回世界オリムピックには全京城チーム！』といふ私共の希望が益々力あらるゝわけだ

な此前後に氷上競技講習會を開きる運びに到つたことは誠に意し。余く總督府學務局の御理解ある御後援によるもので厚く御禮申上げる次第である。講師はホッケの方はホッケー聯盟の關係者及西大の人々ファイギニアは小口清水、佐伯等の在城の諸氏に加ふるに大日本スケート協會の審判人澤田氏と出來ればオリムピック選手の老松氏等を加へる豫定であり、スピードはオリムピック選手太谷氏を中心とするはづだから相當に立派な講習會になると考へられる。この講習會が朝鮮スケート會に及ぼす貢獻はけだし偉大なものがあらう。地方の方々も出來るだけ參加して頂き度いものだ。全鮮大會も開きたいものだし、安東の大會にも選手を送り度いものだが、體育協會の現狀では果してそれが實現しうるか否か多少疑しくも思はれる、最後に先日安東でスケート關係者にお目にかゝつた時『新義州には非常に有力な選手がゐる』ことを耳にしたことを附け加へておく、さうなると朝鮮のスピードも必ずしも心配がなくなるわけだ

朝鮮體育協會の更生

諸岡源吉

朝鮮體育協會はどうなるか、實際のところ押し詰まつた年の瀨に生命線上に喘ぐ自分には考察の餘裕が無い。又考えたつてどうにもならない。結局は都合のいゝところに自然に尻を据えるだらうと思ふ

現在の社會狀態に、現在に又將來の國家組織の一部分にこんな團體が必要であるならば、まさか潰す譯にも行くまい。故にこの尻が總督に据らうと又民間に持つて行かれうとそれは只形式上の問題であつて、大朝鮮の對外的の體面上或はボットになるか、或は實質的に朝鮮の體育を統制し指導して行く團體になるには結局は人の力にまつより外はない

體協が今年度四千圓近くの赤字を出したとか死活問題の如く騷がれてゐるが、金額に大小はあつても赤字を出さずに濟む今年では決してなかつた又現在の組織と事業に赤字を出さずに經理し得る天才があつたら高橋さんに代つて日本が背負へる

この兩三年來懸案になつて居た組織の改良が迫られたゝめ自然にこゝまで追ひ詰められたものでなく、三年すれば三つになる、朝鮮の體育界ももう肩上げを取らねばみつともない、死んだ子の歲を數えて見たり百姓の人殺し見た樣に騷いでばかり居ても始まらない、此際は一日も早く首肯される組織と、衆望を負ふに足る陣容で更生される事只其事だけが望まれる（寫眞は諸岡氏）

信念の確立

梅澤慶三郎

『日出東方にあり、われ今朝東天を拜す』『二千年以前にキリスト十字架にかけた。日本も亦錄を苦る用意がある。後世々界の輿論必ずや說かれる感情を是正するあらう』とはジユネーブに於て吾が松岡全權が所信を語り獅したる中の一節であることろふ。日本を思ひ日本人を愛すの最も快哉を叫び自重心をされたことはこれにまさるも昨年度に見出し得るだらうかに體育にあるものとしては第オリンピック大會に表現せるチームの驚異的の成績けその感激未だに腦裏を往來するもの切なるものあるはいふを俟たないがこれにも増して痛快の極みけこの一言である。これ全く人を動かし世界を動かした一言であらう。至誠そのものの表現と言ふべきであらう。

世は擧げて自力更生を呼び精神作興を企圖してゐる、これも總て至誠事にあたることによつて解決するものと信ずる。體育振興も亦然りである。

顧みて朝鮮體育界を思ふとき學校に社會に堅實なる進展を遂げて居ることは誠に喜ぶべき事實で第十四回國際オリンピック大會に金、銀兩選手を派遣し共に九着以內に決勝點に入り、講道館柔道を提唱されて五十年の今日我が朝鮮より古澤六段外二名の選手權獲得者を見たる快事。玄海を越して日本の覇權を持ち來るもの多きを加ふる等その證左と思ふべきもの多々あると思ふ。

客年末に至りて吾人に衝動を與へしものは朝鮮體育協會の解消か改造かの問題であることも心あるもの、誰しもが關心をもちし點と思ふ。今や運動界は等しく內鮮を問はず統制の問題に考を致し堅實なる體育振興を計りスポーツにより國威宣揚を企圖するところであるのである

朝鮮體協も識者の體育熱愛によつて堅實なる進展をみることは疑ひを容れぬところで又かくなるものと信ずるのである。鮮內學生スポーツ中野球は統制案成りて善導の緒開け、更に一段の質實なる發展を見るであらうがこの精神は獨り野球のみに限らるべきものにあらず他のスポーツも自ら規整せらるべき精神であると信ずる。しかして一般スポーツに於ても各分野に聯盟の成立して獨自の發展を企圖する又當然ならんもこゝに戒むべきは日本の學生スポーツであり日本の一般スポーツであるとの自負心と自尊心とを失ふことなく、それによつてますます日本精神を顯揚すべきだとのことである。運動界に於ても他國の模倣のときは去りて日本の獨創的發展時代だと信ずるのである。ジユネーブに獅子吼した我等が松岡全權の信念を體育界にも持ちたい。過去を顧み將來を思ふとき是をおいて年頭の希望他にないのである。（寫眞は梅澤氏）

女雪踏んで（少女スキーヤー達）

當るバット　長谷川君昨秋のトピック

昨夏本社主催全鮮野球爭霸戰準決勝對遞信の一戰に勝敗を決するチャンスに直面してカン／＼になつてとう／＼三振した鐵道の强打者長谷川君、ガゼン熱血兒として有名になつたが、その後スランプに陷つてすばらしい當りが出ず、あの大男がユーウツになつてゐたところ、秋季リーグ戰の最中一念發起して新しいバットを求めた、しかるに長谷川君の好む型がなく、半島スポーツ界の元老諸岡氏の經營する運動具店から三百何十匁といふ最重のバットを一時借用的に持ち歸つた、ところが、その翌日の試合にこのバットから多年熱望の柵越えホームランが飛んで、いつも苦虫を潰したやうな顏をニコニコさせてネット裏に觀戰中の諸岡氏の所に來り『イヤどうもありがたう／＼』

グラウンド

オリムピック代表選手であつた慶應のスプリンター阿武君が今春鐵道局に就職すると傳へるものがあるが、近時擡頭のめざましい京城の陸上競技界もどん／＼內地より代表的名選手を移入して貰はなくては一定のレベル以上に達しないからこの方面に有識者の關心を要望する、阿武君と矢野藥君の百米の競り合ひは兩君の技術をまた一段とあげると推される一事からでも好敵手の多いことが飛躍の第一步であるのだ

○

昨年沈滯して振はなかつた京城野球界も殖銀の老大組九人が一度に勇退するのをはじめ鐵道、府廳相當の異動があり、清新の氣を注入して聯盟の建直しと同時に大いに活躍が期待されてゐる

新人選手で噂さに上つてゐるのが殖銀に杉田屋外野手（早大）と小笠原捕手（立大）が入り、關大の至寶本田投手の鐵道入り同志社柴田投手の府廳入り等がある

○

京城運動場の入場料問題は二重搾取として非難の聲高いが、今年も同樣一般觀覽者から五錢を徵收することであれば、まづ第一に野球場スタンドの改善、陸上競技場の改造等をなして觀衆に氣持よく見られるやう相當のサービスをしてよいはずだ

○

昨年の陸上競技大會にはリレーの距離測定を誤つたり、二百米が百九十米しかなかつたりすることがあつた、今年から最善の努力を傾ける選手のためかゝる錯誤を行はぬやう主催者側の注意を喚起したい

賀正

金剛山電氣鐵道株式會社

京城料理屋組合

朝日タクシー
京城府古市町一二
電話本局八二・八三番

文藝

愛らしき女

廣津和郎

小柄なほつそりとした身體つきで、何處か踊りでもやつたやうな色つぽいゆとりがあつた。顏つきもまづくはなかつた。眼鼻立も整ひ、表情に乏しいが、顏の筋肉が敏活に動かずに、ゆるく鷹揚に動くがために、却つて男の心をそゝると云つたやうな、さういふ顏立の女だつた。

テーブルの前を右往左往する女給達の中では、結局これをとる。彼はそんな事を考へた。

ビールをはこんで來て、彼が盃に注ぐと、彼女はそのまゝ彼と向ひ合つて、テーブルの向ふに腰を下ろした。別段何も云はないで、默つてお酌してゐた。二かは眼のよく見ると綺麗な眼であるが、併し顏全體と同じやうに無表情な眼—羊の眼を思はせる邪氣のない無表情な眼だつた。罪のなさ、そんな感じがした。

彼が彼女の眼を見てゐると、ちらりと彼女は彼の眼を見返し、頰の筋肉をゆるやかに動かしながら始めて微笑した。人の好い笑ひだつた。がその頰の緩んだ笑ひ方が消えて行く時、彼はすこし彼女の突き出た下唇のあたりに、細い線を見た。下唇の出てゐるのは地顏らしいが、併しそれと上唇とが結び合はされた小さな口付に、嘔氣を抑へてゐるといつたやうな表情がある。

『胃が惡いね、君は』と彼はいつた。

『ええ。解ります?』

『嘔氣が來るのかい?』

『ええ、十日ばかり前から胸がむかくしますの』

『ふむ。少し藥を飲むといゝな。併し藥が効かないとすると、或は[illegible]をする必要があるかも知れないよ』

『え?』

彼女は眉を上げて、眼を圓くしながら彼の顏を見た。—圓くした、吃驚したやうな眼が、へんに可愛らしかつた。そして彼の眼が浮かべてゐる微笑の意味が解ると『あら、イヤだ』とでもいつて、横をむくかと思ひの外、彼女は熱心な顏付になつて『でせうか?』といつたやうな首の傾げ方をした。

『よく聞かして頂戴ね。あたしお側に行きますから』眞向ひの椅子から立上つて、彼の腰かけてゐる長椅子に來て、彼女は並んで腰かけた。『……でせうか?』今度は口でいつた。

『異常があるだらう?』

『ええ、でも二日ほどよ。あたし規則正しいのが、二日遲れてゐるだけよ』

それは正月の二十二日だつた。彼は指で折つて見た。

『君は十二月の七日か八日ごろ、好きな人に有つたかい?』

『ええ、七日よ。—まあ、あたし何でもしやべつてしまふのね。でも嘘がいへない性分なんだから仕方がないのよ。七日と十五日の日に會つてよ』

『いや、十五日ぢやない、七日のだ』

彼は最近の妊娠についての或學說を思ひ出して、それによつて測定してみながらいつた。それは今の醫學界で賛否まちまちの說ではあるが、しかし彼はその學說に贊成意見をもつてゐた。

『やつぱりさうか知ら?』彼女は一寸考へるやうな眼つきをした。

『こまるのかい?』

かういふ處に働いてゐる女であつて見れば、或は綺麗な戀愛の結果かも知れない、と考へたので彼はさう訊いた。

『別に困りはしないわ。—でも今から可哀さうでせう、まだ二十一なんですもの』

『愛し合つてゐる人なんだね?』

『ええ、でも、その人[illegible]氣つぽい人なのよ。方々で浮氣するらしいのよ』しかしそれが心配や苦痛の種になつてゐるのでもないらしい、陽氣な答へ方で答へて、『一緒にならうとは思つてゐるのよ。でも今から困るでせう。もうすこしあたし働いて置かないと、だつてその人まだ若くつて、お金がないんですもの』

『まだそれがほんたうか嘘かわからないが、しかし最近僕が讀んだ或博士の說では、さういふ計算になるかも知れないんだよ』

そんな會話を交しながらも、並んで腰かけてゐる彼女の身體の感觸の柔かさに、彼は或快さを感じてゐた。—普通の女の隱す事を初對面の彼に向つてすら喋つてしまふ開放さ、馬鹿正直に近い單純さが、彼の心に妙に印象を殘した。

十日程經つて、二度目に彼がそのカフエーに行つた時、彼女は受持ではなかつたが、すぐ彼のそばに寄つて來て、さも信賴してゐる人にするやうに彼の耳に口を寄せてさゝやいた。

『まだなのよ』

『ふう、まだ?』

受持ちの女が氣がつかないやうに、彼が彼女の顏を見返すと

『だから、やつぱり仰しやつた通りらしいわ』

『さうかい。でもそれがために、身の振り方に困るわけでないならいゝぢやないか』

『ええ、それやさうよ』

一ケ月ほどして、彼は二人の友人と一緒に又そのカフエーに行つた。彼は店に入るなり、彼女を眼でさがして見たが、五十人もの女給がゐるといふ、その廣い中では一寸見つからなかつた。

彼等は顏を知らない一人の女が案内するまゝに、片隅のテーブルを圍んで腰を下ろした。—彼等はみんな學校の研究室で一緒に仕事をしてゐる連中だつた。その日は會があつて、その歸りに銀座に散歩にやつて來たわけだつた。彼等はビールを飲みながら、既にその專門の方面の事で議論をしてゐた。それは乳癌が出來た時、既にそれが數年後に子宮癌と胃癌とを約束してゐるものだから癌腫が場所によつて外科、内科、婦人科と分れるといふ事は、今の分科的醫學の誤謬ではないだらうかといふ事についてだつた。

彼もその議論に卷き込まれて、大いに論じてゐるが、不圖顏を上げると、向ふの方の植込に隱れたボックスに、客の相手をしてゐる彼女の姿が眼に留つた。その瞬間彼女の方でも彼に氣がついたらしかつた。彼女は合圖見たやうに手を擧げて、それから立上り、いつもよりも快活に、丁度白兎が飛んで來るやうな恰好で、彼の側に飛んで來た。

『今月はお友達とお一緒?』さういつて、彼の友人達にも會釋して、それから彼の肘掛椅子の肘に腰をかけ、彼の耳に口を寄せて、かう囁いた『あんた、あつたのよ』

『えッ?』

『をかしいわね。半月ほど前よ。阿母さんもさうだと極めてゐたのに……』

『さうかい』彼はどうして流產が來たかを、一寸考へたが、併し活々してゐる彼女の樣子に微笑しながら、『それで安心したのかい。それとも殘念なのかい?』

『兩方なの。—惜い氣もするわ、だけれど、やつぱり好かつた氣もするわ』

『併し君の彼氏が殘念がつてやしないかい?』

『彼氏?……その彼氏とは別れてしまつたのよ』

『へえ。それは又どうして?』

『どうしてつて、浮氣なんですもの』

『兎に角、恐ろしく早いんだね』

『その事については、又お話しするわ。—では御ゆつくりね。向ふに番がありますから』

そして又白兎のやうに、植込みの向ふのボックスの方へ駈けて行つた。

彼はそれを見送りながら、腹の底から微笑してゐた。—何といふ可憐な單純さ。そして何といふ可憐な淺墓さ。—歸りかけると、いつか彼女は入口に來て彼を待つてゐた。

『一遍散歩につれてつて下さらない』『うん、つれていつてもいゝよ』『明後日非番ですから、明後日の晩……』

『うん、明後日の晩』

ビールの醉もあつたし、それに彼女の自然な物の云ひ方に、すら〳〵と釣込まれて、彼は輕く約束してしまつた。

約束の日、彼は新橋驛で彼女を待ち合せた。カフエーの女とつれ立つて歩くといふ、始めての經驗の豫想が、彼を面恥からせてゐたが、驛の待合所に立つてゐた彼女は、割に地味なコートを着てゐるので、その職業の女らしいけばけばしさはなかつた。それが彼を安心させた。研究室に閉籠つてゐる若い醫學士の散歩相手としては、少しインテリ味は缺けてゐるが、彼女の持つて生れた性質であるらしい、下品な感じの少しもないのがせめてもの取柄だつた。

彼は彼女と一緒に洗足池の池畔を散歩した。三月初めで、風がない、晴れた日だつたので、寒くなかつた。霜どけが靴の下ににちや〳〵したが、新鮮な土の匂ひは久しぶりで彼の鼻に氣持ちが好かつた。

『さう〳〵、彼氏の話を聞く約束だつたつけね—』

他に話がないので—全くこの女と共通に興味を持ち得るやうな話題は、彼には到底考へ出せなかつた—彼がさういひかけると、

『そんな話。そんな話もう厭』

彼女は首を振つた。

『ほんとうに恐ろしく簡單に別れたものだね』

『厭だといつたら、そんな話……』

[illegible]の驛から森を拔けて暫く行くと日當りの好い枯草の原がある。二人はその枯草の上に腰を下ろした。

『一體又僕とどうして散歩する氣になどなつたんだい!』

『……』

彼女はうつむいてゐた眼を、ちらと彼の方へ向けた。羊のやうな善良で無表情な眼、そしてそれ故に何處か男の心をそゝるやうな眼—彼は彼女のその眼の中に好意を讀み取ると突然この女が可愛らしくなつた。それは明るい慾望、春の日に照されて、生物の上に自然に生えて來る慾望、面倒ないざこざなどの伴はない、草の芽が自然に生えて來るやうに生えて來る慾望と入り混つた可愛らしさ—

『ぢやねえ、あすこに一緒に行くかい?』

顏を覗き込むやうにして、かういふ言葉がこんな風に平氣で口に出せるといふ事に、自分でも驚いたやうな平氣さで、彼は向ふに立つてゐるホテルの方を指さした。

『ええ』

彼女はすぐうなづいた、さういふ事を心と反對に一度ははぢらして見せる特有の技巧などは少しもなく、と云つて勿論あばずれた闘々しさからでは更になく、いと單純に、而も何處かに柔軟性を帶びた女性らしさで。

夕方、彼はホテルから彼女を彼女の店の側まで送つて行つた。タクシーから下りた彼女が、道行く人の視線も氣にかゝらないやうに、そこに佇んで、彼のタクシーを見送るのを後にしながら、彼は朗かな心持ちで、小石川の彼の住居に歸つて行つた。

『理想的だ』彼は自動車の上で呟いた。彼は今まで月に二回とか三回とか、『健康のために』娼婦の許に通つてゐた。彼は自分の心を始終うつろにされるやうな戀愛—烈しい、何ものも燒きつくすやうな戀愛は、別段欲しいと思つてゐなかつた。科學者としての命題がさう彼をさせたばかりでもあるまいが、彼はさういふ戀愛に依つて心に動搖を受ける事は豫想するだけで不安だつた。意識的にさへそれに遠ざかつてゐたと云へるかも知れない。それで彼は生理的解決を娼婦に求めてゐたが、併しその不自然な戀愛はいつでも後悔に似た不快さを伴はないわけに行かなかつた。道德で自分を非難しようとしないが、[illegible]とした感情拔きの生理的行爲は、明朗なものとは云へなかつた。そして何處かに精神的不滿を感じないではゐられなかつた。

ところが今日の彼女—それは燒きつくやうな烈しい戀愛の重荷なしに、朗かな好意で對される。—彼女の方でどんな風に思つてゐるか知らないが、併しその單純さと可憐なる淺墓さとは、何等の威壓力を以て迫つては來ない。

そして娼婦を相手にしたやうな後悔も不滿もなく、立派な愉悅にひたる事が出來、而もそれによつて頭を壓倒されるやうな危險はない。—朗かに好意を以て會ひ、好意を以て別れ、又これからも、いつでも好意を以て會ひ、好意を以て別れられさうだ。

無邪氣……彼女と同じ明るさでこの關係はやつて行けさうな氣がする。

『理想的だ』と彼は再び呟いた。結婚生活の出來ない、或は望まないものの間に、これは理想的な男女關係ともいへるだらう。—彼は彼の思ふ通りに、彼女にもさう思はせる事は、難かしい事ではないやうに思はれた。

五日に一度、一週間に一度、彼は彼女を呼び出した。彼の思ふ通りに事はこんで行つた。彼は何事も云ふ必要はなかつた。朗かに會ひ、朗かに別れられた。

一ケ月ほどしての或晩だつた。彼はその翌日彼女を呼び出す慾望を感じた。彼は彼女の欲しがつてゐた肩掛を買つておいてやつた。それも渡してやりたかつた。彼は彼女の店に電話をかけた。

『明日……ところ……』

いつもに、彼がそれだけいへば、直ぐに相手に通ずる事をいふと

『あの、』電線の向ふでは彼女の聲が、當惑したやうに答へた。『明日一寸困るのよ』

『出られない?』

『あの……』

『やつぱりの?』

『ぢや、次の遲番の時は?』

『ええ、あの……』

『ええ』

『どう?』

『お話しが知ら? 云ひにくいのよ』

『どうしたい。何でも構はないから云ひ給へ』

『さうあお會ひ出來ない……お會ひしない方がいゝのかも知れないのよ』

『それはしてだい?』

『あたしか知ら。—やつぱり浮氣なも知れないけど……』

彼は彼女の云ふ言葉の意味を怪む前に、云ふ言葉がカフエーの店の中で人々の前で云はれてゐるかもしれない事が氣になつた。

『おい〳〵電話でそんな事を云つて……友達で誰か聞いてやしないのかい』

『大丈夫よ。今此處には誰もゐないの』

『ふん、それならいいけれど。……では何、例の彼氏とヨリが戾つたとも云ふのかい。それならそれはない方がほんたうだけれど』

腹は立たない、併し或殘り惜さが彼を淋しくした。

『さうぢやないのよ。それならいいんだけど……』彼女はそこで一寸默つて、『だからあたしやつぱり浮氣のか知らと思ふのよ』

『ぢや、誰か他の人が出來たのかい?』

『さうなのよ。御免なさい。—あたし、ぢや浮氣のつもりぢやないんだけど、やつぱり浮氣なのか知ら』

愛らしく彼女よ…電線の向ふの羊の眼のやうな彼女の眼が、困つた表情を浮かべながらさう云つてゐる樣子を思ひ出すと、彼は嫉妬の代りに微笑を催さずにはゐられなかつた。

『それでその人と結婚するのかい』

『ええ結婚してくれろつていふのよ。から、あたしも結婚しようと思つてゐるのよ』

『それぢや、この僕より好い』彼は云つた。『それぢや、うまくやつて行くんだね。—無論、われ〳〵はもう會はない方がいゝよ』

『でもいいわね。御免なさい—明日だけお會ひしてよくお話しやうか知ら?』

『いや會はない方がいいよ』

會つたら、あの無抵抗な彼女に又どんな事になるかも知れない、彼はさう思つたので急いで云つた。

『會つちやその人によくないよ。ぢや、うまくおやりさやうなら』

『御免なさい。何だか惡いわね。御免なさい。—では左樣なら』

彼は受話器をかけると、こらへてゐた可笑しみが、一時にセキを切つたやうに笑ひ出した。そしてそこから賑やかな町の方へ歩いて行く中、何か涙ぐましいやうな氣持になつて來た。無心な罪のない子供のする事を見て、微笑の中に自然と涙ぐまれて來るあの氣持ちに似てゐた。彼は肩掛をその翌日小包にして店宛に送つてやつた。(終り)

歌壇待望
極めて主觀的に
百瀬千尋

○……歌壇の變遷の相

昭和七年の歌壇は、短歌新聞一月號で展開された『定型か自由型か』の論議にあけて北原白秋の『短歌の古典主義』に對し前田夕暮の『短歌の時代性』の論爭及之を中心とした諸論にやゝ生彩を保ち得たのみで、一月プロレタリヤ歌人同盟の解消、十月日本短歌・短歌研究等綜合雜誌の創刊、短歌評壇の完成、奈良萬葉植物園の歌壇のジャーナリズム化及短歌化はあつても、内面的に何等の進歩をも招致しなかつた。

詩歌九月號夕暮の『新日本詩の提唱』とその潑剌たる作品には敬意を表し得るが、所謂新進は徒らに空論に醉ひ、批評家は抽象に流れて自己を語るの弊に陥るのみで理論の重圧は歌作の明朗さを奪ひ、誠に歌壇衰微の相ありとさへ見られた。

半島に於ても十一月の朝鮮歌人協會創立によつて、歌壇運動の强調を思はせたが、その活動は八年度に殘された問題であり、たゞ流派を超越した女流歌人群隔週一回のみすず會例會の眞摯なる研究態度に注目する他、各誌退歩して、古參揃はず新進出でず、感激なき叙景歌とうすき抒情歌の氾濫は半島歌人情緒の枯渇とさへ思はせた。

現實的新抒情主義短歌の提唱

然らば短歌は既に『短歌滅亡論』の彼岸に近づきつゝあるか?否、私には今の時代を唯物短歌沒落の時と思惟し、既に新短歌擡頭の萌芽を感じ、こゝに現實的新抒情主義短歌を提唱せんとするものである。現代人の生活條件と生活感情は實に多種多樣である。その經驗する現實の特性と現實感の複雜さに對して歌人はあまりに逃避的貴族的であり過ぎた。古典的、永遠的觀照の時代を破つて變革的、流動的、時間的に進むのである。宗教的、神秘的思惟を棄てゝ科學的、論理的思想を持たなければならない。甘美な幻想や逃避を破壞して、現實を反映し、現實を具象化し合現實感を生々と抒情することを提唱する。短歌の形態についてもより科學的に進みたい。批評もより科學的でありたい。私はこの明朗なる現實的新抒情主義短歌を年頭に當つて提唱し、昭和八年歌壇の隆盛の途と信ずる。(十二月三日のみすず會及その後の大田及び順天歌會で詳述したが、ボトナム一月號小泉苳三の短歌の方向參照のこと)

朝鮮歌人協會待望

中央偏重の思想が解めて、地方歌壇進展の時代である。この事も協會設立の機運の一つであつたことは拒めない。しかし地方歌壇が頻りに雜誌を發行し協會を設立する歌壇現象は、やゝもすれば自慰的に短歌を藝術行動から趣味行動へ後退させやうとする。協會役員の立場からはなれて私は個人として協會が『歌壇の振興を期す』る藝術的本來の意義に立つて現實的に華々しく歌壇向上の運動を興すことを期待し、昭和八年朝鮮歌壇の隆盛を祝福しよう

謹賀新年

全南榮山浦 米穀籾摺業 林實治商店 電話四六番
全南榮山浦 米穀、肥料、棉花、叺 徐亨伯 電話六五番
全南榮山浦 米穀、棉花、叺 李東起商店 電話一〇三番
全南榮山浦 國重精米所 電話二三番
全南榮山浦 古賀眞雄商店 電話二十八番
全南榮山浦 米穀、肥料商 松前商店 電話二五番
鐵道荷物取扱一般運送業務 荷主組運送店 代表者 宋甲閏 全南榮山浦
全南榮山浦 板谷紋一 電話五三番
各種賣藥、諸新聞取次 加藤盛春堂 全南榮山浦 電話一〇二番
全南榮山浦 郵便所職員一同
全南榮山浦 清水精米所
米穀、肥料、叺商 森崎胖一商店 全南榮山浦・電話三九番

全南榮山浦 醫院 北島春吉
全南榮山浦 榮山浦公立尋常高等小學校 榮山浦公立實科女學校 職員一同 電話六一番
全南榮山浦 榮山浦産業組合 組合長 石田嘉太次 電話五四番
湖南線榮山浦 榮山浦驛 職員一同
食糧業、金融業、保險代理店、運輸業、叺賣買業 榮山浦運輸株式會社 全南榮山浦 電話三七番
全南榮山浦 野口定
全南榮山浦 小笠原義之
全南榮山浦 黑住農場 電話七番
和洋菓子卸小賣 流郷祐一商店 全南榮山浦・電話拾番
朴齒術院 院長 朴張柱 全南榮山浦
全南榮山浦 大江旅館 電話一七番
全南榮山浦 榮山浦公立普通學校 職員一同
榮山醫院 崔翼鴻 全南榮山浦・電話一〇七
全南榮山浦 雜貨卸商 大谷商店
全南榮山浦 醬油、製造業 漆原工場
米穀、肥料 阿部万吉商店 全南榮山浦・電話三八番
黃海道殷栗郡 警察署長 警部 尾鷹寛次郎
明川郡畜産同業組合
明川郡農會
黃海道殷栗 殷栗郡廳 職員一同

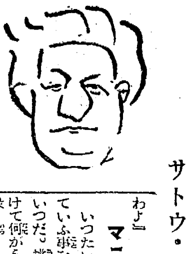
水原土木管區 主任 有松壯平
水原物産商會 湯淺伊平 電話 店一四番 宅一三八番
水原驛前 巴商會洋服店 電話一四三番
水原中央印刷所 朴一龍 電話二三番
株式會社高種園 洪思先 電話二七一番
殖産銀行水原支店
漢城銀行水原支店
京城日報水原支局 江口守夫 電話五一番
水原本町 水原共益儀禮社 電話五一番
水原城内 富司亭 電話一四番
水原邑山樓里 東一印刷所 尹泰仁 電話一〇〇番
黃海道殷栗郡 金山浦刑務支所 職員一同
黃海道殷栗郡 各公立學校 職員一同
明川郡同修會
藤田留吉 明川郵便所
藤村隆輔 雩北公立普通學校
中本群一 龍洞鐵道官舍
滿留末吉 永安鐵道官舍

水原醫師會
水原驛前 白鳥醫院 白鳥芳男 電話一六一番
水原郵便局長 高田利橋 電話三番
水原邑長 梅原靜雄 電話一五六番
八灘公立普通學校長 酒井貞男
龍仁郵便所長 大藤久
南陽郵便所長 前田隆
水原城内 築地洋服店
共濟無盡株式會社 水原出張所 電話三〇五番
水原麵子製造場 理事 藤井安一 電話二四九番
在鄕軍人會水原分會長 原井健二
水原警察署長 神田實夫 電話六番
水原道立醫院長 醫學博士 田村實眞
水原 香山弘 電話一一四・一二六番
水原城内 石井岩十郎
水原驛前 土木建築請負 糖岡實一 電話二二二番
半月面長 沈玄澤

水原佛教各宗會
水原市外坪里 精米業 寺澤捨三郎 電話一三五番
京城電氣株式會社 水原支店 職員一同 電話四九番
本社 京城府南大門通五丁目 昭和トラック 電話本局三一七番
水原南門外四ツ角 綿布、穀肥、粉、其他 竹下平三郎商店 電話長二六・二六番 振替京城一四六七番
水原金融組合 組合長 車裕舜 理事 赤木直枝 電話二七七番
水原郡內消防組 青木爲一 井川好太郎 近澤馬吉 洪承殷 佐坂才吉 島瀬德藏 樫本要人 桐畑辰藏
農事試驗場 水原高等農林學校 農事試驗場蠶糸部 職員一同
水原郡各産業團體 職員一同
水原小學校組合 管理者 組合會議員(順次席) 近藤虎之助 鈴木外代一 江口守夫 井川好太郎 田尻熊太郎 西川久雄 石川喜四郎 藤井繁穗 駒井益[illegible] 守田治壹 山田半次
水原郡酒造組合員 水原釀造株式會社 韓弼鎬 尹敬變 朴寶錫 金教益 鄭榮悳 尹夏變 朴斗鉉 徐光俊 金南圭 金容俊 趙仁行 林寅毛 尹元成 李明西 朴健裕

近代女性讀本

サトウ・ハチロー



プロローグ

僕は女に手紙を書いた。

——こまかい雨がふつてゐます。あなたのいとしいソバカスもこんなこまかい雨のために出來たのでせうね——

すると女から返事が來た。

——あたし、これから、白粉のかたねりを使ひますわ——

これが、この頃の女性である。美しい詩のたましいなんて、餘り持ち合せてゐらつしやらないらしい。

いとしいソバカスも、カタネリ白粉で、かくされては、さぞかし嘆くことであらう

お化粧道具

女位、もののネウチを値段できめるものはない。

『あなたの口紅の色は、すばらしいですね、あなたのその薔薇色の顔と、ルージュの赤味のまさつたオレンヂとが、何ともいへないすばらしいハーモニイを持つてゐますよ』

僕は、女に向つてかういつた、實際その女の唇に持つて來いのルージュをつけてゐたから……である、すると女は

『駄目なのよ』

『どうして、どうして駄目だなんて素敵じやありませんか』

女は手をふつて

『これ駄目なのよ、これをいゝだなんて、あんたどうかしてるわ、このルージュは一圓二十錢の安物なのよ、ねえ駄目でせう』

これを聞くと僕は二の句がつげなかつた、女といふものは値段によつて物をきめるものである。ことに新代女性はさうである。

似合ふといふことは、必ずしも金のかゝつたといふ事ではない。わかつてゐさうでわからないのである。僕は、それ以來このコツを心得て、女房などに、ものを買つてくる場合、あらかじめ別な定價のペーパーを用意しておいて、はりかへることにきめてゐる

『おいシャムプーを買つて來たぞすばらしく高い奴だ』

女は、ちらりと定價をみて、安心する、さうして翌日、湯殿からきツとかういふ。

『あなた、このシャムプー、すてゝよ、髪の毛がサラサラになつたわよ』

マニキュア

いつたい、この爪みがきだなんていふ事を考へた馬鹿はどこのどいつだ。桃色のエナメルを爪につけて何がうれしいのだ。この頃は鼠黄色のさへ出來て來た。考へてみるがいゝ。あの爪みがきに女は二時間を費やす、朝目がさめて、下へおりて行つたときに、女が、あれをやつてゐる時、僕は大きな幅の廣いタメイキを冬の空に向つて吐き出す。

冬の空からは、雨が落ちて來てゐる、僕のタメイキは雨にたゝかれて消えてしまふ。僕は、自分でお茶を入れて火鉢のそばに、つくねんとかしこまる。煙草を喫ふ。お膳の上には、何も出てゐない。

『めしはまだか』

などといはふものなら

『爪はきれいにして置くのだ、この頃の女のたしなみよ』

と、はじき返してくるから默つて新聞をひろげる。一面からずつと、よみ始める、二十分、三十分三枚の新聞をすつかり讀んで、しまひには、求職欄まで目をさらす

『嫁度、容姿美麗、二十二歳なれども一見二十四歳』

なんていふのがあると、ゾッと脊筋を編みたいなものが流れる。三十二といへば、爪をみがいてゐる女と同年だ、一見二十四五歳、これも似てゐる、いや似せてゐるのだ。

『この女もやつぱり、マニキュアをやるのかな、さうだとしたら、この女を娶ふ夫は氣の毒だな』

腹の虫は、もう泣く力もなく、時計が空しく十二時を打つ、起きたのが九時で、いま打つたのが十二時なのだ。

『おい、おい』

と呼ぶと、ヤッと終へたらしく隣室から出て來て

『ねえ、きれいになつたでせう』

と爪を出してみせる。お腹がすいたでせう、ごめんなさい位のあいさつはあつてほしい

しかたなしに

『あゝきれいだね』

と箸をとる。もう冷えてしまつたゴハンをつけて、あゝそのきれいにみがかれた爪を持つ手に茶碗をのせてさしだされる時、僕は、不覺にも涙ぐんで、それをごまかすために、味噌汁を音を立てゝ吸ふのである

ラグビイ

秋の、慶立の二回戰の野球があつた日に・慶明のラグビイ戰があつた。僕は野球を六回まで見てラグビイに駈けつけた。野球にくらべると、ラグビイはダンゼン女性のファンが多い、スタンドの四分の一は女性である。女性はラグビイをそんなに愛してゐるか。いや待つて下さい。愛讀者諸君！

『フミ子や、今日のラグビイは、どうだつたの？』

あるお母樣が、ラグビイを見に行つて歸つて來たある女性に聞いた

『あのね、お母さま、とつてもよかつたわ』

『どんな風によかつたの』

『あたし、ダンゼンうれしくなつちやつたのよ』

『あら、そんなに面白いゲームだつたの』

『いゝえ、そんな事ぢやないのよ』

『どんなことなの、フミちやん』

『だつてお母さま、うれしくなつちやうぢやないの、今日ねえ、ラグビイ場で、あたしの帽子が群をぬいて一番よかつたの』

おわかりですか。ラグビイは見に行くものです。帽子ばかりぢやありません、毛皮を、外套を、も。

ペット

女は何かを愛さずには、ゐられない。何か可愛がるものが必要なのだ。ちんころをペットとしたのも、ポケットモンキイをペットとしてゐる女性もゐる。それは二十七八歳の奥さんである。あうむは毎朝、奥さんが目をさますと、すぐにあいさつをする。何とあいさつをしますかな。

『オハヨウ、オジョウサン』

これを聞くと、奥さんはあうむのそばへ飛んで來て、

『あたしの可愛いペリコや』

といふ事になるのである。

ある女優は、二十日鼠を飼つてゐた、鼠はいつも部屋で、小さい車の中に這入つて、クルリクルリと廻してゐた。この女優に戀人が出來た。

女優は、舞臺から部屋へ歸つてくると、すぐに鏡の中で戀人の事を思つた、クルリクルリ鼠は、あひかはらず廻してゐる。女優は思ひ入れたつぷりな表情で、鼠に向つてから言つた。

『いとしい、おねずちやん、あたしの心をさう廻さないでおくれ』

亭主をペットと心得てゐるのがゐる。髭を亭主がするとすぐにクリームを塗つてやり、寢るときは歌をうたつてやる。病氣をすると、氷をかみくだいて口に入れてやる。こゝまでは、大變結構なのだが、いつも出て行くときには、紐のやうに一緒に、くつゝけて引つぱつてゐる

新春の流行品

新年京城の流行界で尖端を行く近代モダン化して來たものは何といつても洋裝々身具より外にはありますまい。頭に、足に、手に、そして、それはスマートな感追性を以つて都市人の新感覺に呼びかけてゐます、寫眞は今春の魁を見せてゐるハイヒールにハンドバッグベレー帽ですがその新スタイルはけだし明るい意圖を感じるでせう

ピストル

ピストルを女が持つやうになつたのは、たしかにこのころのわるい傾向の一つだ、ハンドバッグの中に、コルト銃を、ポトンとひそませてあるのなんて、よくない。

戀人すこぶるそれが得意で、じきに出したがる。

『あたし、女ですから身を守らなければなりませんもの』

女は、いつも輕くヒキガネを押さへては、かういふ。けれど、その女が、ヒキガネを引いたといふ話は聞いたことはない。

『コムパクトが離せないのと同じにピストルも離せませんわ』

女は、よくさう言つて微笑した

すこし得意の微笑

『あの女、あのピストルで貞操を守つてゐるのかね』

僕は、ある友達に聞いた、すると友達は首をふつて

『何の何のあの女を君が、くどくなら、から言ひたまへ、ピストルのひきがねは明朝僕の胸に向つてひいて下さいとね』

『君も、さう言つたのか』

『勿論、女は僕にピストルを渡して一緒の部屋へ這入つたのさ』

ピストル。何だか、これぢや、ピストルが部屋の合鍵のやうな氣がする

朝寝

女に朝寝をされると男は暗い氣持ちになる、だが朝寝の女は益々殖えるとも、へらないであらう。

『あたし、どうして、から寝坊なのかしら？』

なんていふのは罪の淺い方である。女は朝寝の辯解にもテクニックを用ひる。

『どうして、さう朝起きられないんだい？困るなあ』

と言ふ問ひに答へて、ある女がから言つた。

『あら、あたしあなたに、そんなにとがめられるやうな事なくつてよ、あたしは昨夜からずつとあなたの夢を見てゐたの、今朝目がさめたんだけれど、あなたと一緒に街をあるいてゐる夢を、それつきりにして、しまふのがおしくなつたんで、又ねむつてしまつたのよ。あなた、あたしの心持ちがわからないて？』

から言はれては男は默つてゐるより、しかたがない。

おそろしく朝寝の女がゐた。その女のところへ毎朝フランス語を教へにくる先生がゐた。女は、先生が扉をノックすると、

『どうぞ』

と言つて、毛布を胸のところまでひきさげてベッドの上に身體を起こした。先生は這入つて來て女のベッドの下にちらばつてゐる女のヘヤーピンの數をかぞへた、女には無數、夜來て夜更けに歸つて行く男があつた。それを先生は知つてゐた。先生は、ちらばつてゐるヘヤーピンの數で、昨夜の戀人のメーターのほどを知つた。

『あまりつかれてゐらつしやるなら、今日はフランセは休みにしませう』

先生は、ピンをひろひながらいつた。……女は、幾日か後に、それに氣がついた。さうして女は、ブッツリとボッブにしてしまつた。翌日、先生がくると朝寝の女はいつた。

『先生、斷髪は朝寝坊で秘密のある女の人が考案したのでせうね』

戀愛

近代の女性は動いてゐるものが好きだ。

樹木より風を愛してゐる、これは活動をしてゐる男性に心を余計にひかれるといふ事にもなる。

女は時計を愛してゐる。

時計は動くからだ。

野球よりもラグビイ、水泳が好きなのは動いてゐるからだ。では猛烈に、心の動く男性を好きか？さアこいつはちよつとわからない

ポケット

僕は、女のポケットに非常に興味をもつてゐる。女のポケットが空であることはめづらしい。まアそんなことは皆無だ。いつも女のポケットには何か這入つてゐる、ことに職業婦人のポケットには、何か必ず這入つてゐる。僕は僕のところへ訪ねて來た婦人記者のポケットへ、そつと手を突つこんだ事がある。

鉛筆のけづりくづが一つまみ、乘換切符の古いのが一枚、鼻血の栓にしたらしいひねつた紙。安全ピンが一本。小型の二十錢の仁丹——これだけが這入つてゐた。僕は、その婦人記者と話しながら、順々に、部屋の中のあらゆるところから、それと同じものを、持つて來て、手の平の上にのせながら話したが、別に何も感じない樣子だつたから、ポケットのことなんかわすれてゐるのだらう。

又僕は、あるダンスホールで、あるダンサーのポケットをさぐつたことがある（ハチローなんて卑しい奴だと、さげすまないでくれ給へ）手にふれたのは、おあつらへむきに手紙だつた。

『いつたい、どんな奴が、どんな手紙を寄こしたのだらう』

僕は、それを持つたまゝ便所へとびこんだ。開いた。文句は月並だつたが、その日附をみて、びつくりしてしまつた。

一九三〇年七月廿日夜

としてある。二三年前の手紙を何だつて大事にしまつておくのだらう。待てよ、洗濯屋にも出したらうに——

僕は、いろいろと首をひねつた末に、からいふ事を考へだした。——女と洗濯屋は、ポケットを洗はないものである——又は、ポケットを氣にとめないものである

癖

首を曲げる癖。指をくむ癖。すぐに上目をつかふ癖。泣いてみる癖。鼻を鳴らす癖。——こんな平凡な癖から、齒石をかじる癖。カミソリで自分の腕を切る癖。なんていふよくない癖まで女位癖の多いものはない。

『困るね、君、君、そんなときに、頰べたに指をあてたりして』

ある場面をうつしてゐる時、カントクが、スターに、から言つた

するとスターは、

『あら、ごめんなさい、あたし、これが癖なんですもの』

とすましたものである。それでそのまゝ通つてしまつた。このスターは、御多聞にもれず非常に品行が惡かつた。所長が言つた。

『困るね、さう君のやうに、とりとめなく男から男へと移つては？』

するとスターは

『あらごめんなさい、あたし癖なんですもの』

笑話

=戀は盲目=

『君、彼女が僕を愛してないつて言ふ事がいよいよ分つたよ』

『なんだ、君、やつと今分つたのかい』

エピローグ

窓がある。

女は、その窓からいつも顔を出してゐた。さうしてけ言つた。

『いけすかないつて、ありやしない、みんなあたしを仰いでみて通るのよ』

女は、煙草を輪に吹いては、又窓から顔を出した、朝晝晩、いやもつともつと、その窓から顔を出した。さうしてその度に、

『いけすかないつたら、ありやしない、みんなあたしを仰いでみるんだもの』

と、吐き出すやうに言つたのである。

女は年をとつた。

水色の窓は、色あせて、よろひ戸は、あばら骨を痛めて、セキばかりするやうになつてしまつた。

女は、窓から外を眺めては言つた

『いけすかないつたら、ありやしない、誰もこつちを見やしないのさ』……（をはり）

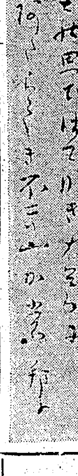
婦人は化粧美より健康美に還れ

醫學博士　岡田道一氏談

年頭に一ツ……若い婦人の特徴は溌剌として朗かでありしかも明るい健康美でありますが、この健康を保つにはどうすればよいかといひますと勿論平素の生活を規則正しくし適當な運動をして、常に心身の爽快を保つ事が第一の要件ですがなほこの他に日常の食物になるだけ多くの海草を食べる必要があります、海草類にコンブ、ワカメ等の中に多量のヨード分や石灰を含んでゐますからそれを攝ると體内の血行をよくし、新陳代謝を盛んにし、鬱血や老廢物を排出して清浄な血液の補充をします、そのため今まで皮膚に光澤がなく顔色が惡く弱々しかつた人でも海草を常用してゐると色艶がよくなつて生氣を增して來ます、即ち化粧によく一般的のものでなく眞の健康美を保つには海草を食べる事が最も効果的です又姙娠中に海草を常用すると海草に含まれてゐるヨード其他の成分のために胎兒の骨骼をよくし生まれ出た子供の歯を丈夫にします朝鮮などで産婦の見舞にコンブやワカメを持參する習慣がありますがこれも多年の經驗から海草のよい事を認められてゐるからです、海草類の食べ方は汁の實、ぬた、煮付、佃煮など色々に用ひられます、お互の健康と榮養のために努めて海草類を食べる事にしたいものです

新年始筆

今井邦子



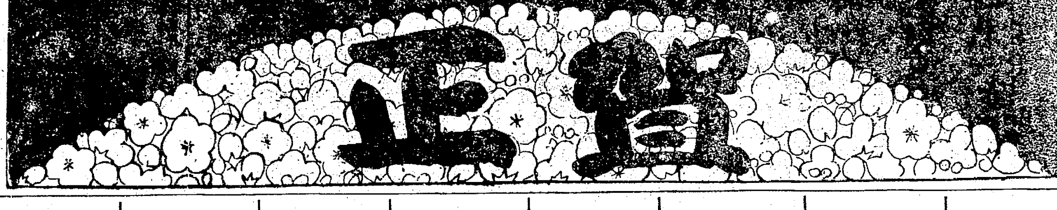
年頭所感

中原綾子

わたくしの願ひ此世のおほやけのあらまほしきも異らぬもの人すべてきことたのしく美しき心に仰ぐ初日なれかし

いとせめてこの世に罪あらせじと思ふ愛しき人の子のため太陽のひとつ光を身に享けて人あらそへりいたましゝ地上

思へらくわれはわが身の身の罪の生き甲斐ありて完かれかし



慶北慶山　安炳吉

大邱府會議員　山北光徳

慶山郡廳　職員一同

大邱憲兵隊　隊長　新見英夫

大邱郵便局　職員一同

慶北英陽　昭和倶樂部

慶山郡押梁面　高崎農園

高靈郡廳　職員一同

慶尚自動車組合　代表者　生部又一

清道郡守　金秉旭

清道郡　楡川麯子組合

大邱刑務所　職員三樂會

大邱府朝鮮酒造組合

大邱大和町　高木昌治

達城郡廳　職員一同

慶北郡安康　日浦廣治

聞慶　李炳稷

醴泉郡醴泉邑　李膺鉉

東咸郡義興　金焯

鬱陵島　片岡吉兵衛

慶北製紙業組合

迎日麯子製造株式會社　浦項

善山麯子組合

安東面長　金太元

安東邑内　金潤奎

後谷公立普通學校　軒原八十一

義興酒造株式會社

義興面長　朴埰植

義城　安溪面職員一同

安溪　加藤勝太郎

安溪　上平田金藏

鳳陽公立普通學校

義城　飛田彌吉郎

春陽面　李貞錫

長者公立普通學校　職員一同

安東小學校　職員一同

乃城公立普通學校

乃城面長　金正洙

乃城　申午均

奉化警察署員一同

乃城　鄭泰福

慶北線店村　丹後良市

大邱府元町　夏川分店

大邱府中央通　萬盛庵

大邱府田町　岡部電氣商會

⼈載德運送店　載德旅館

惠山線白岩　鐵道局建設係　小林佐一

茂山郡廳員一同

茂山面職員一同

茂山郵便局長　永井春生　電話三番

咸北茂山　理事　小田稔

茂山公立普通學校　校長　黑澤參男

咸北茂山　吉田屋旅館　電話四八番

御料理　梅月　電話一五番

惠山線合水　鐵道局建設係　赤司彦一

合水鐵道醫院　院長　盧鳳圭

惠山線載德　三木合資會社出張所

楠見組白岩出張所　主任　堀眞一

惠山線合水　御料理　千代本樓　はつは　鈴川　山月　御旅館　塚野旅館　合水館

茂山營林署　電話八番

咸北茂山驛江岸線構内　茂山製材所　電話二七番　電略モセ

惠山線・新陽坪　合名會社　盛陽社員詰所　主任　小澤角太郎

惠山線・合水　株式會社　間組出張所　主任　佐貫謙一　同　藤川松次

惠山線・列結水　株式會社　荒井組出張所　主任　石黑清治

洋畫巨篇を控へ 第一週は邦畫對陣

第二週マタハリ……オーバーゼヒルが異彩

年頭を飾るシネマ街

年頭を目指して以前より秘策をこらした府内各映畫常設館は年頭の新生面を目指―各館共に近年にないプロの編成を見せた。洋畫邦畫の大作が新年第二週に期せず激突、中央館に顔を見せ邦畫は第一週プロより各社の面貌を如何なく現した所謂超特作品を封切り府内新年の映畫街はこよなき明朗性を帯び先づ元旦の氣分をよくさせた今各館一二週の編成したプロを通じ年頭の紙上リーグを行ふと

フオックス 映畫『オーバー・ゼ・ヒル』發聲日本版 嘗つてサイレント時代に映畫化されたウイル・カールトンの詩をトーキー化したもので脚色はトム・バリイとジニールス・フアースマンの二人が當り、監督はヘンリー・キング重なる出演者はメエ・マーシエを始めジエームス・カークウッド、ジエームス・ダン、サリー・アイラース、エドワード・クランドール、オーリン・ハウランド、ジヨンピアース、ミレヤ・メイナード等でキヤメラはジョンサイツが撮影し、常し慈愛の自然療法術を如何なく運ぶ經過のものを第二週に廻して邦畫『神聖麝香猫』阪東妻三郎、鈴木澄子主演原作は吉川英治、東亞史のメガホンに依る大衆目標の作品に新興現代劇『彼女の運命』高田稔・入江慶子主演の戀愛勝利の物語りを組んで第一週中央館で三日迄上げる

メトロ映畫 『マタ・ハリ』發聲版原作はベンジヤミン・グレーザー・レオビリンスキー物をジヨージ・フイツモーリスが監督せる作品で素晴らしい宣傳にセンセーションを起し日活メトロ提携最初の封切ものである重なる出演者はグレタガルボ・ラモンナヴアロ・ライオネル、バリモア・ルイズ、ストーン等で世界大戰中の女間諜を描いた戀愛悲曲で、之を二週目に控て林不忘原作逃遊邪男のメガホンによる大河内傳次郎、伏見直枝主演『煩惱秘文書』を第一週のトリに持つて三日迄喜樂館が上げ、松竹の超特作發聲版として可成な成功を見せたサンライズの和譯原作脚色島津保次郎同じく監督作品

歡喜の一夜 岡讓二、川崎弘子主演朗らかな農村の描寫に物語りを運んでゐるものに長次郎もので大佛次郎原作、秋山耕作監督作品『鼠小僧次郎吉』を組み第一週を押す大正館は四日より差替り前二館の取組に歩を讓つた形ちで『傷惡魔のこがらし』『學生街の花形』オールトーキーで『女士族御命令』を上映する事になつてゐる又

東亞倶樂部 では一月二日の第一週を東活、長谷川伸原作で月形龍之助主演『助太刀辻講釋』瀧澤英輔監督作品に現代劇『クロール賭けて』大江秀夫監督作品を上げ三日より之を京龍館に廻し第二週を河部月形初顔合主演『三千世界陰樂毛』に東郷、藤間、南等の顔を揃へた現代劇『若いマドロス』を上映し前者二館に對峙してゐるから何れも邦畫は新年お祝儀興行として素晴らしいプロであり大物洋劇二本を控へた二館の攻防がフアンの動きと共に大きな期待を年頭興行街に投げてゐる

最善最良主義

日活常務 中谷頼貞氏談

新年を迎へて……邦畫のみならず、アメリカ第一流のメトロ映畫の獨占封切權を獲得し『マタ・ハリ』『ターザン』の封切、次いで『グランドホテル』の大作を封切らんとしてゐるのも、要は最善最良主義實踐の一片といひたい邦畫洋畫の第一級混成プログラムは、難波宣傳部長を迎へて新年戰術を驅使し堂々攻勢の陣を張つてのよき宣傳の下に本社支社の營業部の活動により諸彦に見えんとしてゐるトーキーに就ても、この最善最良主義をまとめ、近く發表の機運にある。日活會社は、今年度の映畫界にどんな地位を占めるか。それは此處ではいはない。たゞ我々の最善最良主義の實行を見守つて頂きたいのである

寫眞説明 （1）オーバー・ゼ・ヒル（發聲）（2）神聖麝香猫（3）マタ・ハリ（發聲）（4）煩惱秘文書（5）鼠小僧次郎吉（6）歡喜の一夜（發聲）（7）學生街の花形（8）彼女の運命（9）助太刀辻講釋

映畫界の豫斷

松竹キネマ專務 城戸四郎氏談

年頭に臨んで……今日の映畫は資本も相當に投ぜねば觀客の吸引力を保持することが出來なくなつた關係上プロダクションは必ず苦難の立場に置かれるであらう。但個作者の智能が著しく優れて小資本をもつによりてよく補ひ得るものゝみはプロダクションには例外である、自分もそういふ人があらはれることを心から願つて居るが今の處では見當らない。相當資本を擁する會社プロダクションと雖も徒らに既成俳優監督の爭奪に浮身をやつし自らその養成選出を怠らば必ず沒落の運命を辿るであらう。要は八年度は實力の時代になつて來た、空宣傳や内容なきものは近頃の如き鋭き洞察力を有する觀客にはドシ／＼見捨てられて眞面目なるものと然らざるものとが明瞭に區別されその差を大にして行く、映畫界にとつては好ましき年希望の年といへよう

八年度映畫界

新興キネマ社長 堤友次郎氏談

新春を迎へて……世界各國が已にサイレント時代を脱してトーキー化時代に進出し居るにも拘らず、獨り我が國にだけ、依然として、サイレント禮讃の傾向にあることが、行詰りの最大原因なりと、難ずるものがあるかも知れないが、それは、實狀を知らないものゝ空論であつて實際家の顧るべき問題ではない日本に於ては已にトーキー化すべき準備と技術は充分出來て居るのではあるが、現在我國の經濟力では到底之を消化するだけの能力をもたないのであるから年追擴我國のトーキー化は前途まだまだ遼遠のことであらう之を要するに、現在に於ける我國の映畫興行は、どうしてもスターにヴアリユがなかつたなれば皆駄目である。假令それが、トーキー、サイレントの何れにしても全然客を吸引する力をもたないのであるから、不振挽回の對策としては、先づ何をおいても素晴らしいスターを養成することに專念するのが一等效果的であると思ふ

トピック

お目出たう……先づ昨年の映畫街は内地日活、松竹のアツレキ話で暮のシーズンを興行價値づけて來たが……然してこれが今年に入つて如何なる姿勢でフアンの前に展開されるかに頗る又興行價値づけられてゐる譯だ

○

先づ年頭を斯界向上と云ふいとも美しき名目の下に在籍解説者の研究機關設置と宣傳部員の活躍（但しロだけ）機關設置を提唱して置きたい

○

何故なら解説等に至つては他都市に比較してあまりにもその……あまりにもであるからである宣傳部また然かりであると云へるからだ

○

年頭のトツ氣焔のトピックのみに止めたくない事であるが賛成者はありませんか……

◇

ピエル・ロチの『お蝶夫人』がダビツド・ベラスコにより劇化され、またプチニによつてオペラに作られてから今日までこの不朽の名作『お蝶夫人』に扮したヒロインは數多くの世界的名女優を網羅してゐるが、その中でも最も著名なものを擧げると ブランチ・イヴリン、ミラードルクレチア、ボリフ・ローレンス、イーストン・エミイ、デスチン・チエラルチン、フアラア三浦環女史、マーガレット・シニリダン、ルイチア・ヴイルラニ、クルシエニスキイなどであるが最も新らしい『お蝶夫人』は目下パラマウント社で現代化されて撮影されて居り、シルビア・シドニイが主役を勤めてゐる

◇

新進ラルフ・ベラミイはカセリン・ノオリスの小説を映畫化した『セコンド・ハンド・ワイフ』に主演中

◇

フオツクスで賣れ出したサリイアイラースは次回作品ロイド・コリガン監督の『チヤイアント・スウイング』でリカルド・コルテツ・ジエームス・ベルと共演する

◇

ジンヂヤー・ロージオースは『ロードウエイバツド』でラルフ・モルガン・ジヨン・ブロンデルと共演する爲め今回フオツクスに入社した

◇

久保監督は澀探キネマで第二回作品發聲ひではる原作の衛球ロマンス『日章旗の下』を梅三四郎、川島奈美子共演で年内完成の豫定で撮影を開始したと

的田雙六【35】

長谷川伸　（畫）藤井清

猪口の傘（五）

猪口になつた雨傘は元に窄める暇もなく雙六は、つかつかと、濡れ闇を冒して進んだ。

ぢつと据ゑた雙六の眼に映つたのは、一人を中にして刄で圍む三人の姿。

『おいッ！』

雙六が叫んだ、その聲は、良平ならば直ぐ聞き分けて、何とか反應がある筈だ。

果然、反應があつた。

『來てくがされただか』

良平の聲だ。安心なことにはその聲に露も恐怖がない、助けを求むる弱さだ微塵もない。

三人は、今までとは逆に、敵では一人超過してゐる雙六に、腹背に敵を受けた形ちに變化した。雙六には二人の白刄が備へられ、良平には一人の白刄が備へられた。

雙六は、猪口になつた傘をとツくに手放してゐた。雨は、敵と味方と五人の上に、音を立てゝ注いでゐた。

『名乘れ！』

と、雙六がいつた。

三人組は、沈默してゐる。

『名乘らぬか、何者だ？良平お前は、此人達の姓名を訊いたか』

雙六の問ひに良平は直ぐ答へた

『こいつ等、啞でござりますだ』

『さうか、貴殿等は決して後悔せぬか！』

相變らず三人組は沈默を守つてゐた。

銃 修繕　龍山元町一　玉井工場　龍山九三八

『この中に、女はゐないか』

雙六の質問を、風か雨と共に橫に吹き飛ばした。

『みんな男か三人とも武士かッ』

斷聲したので今度ははつきり聞こえた筈だ。が、三人は又しても答へなかつた、そのかはり良平が答へた。

『安心して斬るが良いだ。男ばかり、女は混つてをらぬだ』

『さうか――確に貴殿等は武士か名乘らずに死んで後悔せぬ人達か』

『……』

『拙者の家來を闇討しようとした人達だ、相違ないな』

『……』

『答へないな、さう見るぞ、いゝか！』

『……』

『聞をいふと、姓名が知りたい、さなくば顔が見たい。拙者の意中に決してある人達か否かそれ知つた上で斬りたいが、貴殿等は問へど答へてくれぬ、よつて、やむを得ず拙者は、名も知らず、顔も見ず三人ともに斬るより他ない！』

眼に見えぬ動搖が、三人組の間に起つてゐるらしく、光る刀が闇の雨にチラリとさまよひ初めた。

『拙者とて鬼でなし、無性に人が斬りたいのでもない。貴殿等は、だれに雇はれた、いや、雇はれたのか、雇はれずに加擔したのか、それだけでも聞いて置きたい』

やうやく三人組の一人が口をひらいた、吃々としてあまり明瞭でなかつた。

『拙者、頼まれた』

雙六は、思はず首肯いた。

『さもあらう。して次の貴殿は』

次の武士は答へなかつた。良平に對つてゐた一人は、やゝ明かに答へた

『頼まれた、が金銀で頼まれた以外に、武士として、もつともなりと存じてからに』

まだいはうとするのを良平が遮つた。

『もう澤山だ』

その一方では雙六が、もの云はぬ一人に肉迫しながら、又問ふてゐた。

『聲だけ出してくれ、男か女か知りたい』

『男だ！』

『えいッ！』

もの云はなかつた武士が肩を斬られた、あとの二人はそれを合圖の如く姿を消した、逃げたのか地に這つたか――。

時計・蓄音器保險附修繕　山岡時計修繕部　京城黄金町　電本二三四八

謹賀新年

忠南唐津 唐津互助會

扶餘郡恩山 戸田精米所　田中精米所

靑陽郡靑陽 土曜會

論山郡夫赤面 塚本德次郎

論山郡小學校長 外職員一同

金山郡望城面 信原精米所　河内精米所

湖南線江景 鶴田洋服店

江景農業倉庫 穗保文吉

扶餘郡公立學校長一同

扶餘郡扶餘 繁榮會

論山郡農會　畜産同業組合　森林組合　朝鮮酒酒造組合

扶餘郡窺岩面 富永光太郎

扶餘共榮自動車部 佐々木治右衞門

扶餘麴子製造合資會社 支配人 李秉直

扶餘郡恩山 繁榮會

論山郡 論山麴子株式會社 電話三一番

論山穀物商組合

論山郡 馬九坪水利組合

江景邑會議員

湖南線江景 繁榮會

論山郡公立普通學校 職員一同

湖南線江景 湖南病院 電話五〇番

湖南線江景 國武農場

湖南線江景 高島田機械店

湖南線江景 久我濟生堂

江景艀船組合

湖南線江景 江景印刷所

論山郡馬九坪學校組合 管理者 池田宇三郎

扶餘郡扶餘 本多勇盛

論山 高橋式三郎

湖南線論山不二興業駐在員 竹尾彌

湖南線江景 下條農場

江景學校組合會議員一同 管理者 坂上富藏

湖南線江景邑黄金町 高橋茂兵衞

普仁醫院 李範緯 扶餘郡鴻山

江景郵便局長 平石忠次

湖南線江景 岩正商店 電話一五八番

江景米穀商組合

扶餘郡窺岩里 細目精米所

扶餘郡窺岩面 雲井要太郎

湖南線夫赤面 尹曹炳

論山郡夫赤面 松本農場

湖南線論山東拓駐在員 出水田忠志

論山農業倉庫 宮本與藏

論山 鶴の屋旅館

金山郡望城面 野口精米所

湖南線江景 增田源三郎

湖南線江景 辯護士 岡忠孝 電話一八四番

湖南線江景 錦江運輸株式會社 電話一四四番

湖南線江景大田東拓駐在員 佐々木幸喜

湖南線江景 會席料理 高島屋

湖南線江景 朝鮮産業株式會社

裡里東拓江景駐在所 原田武雄

湖南線江景 島川精米所

忠清南道 穀物商組合聯合會

忠清南道郵便所長會 第五區 向上會

湖南線論山 土曜會

忠清南道錦江治水事務所 論山江景 工場一同

江景公立商業學校 校長 瀧正善 外職員一同

忠南江景 合名會社 荒卷酒釀造所 電話一二三 振替京城一四四八

論山自動車運輸株式會社 電話六一番 ◎代行店 合資會社 合同運送店 代表者 松永榮

湖南線江景上市場 米田農具店 電話五七番

南朝鮮電氣株式會社 江景出張所

湖南線江景 土曜會